

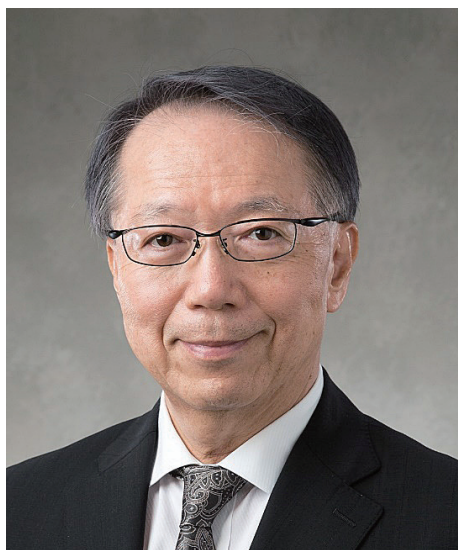
2022年度  
年 報

Annual Report 2022



医療法人  
JR 広島病院

## ご挨拶 ~withコロナ時代の二葉の里『詩書礼楽』~



JR広島病院2022年度の年報が完成いたしました。遅くなりましたが、そのご報告に際して病院長としてご挨拶申し上げます。

2022年も新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大に始まり、第6波、第7波、第8波とほぼ通年にわたって感染症診療に軸足をおくことを余儀なくされました。使命とはいえ献身的に対応した関係者に改めて敬意と感謝の意を表しますとともに、その一方で様々な非日常に今なお苦しまれておられる方々に心よりお見舞い申し上げます。

さて、2023年5月8日より感染症法上の取り扱いも変更されて、俗にいう『After/withコロナ時代』としてネオ・ニューノーマルに移行しつつあります。とはいえ、COVID-19感染者は現在も一定数（あるいは増加傾向で）発生していますので、引き続き緊張感をもって2023年度を乗り切りたいと考えております。そのさなかではありますが、JR広島病院の2022年度年報をお届けできることになりました。様々な出来事に次から次へと遭遇

する中、当院のすべての職員ならびに関係者が積み上げてきた実績を年報に認めて、当院ホームページにアクセスしてくださる皆さまと共有させていただきます。人間社会に生成AIが登場して、医療機関における環境も様変わりしつつありますが、当院が掲げる理念、『優しさと誠実な医療で更なる地域貢献をめざします』は些かも変わることはなく、その行動目標、①良質で安全な医療、②患者さんと共に築く医療、③健全な運営による医療の提供、を履行すべく日々努めています。その報告として年報にお目通し頂ければ幸いです。

『詩に興り、礼に立ち、楽に成る』（論語）、人は琴線に響く詩（ことば）に奮い立ち、礼（節）を学んで成長し、楽（教養）を身に着けて完成するそうです。未知のウイルスに遭遇して、人々からの応援（詩）に勇気付けられ、既存のワクチンが無いなか『知識』（礼）を頼みに新興感染症に向き合い、音楽や美術（楽）に癒されて、厳しい局面を乗り越えたことで、私たちは医療人として一段とステップアップしました。歴史の散歩道で名高い二葉の里で詩書礼楽を大切にしながら、2023年も地域基幹病院としての使命を果たしたいと存じます。

本年報が掲載されるころ、件の新病院構想が話題に挙がるでしょう。史跡に囲まれた文化の街で未来志向の医療に取り組む当院の動向に引き続きご注目ください。

どうぞ宜しくお願い致します。

2023年11月  
医療法人 JR広島病院  
理事長 病院長 田妻 進

# 目次

## I. 病院概要

■ 概要説明	4
■ 病院統計	9

## II. 各部門の概要

■ 消化器内科	14
■ 循環器内科	16
■ 呼吸器内科	20
■ リウマチ・膠原病内科	22
■ 外科・消化器外科・甲状腺外科	24
■ 人工透析外科	26
■ 人工透析センター	28
■ 整形外科	30
■ リハビリテーション科	32
■ 小児科	34
■ 皮膚科	35
■ 産婦人科	36
■ 泌尿器科	37
■ 眼科	39
■ 耳鼻咽喉科	41
■ 緩和ケア内科	42
■ 放射線科	43
■ 麻酔科	45
■ 病理診断科	46
■ 健診センター	47
■ 歯科口腔外科	50
■ 化学療法センター	51
■ 臨床検査科	52
■ 温熱療法室	56

■ 教育研修部	58
■ 看護部	60
■ 臨床工学室	62
■ 薬剤部	64
■ 栄養士室	67
■ 医療安全管理室	69
■ 感染対策室	71
■ 事務部	73
■ 地域医療連携室	74
■ 患者支援室	77

## III. 業績集

■ 2022年度	80
----------	----

## IV. 2022年度の動き

■ 2022年度 主な行事	95
---------------	----

# » I 病院概要

## 医療法人JR広島病院 (2023. 3. 31時点)

理事長	河本 昌志
病院名称	JR広島病院
所在地	〒732-0057 広島市東区二葉の里3丁目1-36
病床数	275床 (一般病棟214床、地域包括ケア病棟41床、緩和ケア病棟20床)
診療科	内科／消化器内科／循環器内科／呼吸器内科 リウマチ・膠原病内科／脳神経内科／外科・消化器外科・甲状腺外科／ 人工透析外科／整形外科／眼科／皮膚科／産婦人科／泌尿器科／ 小児科／耳鼻咽喉科／リハビリテーション科／麻酔科／放射線科／ 緩和ケア内科／病理診断科 (歯科口腔外科及び精神科：入院患者対応のみ)

## 沿革

大正 9年 5月	広島市松原町広島駅構内に広島鉄道治療所開設
昭和15年 6月	広島鉄道病院開院
昭和19年 3月	広島市大須賀町に新病院落成
昭和20年 8月	原爆投下により病院全壊
昭和24年 2月	広島市尾長町に病院新築
昭和25年 8月	日本国有鉄道広島管理局広島鉄道病院に組織改編
昭和38年 9月	広島市二葉の里に新病院落成
昭和43年 7月	臨床研修指定病院指定
昭和57年 4月	保険医療機関の指定
昭和57年 6月	二次救急病院指定
昭和62年 4月	西日本旅客鉄道株式会社発足により 西日本旅客鉄道株式会社広島支社広島鉄道病院に名称変更
平成10年 6月	日本医療機能評価機構認定
平成21年 7月	DPC対象病院認定
平成28年 1月	旧病院隣接地に新病院落成 (病床数275床)
平成28年 4月	医療法人JR広島病院設立 西日本旅客鉄道株式会社広島支社広島鉄道病院より事業継承 病院名を「JR広島病院」とする
平成30年 6月	日本医療機能評価機構「病院機能評価 (3rdG:Ver.1.1)」認定更新
令和 2年 3月	地域医療支援病院名称使用承認

## 病院理念

優しさと誠実な医療で更なる地域貢献をめざします

## JR広島病院の医療

### 1. 良質で安全な医療

常に専門的知識と技術を高め、医療水準の向上を図ることで、患者さんに良質な医療を提供します

### 2. 患者さんと共に築く医療

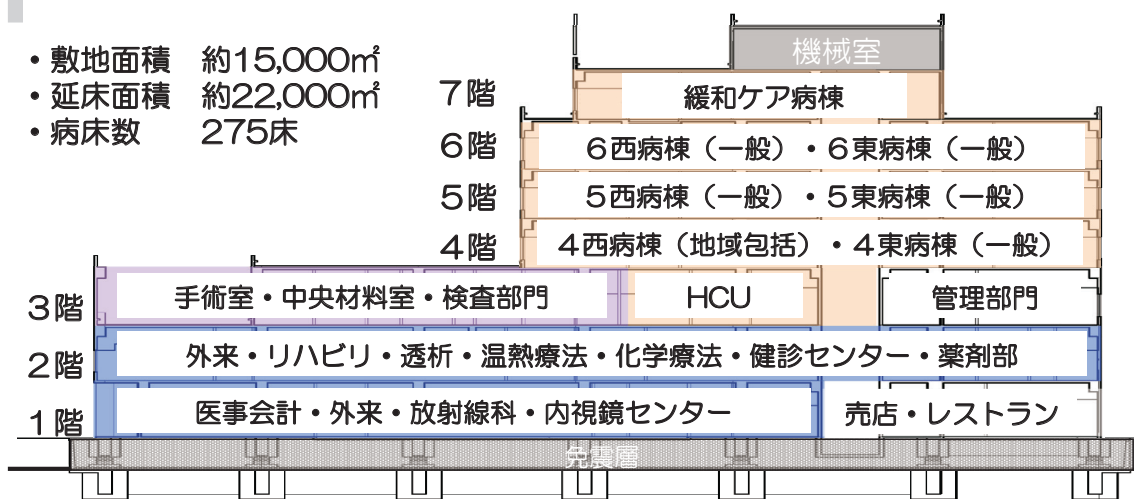
患者さんの意向に配慮し、より適切で最善な医療を提供していくための取り組みを推進します

### 3. 健全な運営による医療の提供

地域に根ざした健全な病院運営により継続的に医療を提供することで、地域における重要な使命を果たしていきます

## 病院フロアマップ

- 敷地面積 約15,000㎡
- 延床面積 約22,000㎡
- 病床数 275床



## 指定医療機関 (2022. 4. 1時点)

- 保険医療機関
- 被爆者指定医療機関
- 母子保健法（養育医療）指定医療機関
- 指定自立支援医療機関（更生医療・育成医療・精神通院医療）
- 労災保険指定医療機関
- 被爆者一般疾病医療機関
- 生活保護法及び中国残留邦人等支援法による指定医療機関
- 結核指定医療機関
- 地域医療支援病院
- 毒ガス障害医療実施医療機関
- 臨床研修指定病院
- 救急指定病院
- 病院群輪番制病院
- DPC対象病院
- 肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業指定医療機関
- 肝炎治療指定医療機関
- 難病指定医療機関
- 指定小児慢性特定疾病医療機関

## 研修施設等指定状況 (2022. 4. 1時点)

- 日本内科学会認定内科専門医教育関連施設
- 日本消化器病学会認定施設
- 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- 日本脈管学会認定研修関連施設
- 労災保険指定医療機関
- 日本外科学会外科専門医制度修練施設
- 日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設
- 日本がん治療認定医機構認定研修施設
- 日本整形外科学会専門医研修施設
- 日本泌尿器学会専門医制度研修施設
- 日本医学放射線学会放射線科専門医制度修練機関
- 日本麻酔科学会認定病院
- 日本臨床細胞学会認定施設
- 日本臨床細胞学会教育研修施設
- 日本病理学会登録施設
- 日本消化器内視鏡学会指導施設
- 日本消化管学会胃腸科指導施設
- 日本超音波医学会専門医研修施設
- 日本高血圧学会高血圧認定研修施設
- 日本透析医学会専門医認定施設
- 日本内分泌・甲状腺外科学会専門医認定施設
- 日本核医学会専門医教育病院
- 日本リウマチ学会教育施設
- 日本眼科学会専門医制度研修施設：一般研修施設
- 日本大腸肛門病学会認定施設
- 日本動脈硬化学会専門医認定教育施設
- 日本呼吸器学会認定施設
- 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設
- 日本緩和医療学会認定研修施設
- 日本肝臓病学会認定施設
- 日本病院総合診療医学会認定施設
- 脊椎脊髄外科専門医基幹研修施設

## 施設基準 (2022. 4. 1時点)

- 初診料（歯科）の注1に掲げる基準
- 一般病棟入院基本料
- 救急医療管理加算
- 診療録管理体制加算2
- 医師事務作業補助体制加算1
- 急性期看護補助体制加算
- 療養環境加算
- 重症者等療養環境特別加算
- 医療安全対策加算1
- 感染防止対策加算1
- 患者サポート体制充実加算
- ハイリスク妊娠管理加算
- 後発医薬品使用体制加算2
- 病棟薬剤業務実施加算1
- データ提出加算
- 入退院支援加算
- 認知症ケア加算
- 地域包括ケア病棟入院料2及び地域包括ケア入院医療管理料2
- 緩和ケア病棟入院料2
- 入院時食事療養／生活療養（Ⅰ）
- 外来栄養食事指導料の注2に規定する基準
- がん性疼痛緩和指導管理料
- がん患者指導管理料ロ
- がん患者指導管理料ハ
- がん患者指導管理料ニ
- 婦人科特定疾患治療管理料
- 二次性骨折予防継続管理料1・2・3
- 外来腫瘍化学療法診療料
- 連携充実加算
- ニコチン依存症管理料
- 開放型病院共同指導料
- がん治療連携指導料
- 肝炎インターフェロン治療計画料
- 薬剤管理指導料
- 医療機器安全管理料1
- 遺伝学的検査
- HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
- 検体検査管理加算（Ⅱ）
- 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
- 胎児心エコー法
- 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
- ヘッドアップティルト試験
- 内服・点滴誘発試験
- 画像診断管理加算2
- CT撮影及びMRI撮影
- 冠動脈CT撮影加算
- 心臓MRI撮影加算
- 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
- 外来化学療法加算1
- 無菌製剤処理料
- 心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
- 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅱ）
- 運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
- 呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
- がん患者リハビリテーション料
- 摂食機能療法の注3に規定する摂食嚥下機能回復体制加算
- 人工腎臓
- 導入期加算1
- 透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
- 下肢末梢動脈疾患指導管理加算
- 椎間板内酵素注入療法



- 緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））
- 緑内障手術（緑内障手術（流出路再建術（眼内法）及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術））
- 緑内障手術（濾過法再建術（needle法））
- 食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、及び膈腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、
- 経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
- 乳がんセンチネルリンパ節加算 2 及びセンチネルリンパ節生検（単独）
- ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
- 大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
- 内視鏡的逆流防止粘膜切除術
- 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
- 内視鏡的小腸ポリープ切除術
- 医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則の 16 に掲げる手術
- 輸血管理料 II
- 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
- 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
- 麻酔管理料（I）
- 周術期薬剤管理加算
- 病理診断管理加算 1
- 悪性腫瘍病理組織標本加算
- 口腔病理診断管理加算 1

# 病院統計

延患者数(入院)

【単位：人】

科名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
消化器内科	755	925	865	651	864	743	940	971	1,046	1,041	854	910	10,565
循環器内科	821	782	852	756	714	643	814	1,100	1,179	998	1,117	1,042	10,818
呼吸器内科	595	852	646	581	616	633	625	643	761	761	620	577	7,910
リウマチ・膠原病内科	47	131	86	160	217	126	122	168	149	192	87	130	1,615
外科・消化器外科	406	461	406	454	440	441	440	399	378	311	353	470	4,959
人工透析外科	199	112	143	153	203	127	80	111	177	275	216	265	2,061
整形外科(※)	1,013	988	1,127	1,012	825	1,126	1,056	1,188	999	1,046	1,020	923	12,323
小児科	40	34	68	96	64	31	49	30	39	29	31	58	569
皮膚科	100	96	148	186	151	153	124	89	38	87	125	87	1,384
産婦人科	4	0	7	23	8	0	14	10	10	14	29	23	142
泌尿器科	476	365	544	487	410	478	461	438	480	443	395	380	5,357
眼科	103	87	163	138	55	78	95	136	115	123	132	125	1,350
耳鼻咽喉科	55	28	69	45	29	52	35	65	40	55	73	34	580
緩和ケア内科	446	359	349	393	297	343	365	299	371	403	351	296	4,272
合計	5,060	5,220	5,473	5,135	4,893	4,974	5,220	5,647	5,782	5,778	5,403	5,320	63,905

1日当たり平均患者数(入院)

【単位：人】

科名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
消化器内科	25.2	29.8	28.8	21.0	27.9	24.8	30.3	32.4	33.7	33.6	30.5	29.4	28.9
循環器内科	27.4	25.2	28.4	24.4	23.0	21.4	26.3	36.7	38.0	32.2	39.9	33.6	29.6
呼吸器内科	19.8	27.5	21.5	18.7	19.9	21.1	20.2	21.4	24.5	24.5	22.1	18.6	21.7
リウマチ・膠原病内科	1.6	4.2	2.9	5.2	7.0	4.2	3.9	5.6	4.8	6.2	3.1	4.2	4.4
外科・消化器外科	13.5	14.9	13.5	14.6	14.2	14.7	14.2	13.3	12.2	10.0	12.6	15.2	13.6
人工透析外科	6.6	3.6	4.8	4.9	6.5	4.2	2.6	3.7	5.7	8.9	7.7	8.5	5.6
整形外科(※)	33.8	31.9	37.6	32.6	26.6	37.5	34.1	39.6	32.2	33.7	36.4	29.8	33.8
小児科	1.3	1.1	2.3	3.1	2.1	1.0	1.6	1.0	1.3	0.9	1.1	1.9	1.6
皮膚科	3.3	3.1	4.9	6.0	4.9	5.1	4.0	3.0	1.2	2.8	4.5	2.8	3.8
産婦人科	0.1	0.0	0.2	0.7	0.3	0.0	0.5	0.3	0.3	0.5	1.0	0.7	0.4
泌尿器科	15.9	11.8	18.1	15.7	13.2	15.9	14.9	14.6	15.5	14.3	14.1	12.3	14.7
眼科	3.4	2.8	5.4	4.5	1.8	2.6	3.1	4.5	3.7	4.0	4.7	4.0	3.7
耳鼻咽喉科	1.8	0.9	2.3	1.5	0.9	1.7	1.1	2.2	1.3	1.8	2.6	1.1	1.6
緩和ケア内科	14.9	11.6	11.6	12.7	9.6	11.4	11.8	10.0	12.0	13.0	12.5	9.5	11.7
合計	168.7	168.4	182.4	165.6	157.8	165.8	168.4	188.2	186.5	186.4	193.0	171.6	175.1

1日1人当たり平均単価(入院)

【単位：円】

科名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
消化器内科	47,048	46,744	46,881	49,718	51,061	47,370	45,926	47,520	46,266	44,481	44,703	44,473	46,725
循環器内科	49,446	50,493	54,824	46,333	55,671	53,010	55,531	51,053	53,673	53,498	50,111	56,418	52,547
呼吸器内科	59,197	51,302	53,563	58,811	64,673	59,933	53,248	52,262	58,777	62,679	54,482	53,220	56,799
リウマチ・膠原病内科	47,527	43,710	41,178	41,517	55,941	54,666	42,917	41,627	51,704	56,631	40,102	46,706	48,011
外科・消化器外科	77,482	80,501	77,832	81,672	78,822	80,771	84,018	68,364	69,043	74,073	75,985	76,470	77,373
人工透析外科	51,770	60,487	64,332	50,367	71,474	63,910	88,744	74,655	67,172	53,350	61,712	57,678	61,703
整形外科(※)	70,731	80,318	80,024	80,403	85,834	72,104	63,079	72,607	82,422	73,103	81,440	76,652	76,284
小児科	72,984	55,125	55,212	49,351	64,495	48,927	64,159	44,777	47,317	99,659	60,335	52,923	58,159
皮膚科	40,832	39,431	45,894	45,041	40,946	46,445	52,534	50,160	58,180	49,949	37,490	47,067	45,263
産婦人科	97,708	0	88,116	45,121	94,624	0	55,334	92,849	73,356	76,521	68,434	56,309	69,377
泌尿器科	71,010	76,092	64,880	70,083	76,889	69,903	80,354	75,866	71,277	72,839	75,833	78,321	73,251
眼科	120,782	115,168	113,978	120,086	122,432	114,643	120,406	122,695	114,273	107,738	119,093	125,961	117,978
耳鼻咽喉科	50,271	52,838	50,220	65,174	77,296	61,580	78,612	66,551	58,779	56,443	51,511	62,221	59,473
緩和ケア内科	49,527	53,626	53,212	51,502	48,585	50,812	48,727	49,487	50,500	47,297	48,013	50,687	50,151
合計	60,370	61,238	62,756	62,782	65,777	62,489	60,731	60,296	61,859	60,303	60,979	61,861	61,745

※ リハビリテーション科を含む

延患者数(外来)

【単位：人】

科名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
消化器内科	1,069	999	1,091	1,060	1,037	1,024	1,094	998	940	963	817	1,071	12,163
循環器内科	1,141	1,168	1,159	1,055	1,139	1,080	1,074	1,128	1,169	1,112	959	1,154	13,338
呼吸器内科	620	624	639	653	749	704	652	699	646	683	638	730	8,037
リウマチ・膠原病内科	297	340	336	376	381	329	310	344	324	341	303	372	4,053
外科・消化器外科	517	502	606	511	473	531	525	496	489	516	432	558	6,156
人工透析外科	1,125	1,138	1,135	1,129	1,230	1,150	1,147	1,189	1,167	1,098	1,023	1,152	13,683
整形外科(※)	1,163	1,134	1,297	1,185	1,109	1,198	1,103	1,083	1,167	1,036	1,055	1,196	13,726
小児科	412	391	421	556	572	399	511	575	582	438	395	559	5,811
皮膚科	562	538	683	673	693	683	577	658	622	536	549	618	7,392
産婦人科	241	227	277	268	255	269	269	222	246	184	223	298	2,979
泌尿器科	772	749	834	757	789	749	720	752	867	707	700	870	9,266
眼科	619	613	690	604	623	668	603	636	626	605	618	699	7,604
耳鼻咽喉科	390	394	450	414	446	427	380	408	388	392	381	501	4,971
緩和ケア内科	18	22	25	18	23	19	19	22	17	23	18	20	244
放射線科	192	193	235	215	186	185	226	196	198	182	188	221	2,417
麻酔科	25	18	26	17	24	16	17	23	19	15	19	31	250
脳神経内科	65	63	82	66	73	65	79	80	68	66	64	82	853
歯科口腔外科	666	671	738	660	620	597	615	629	701	540	622	672	7,731
合計	9,894	9,784	10,724	10,217	10,422	10,093	9,921	10,138	10,236	9,437	9,004	10,804	120,674

1日当たり平均患者数(外来)

【単位：人】

科名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
消化器内科	53.5	52.6	49.6	53.0	47.1	51.2	54.7	49.9	44.8	50.7	43.0	48.7	49.8
循環器内科	57.1	61.5	52.7	52.8	51.8	54.0	53.7	56.4	55.7	58.5	50.5	52.5	54.7
呼吸器内科	31.0	32.8	29.0	32.7	34.0	35.2	32.6	35.0	30.8	35.9	33.6	33.2	32.9
リウマチ・膠原病内科	14.9	17.9	15.3	18.8	17.3	16.5	15.5	17.2	15.4	17.9	15.9	16.9	16.6
外科・消化器外科	25.9	26.4	27.5	25.6	21.5	26.6	26.3	24.8	23.3	27.2	22.7	25.4	25.2
人工透析外科	56.3	59.9	51.6	56.5	55.9	57.5	57.4	59.5	55.6	57.8	53.8	52.4	56.1
整形外科(※)	58.2	59.7	59.0	59.3	50.4	59.9	55.2	54.2	55.6	54.5	55.5	54.4	56.3
小児科	20.6	20.6	19.1	27.8	26.0	20.0	25.6	28.8	27.7	23.1	20.8	25.4	23.8
皮膚科	28.1	28.3	31.0	33.7	31.5	34.2	28.9	32.9	29.6	28.2	28.9	28.1	30.3
産婦人科	12.1	11.9	12.6	13.4	11.6	13.5	13.5	11.1	11.7	9.7	11.7	13.5	12.2
泌尿器科	38.6	39.4	37.9	37.9	35.9	37.5	36.0	37.6	41.3	37.2	36.8	39.5	38.0
眼科	31.0	32.3	31.4	30.2	28.3	33.4	30.2	31.8	29.8	31.8	32.5	31.8	31.2
耳鼻咽喉科	19.5	20.7	20.5	20.7	20.3	21.4	19.0	20.4	18.5	20.6	20.1	22.8	20.4
緩和ケア内科	0.9	1.2	1.1	0.9	1.0	1.0	1.0	1.1	0.8	1.2	0.9	0.9	1.0
放射線科	9.6	10.2	10.7	10.8	8.5	9.3	11.3	9.8	9.4	9.6	9.9	10.0	9.9
麻酔科	1.3	0.9	1.2	0.9	1.1	0.8	0.9	1.2	0.9	0.8	1.0	1.4	1.0
脳神経内科	3.3	3.3	3.7	3.3	3.3	3.3	4.0	4.0	3.2	3.5	3.4	3.7	3.5
歯科口腔外科	33.3	35.3	33.5	33.0	28.2	29.9	30.8	31.5	33.4	28.4	32.7	30.5	31.7
合計	494.7	514.9	487.5	510.9	473.7	504.7	496.1	506.9	487.4	496.7	473.9	491.1	494.6

1日1人当たり平均単価(外来)

【単位：円】

科名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
消化器内科	15,867	17,894	17,650	17,352	18,258	18,602	15,090	17,708	16,819	19,466	17,789	17,349	17,456
循環器内科	11,061	10,719	11,000	10,799	10,866	11,134	10,563	11,365	12,144	11,521	11,882	10,817	11,151
呼吸器内科	14,165	15,089	15,906	17,767	15,482	17,744	17,677	19,184	19,053	19,855	20,506	19,988	17,734
リウマチ・膠原病内科	34,840	33,567	33,858	32,741	30,376	33,011	34,619	30,361	32,739	33,056	31,698	28,841	32,388
外科・消化器外科	28,088	30,612	28,977	31,030	36,800	32,827	30,801	32,672	31,995	32,373	32,487	33,620	31,784
人工透析外科	29,611	29,305	29,394	29,178	30,045	31,005	29,734	29,497	29,660	33,173	32,265	29,691	30,184
整形外科(※)	10,797	11,057	10,752	11,386	9,823	10,671	10,695	10,924	10,974	11,766	10,873	10,665	10,860
小児科	16,139	9,710	19,889	10,673	14,508	27,291	15,389	12,579	17,707	9,435	15,627	11,867	14,848
皮膚科	5,410	5,555	5,897	4,955	5,461	5,202	5,861	5,663	5,074	6,578	5,736	5,478	5,554
産婦人科	7,508	9,068	8,426	7,109	7,273	8,170	8,041	7,130	7,553	8,329	7,765	8,207	7,880
泌尿器科	19,766	21,803	20,079	21,821	20,808	20,842	27,529	30,748	30,204	27,741	26,382	23,733	24,254
眼科	13,893	14,529	14,231	12,340	17,033	18,676	18,797	16,335	13,534	17,821	16,645	14,748	15,707
耳鼻咽喉科	6,231	6,678	6,269	5,871	6,363	6,320	5,961	5,404	5,976	5,842	5,712	4,531	5,909
緩和ケア内科	5,955	4,084	4,415	7,006	5,227	5,257	7,669	5,054	6,729	6,400	6,814	5,428	5,751
放射線科	29,167	30,135	30,982	30,059	31,059	31,657	30,293	30,259	28,509	26,843	29,627	31,066	30,011
麻酔科	2,431	2,837	5,311	2,837	4,507	2,830	3,894	3,247	3,042	2,687	3,009	3,589	3,436
脳神経内科	5,449	6,004	6,614	6,340	6,197	6,072	6,453	3,502	5,563	6,015	10,065	3,908	5,944
歯科口腔外科	3,705	3,813	3,842	4,044	3,812	4,111	3,829	4,112	3,998	4,847	4,106	3,777	3,984
合計	15,818	16,381	16,228	16,202	16,889	17,559	17,065	17,464	17,563	18,316	17,593	16,484	16,947

※ リハビリテーション科を含む

科別集計

	入院			外来	紹介・逆紹介（※2）				救急患者			手術（※3）	
	新入院患者数	退院患者数	平均在院日数 （※1）	外来初診患者数	紹介件数	逆紹介件数	紹介率	逆紹介率	救急受入患者数	救急受診後入院患者数	救急車受入件数	手術件数	全身麻酔件数
	人	人	日	人	件	件	%	%	件	件	件	件	件
消化器内科	784	758	13.7	1,976	1,429	1,725	81.7	98.6	393	176	256	0	0
循環器内科	479	487	22.4	840	482	1,521	74.7	235.8	357	175	301	19	0
呼吸器内科	479	476	16.6	797	274	425	40.0	62.0	222	146	180	0	0
リウマチ・膠原病内科	79	78	20.6	434	131	121	37.9	35.0	132	35	87	0	0
外科・消化器外科	456	451	10.9	458	336	424	91.8	115.8	207	57	73	384	268
人工透析外科	121	127	16.6	121	87	466	89.7	480.4	78	34	46	72	7
整形外科（※4）	691	712	17.6	1,241	928	1,633	82.6	145.4	190	65	129	642	571
小児科	129	127	4.4	1,563	215	74	13.8	4.8	61	14	6	0	0
皮膚科	133	134	10.4	592	365	165	62.9	28.4	27	9	16	140	1
産婦人科	37	37	3.8	206	126	73	63.6	36.9	10	1	10	25	15
泌尿器科	685	673	7.9	629	519	563	86.1	93.4	97	38	48	383	317
眼科	578	578	2.3	585	527	594	90.1	101.5	42	1	0	804	3
耳鼻咽喉科	101	107	5.6	643	305	69	48.0	10.8	18	9	12	29	26
緩和ケア内科	114	154	31.9	89	85	14	98.8	16.3	14	14	13	0	0
放射線科	0	0	0	1,975	1,966	2,229	99.5	112.9	0	0	0	0	0
麻酔科	0	0	0	3	3	0	100.0	0.0	0	0	0	0	0
脳神経内科	0	0	0	14	14	33	100.0	235.7	0	0	0	0	0
歯科口腔外科	0	0	0	1,196	0	3	0.0	0.3	0	0	0	0	0
合計	4,866	4,899	13.1	13,362	7,792	10,132	62.6	81.4	1,848	774	1,177	2,498	1,208

※1 病床稼働状況を把握する統計として集計（施設基準による計上とは異なる。）

※2 地域医療支援病院における紹介率、逆紹介率の計算方法

※3 手術室実施件数

※4 リハビリテーション科を含む

月別集計

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
新入院患者数	人	370	422	459	395	425	377	398	397	410	411	395	407	4,866
退院患者数	人	413	383	458	432	396	397	372	390	446	365	405	442	4,899
平均在院日数	日	12.9	13.0	11.9	12.4	11.9	12.9	13.6	14.4	13.5	14.9	13.5	12.5	13.1
外来初診患者数	人	1,084	1,137	1,245	1,195	1,284	1,055	1,030	1,085	1,186	1,045	929	1,087	13,362
紹介件数	件	634	657	794	648	606	570	619	647	701	596	601	719	7,792
逆紹介件数	件	828	810	917	842	783	811	820	785	872	742	828	1,094	10,132
紹介率	%	62.8	62.3	67.9	58.4	50.5	58.6	63.9	63.1	63.8	63.5	68.9	70.5	62.6
逆紹介率	%	82.0	76.9	78.4	75.9	65.3	83.4	84.7	76.5	79.3	79.0	95.0	107.3	81.4
救急受入患者数	件	145	161	141	173	171	164	126	122	170	210	121	144	1,848
救急受診後入院患者数	件	55	71	54	49	71	59	67	53	83	84	56	72	774
救急車受入件数	件	88	92	92	99	100	103	86	80	123	131	77	106	1,177
手術件数	件	182	186	241	221	186	210	206	228	203	200	213	222	2,498
全身麻酔件数	件	93	100	117	99	100	99	96	106	101	101	96	100	1,208

【参考】過去5ヶ年 統計

		単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
入院患者数、単価	延患者数	人	75,679	74,996	71,492	62,976	63,905	
	1日当たり平均患者数	人	207.3	204.9	195.9	172.5	175.1	
	1日1人当たり平均単価	円	52,262	51,554	55,009	60,961	61,745	
外来患者数、単価	延患者数	人	128,847	129,513	119,474	121,657	120,674	
	1日当たり平均患者数	人	528.1	535.2	489.6	500.6	494.6	
	1日1人当たり平均単価	円	13,252	14,245	14,829	15,331	16,947	
その他統計	入院	新入院患者数	人	5,469	5,377	5,103	4,682	4,866
		退院患者数	人	5,469	5,376	5,108	4,688	4,899
		平均在院日数	日	13.8	13.9	14.0	13.4	13.1
	外来	外来初診患者数	人	14,989	14,589	12,211	12,878	13,362
	紹介、逆紹介	紹介件数	件	7,515	7,798	7,584	7,682	7,792
		逆紹介件数	件	9,982	10,119	9,740	9,862	10,132
		紹介率	%	54.2	57.3	66.5	63.8	62.6
		逆紹介率	%	72.0	74.4	85.4	81.9	81.4
	救急患者	救急受入患者数	件	2,370	2,095	1,815	1,771	1,848
		救急入院患者数	件	865	791	793	729	774
		救急車受入件数	件	1,109	1,010	987	1,083	1,177
	手術	手術件数	件	2,228	2,205	2,282	2,337	2,498
		全身麻酔件数	件	952	1,013	1,097	1,173	1,208

## » II 各部門の概要

# 消化器内科

## 医師紹介

2022年度在籍医師

### 副院長

**三重野 寛** 1980年卒

Hiroshi Mieno

消化器疾患、内視鏡診断・治療、IBS、GERD

医学博士

日本消化器病学会専門医

日本消化器内視鏡学会認定医

日本内科学会指導医

広島大学医学部臨床教授

### 消化器内科主任部長

**峠 誠司** 1984年卒

Seishi Tao

消化器疾患（肝・胆・膵）

医学博士

日本消化器病学会専門医

日本消化器内視鏡学会専門医

日本内科学会認定内科医

### 救急センター主任部長

**吉田 成人** 1992年卒

Shigeto Yoshida

消化器・消化管疾患、消化管癌、  
炎症性腸疾患、ヘリコバクター感染症、  
超音波内視鏡検査、内視鏡治療

医学博士

日本消化器内視鏡学会専門医・指導医・学術評議員

日本消化器病学会専門医・指導医・学会評議員

日本消化器がん検診学会認定医・指導医・代議員

日本消化管学会胃腸科認定医・胃腸科専門医・胃腸科指導医

日本ヘリコバクター学会 H. pylori（ピロリ菌）感染症認定医

日本内科学会認定医・総合内科専門医・認定施設指導医

日本がん治療認定医機構がん治療認定医

日本医師会認定産業医

広島卒後臨床研修ネットワーク指導医

緩和ケア研修会修了

広島大学医学部臨床教授

広島大学ナノデバイス研究所客員教授

## 部長

**山科 敬太郎** 1998年卒

Keitaro Yamashina

消化器疾患（肝臓疾患）

医学博士

日本消化器病学会専門医

日本内科学会総合内科専門医

日本肝臓学会肝臓専門医

**大原 英司** 2002年卒

Eiji Ohara

消化器疾患（胃・大腸）

医学博士

日本内科学会認定医

総合内科専門医・指導医

日本消化器内視鏡学会専門医・指導医

日本消化器病学会専門医・指導医

日本消化管学会胃腸科認定医・専門医・指導医

日本肝臓学会専門医・指導医

日本ヘリコバクター学会 H. pylori感染症認定医

日本がん治療認定医機構がん治療認定医

緩和ケア研修会修了

## 診療内容

質の高い医療を提供。

内視鏡は低侵襲な手段の1つです。

消化器内科は、5人の専門医で構成しております。消化器を中心に、一般内科を行っております。柱となるのは、消化管を中心とした内視鏡による診断と治療、そして肝胆膵も含めたがんの診療の2つです。エビデンスの確立した普遍的な診断・治療を、安全・確実かつ低侵襲に実施することを使命としています。食道・胃・十二指腸・小腸・大腸の診断と治療は、内視鏡センターを中心に低侵襲で質の高い医療を提供しています。内視鏡検査の件数は年間7000件を超えています。早期胃がん、早期大腸がんなどに対する内視鏡治療（内視鏡的粘膜下層剥離術、内視鏡的粘膜切除術）にも注力しており、手術が必要な消化器悪性疾患（癌、肉腫など）については外科と連携して治療を行っております。

また、過敏性腸症候群などの消化管機能障害、ヘリコバクターの除菌、超音波内視鏡検査なども専門としています。その他、胆道や膵臓疾患、肝臓疾患などにも最新の治療技術を取り入れ、総胆管結石に対する内視鏡的採石術（内視鏡的乳頭切開術、内視鏡的乳頭バルーン拡張術）な

ども実施しています。さらに、C型慢性肝炎に対するインターフェロンフリー治療は、多くの治療経験を持っています。

切除不能ながんに対しては、患者さんの体力や年齢を考慮して化学療法を行ったり、苦痛除去を行っています。膵臓がんや胆管がんによる閉塞性黄疸に対するステント治療なども実施しています。その他、新薬の治験にも積極的に参加しています。

また、当院のみでは実施が困難な学際的治療については、広島大学病院などの基幹病院と連携して行っています。引続き地域の皆さまの役割に立てるよう取り組んでまいります。

## 診療実績

### 1. 診断群分類別患者数等

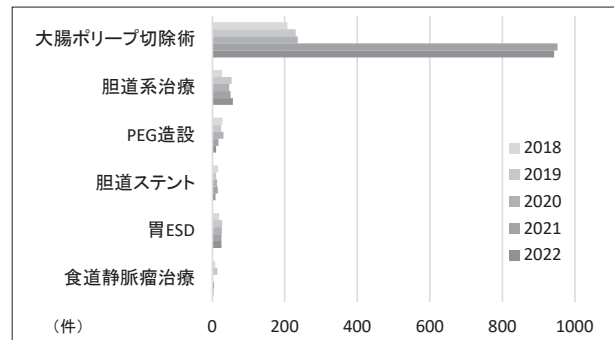
DPCコード	DPC名称	症例数
060100xx01xxxx	小腸大腸の良性疾患（良性腫瘍を含む。）内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術	213
06007xxx9908xx	膵臓、脾臓の腫瘍 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2-8あり	28
060102xx99xxxx	穿孔又は膿瘍を伴わない憩室性疾患 手術なし	25
060210xx99000x	ヘルニアの記載のない腸閉塞 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2なし 定義副傷病なし	24
060340xx03x00x	胆管（肝内外）結石、胆管炎 限局性腹腔膿瘍手術等 手術・処置等2なし 定義副傷病なし	24

消化管を中心とした内視鏡による診断と治療、肝胆膵を含めたがんの診療、ウイルス性肝疾患、IBDの診断・治療など消化器疾患全般の診療を行っています。ガイドラインに基づいた、安全かつ確実な診療を行っています。中でも柱となっているのは、内視鏡センターにおける食道から大腸までの診断と治療です。早期胃癌、早期大腸癌に対する内視鏡的治療（内視鏡的粘膜切除術、内視鏡的粘膜剥離術）を日々行っています。また、胆・膵に対する内視鏡的治療も年々増加してきています。外科的手術が必要な患者さまに対しては外科と緊密な連携をして治療を行っています。手術適応のない患者さんには積極的に化学療法を行っており、近接する広島がん高

精度放射線治療センター（HIPRAC）と連携をとり、手術前後の放射線治療も行っています。

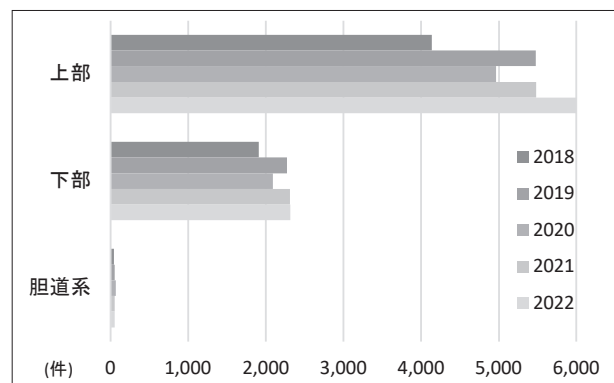
### 2. 消化器内科治療件数

	2018	2019	2020	2021	2022
大腸ポリープ切除術	207	230	236	952	943
胆道系治療	27	53	47	50	57
PEG造設	28	24	31	17	11
胆道ステント	16	11	13	15	9
胃ESD	19	27	26	25	25
食道静脈瘤治療	8	14	2	5	3



### 3. 消化器内科検査件数

	2018	2019	2020	2021	2022
上部	4,137	5,474	4,962	5,479	5,997
下部	1,907	2,271	2,089	2,308	2,316
胆道系	41	50	64	51	50





# 循環器内科

## 医師紹介

2022年度在籍医師

### 循環器内科主任部長

#### 寺川 宏樹 1990年卒

Hiroki Teragawa

循環器疾患（虚血性心疾患、心不全、末梢血管疾患）

医学博士

日本内科学会認定内科医

日本内科学会総合内科専門医

日本循環器学会専門医

日本心血管インターベンション治療学会専門医

日本核医学学会専門医

日本高血圧学会専門医・指導医

日本超音波学会超音波専門医・指導医

日本脈管学会脈管専門医・指導医

日本動脈硬化学会動脈硬化専門医・指導医

心臓リハビリテーション指導士

日本救急医学会（ICLS）ディレクター

日本内科学会救急JMECCディレクター

AHA・BLS・ACLSディレクター

AMLSインストラクター

PUSH認定インストラクター

心電図検定第1級

広島卒後研修ネットワーク指導医

厚生労働省医政局長臨床研修指導医講習会修了

身体障害者福祉法指定医師（心臓機能障害）

日本心臓病学会心臓病上級臨床医（FJCC）

Fellow of American College of Cardiology（FACC）

Fellow of American College of Physician（FACP）

Fellow of American Heart Association（FAHA）

Fellow of American Society of Nuclear Cardiology（FASNC）

Fellow of Society for Cardiovascular Angiography and Interventions（FSCAI）

Fellow of European Society of Cardiology（FESC）

広島大学医学部臨床教授

### 部長

#### 内村 祐子 2001年卒

Yuko Uchimura

循環器一般

医学博士

日本内科学会認定内科医

日本循環器学会専門医

日本内科学会総合内科専門医

### 部長

#### 大下 千景 2004年卒

Chikage Oshita

循環器一般、超音波検査

医学博士

日本内科学会認定内科医

日本内科学会総合内科専門医

日本循環器学会専門医

日本超音波学会超音波専門医・指導医

日本周術期経食道心エコー認定委員会認定医

心エコー図専門医

### 診療内容

2022年度は4人（健診センター医師を含む）で循環器診療に当たることになりました。つねに「患者さんにより質の高い診断・治療を提供する」とモットーにしております。

虚血性心疾患領域では、スクリーニングとして320列心臓CT検査、負荷心筋シンチグラフィを実施します。それらの検査で疑わしい場合には入院のうえ冠動脈造影検査を行い、適応を判断したうえで経皮的冠動脈インターベンション治療を行います。急性心筋梗塞などの急性冠症候群に対しては24時間緊急カテーテル検査の体制を整えています。近年、冠動脈に有意狭窄を認めない心筋虚血（Ischemia with non-obstructive coronary artery disease, INOCA）の原因として、冠攣縮性狭心症（Vasospastic angina, VSA）や冠微小循環障害（Coronary microvascular dysfunction, CMD）が注目されるようになってきました。当院ではこれらのINOCAの原因をはっきりさせるため冠攣縮誘発試験や冠動脈微小循環の評価する検査を積極的に施行しています。

高齢化に伴い心不全患者さんが増加しています。緊急の処置が必要な急性心不全患者にも対応しております。多種多様な心不全の原因を検索し、可能な限り原因を見つけ治療するようにしています。また、再入院予防を目的とした心臓リハビリテーションを積極的に導入し、2022年度には心不全管理のツールとしてハートノートも導入しています。

そのほか、高血圧（原発性アルドステロン症といった2次性高血圧を含む）、末梢動静脈疾患、徐脈性不整脈の循環器疾患にも幅広く対応させて頂いております。徐脈性不整脈に対する治療の1つにペースメーカー治療がありますが、2022年度にはリードレスペースメーカーの植込

みも開始しています。家族性高コレステロール血症については、金沢大学に依頼して遺伝子検査を行っています。

## 2022年度に参加したレジストリ・臨床研究・治験

### 学会関連

日本心血管インターベンション治療学会：J-PCI、J-EVT/SHD

### 冠動脈疾患

- ・大動脈内視鏡により観察された大動脈壁動脈硬化と臓器障害の関連を検討するレジストリー研究（DREAM NOGA）

### 糖尿病

- ・PROTECT study：糖尿病患者におけるSGLT2阻害剤の動脈硬化に及ぼす影響の検討
- ・PROCEED：腎機能障害を有する糖尿病患者に対するSGLT2阻害剤の血管内皮機能に及ぼす影響

### 尿酸低下薬を用いた研究

- ・PRIZE studyサブ解析：高尿酸血症患者に対する尿酸低下薬による酸化マーカーに及ぼす影響

### 脂質に関連する研究

- ・中性脂肪高値の冠動脈疾患に対する中性脂肪改善薬による血管内皮機能改善効果の検討（PRIME研究）

### 心不全

- ・心不全の発症・重症化の高精度予測とそれに基づく最適な治療法の開発のための心不全レジストリ（JROAD HF NEXT）
- ・うっ血を有する心不全患者に対する五苓散による予後の改善効果の検討（GOREISAN-HF）
- ・うっ血を有する心不全患者に対する早期サクビトリアル・バルサルタン投与の有用性の検討（PREMIER研究）

### 慢性腎臓病

- ・顕性の蛋白尿を有する患者への尿蛋白改善を目的とした治験（FLAIR study）

### その他

- ・血圧脈波検査装置TM-2772（ヘルスクロノス）により計測される動脈の弾性特性指標の開発と、その臨床的意義の検討－動脈の弾性特性

指標開発と臨床的意義－

- ・SELECT試験：動脈硬化病変を有する患者のGLP-1作動薬の長期予後
- ・Janssen RSV3007試験：成人に対するRSウイルスワクチン
- ・DS5670-103試験：COVID-19に対するワクチンの非劣性試験

## 診療実績

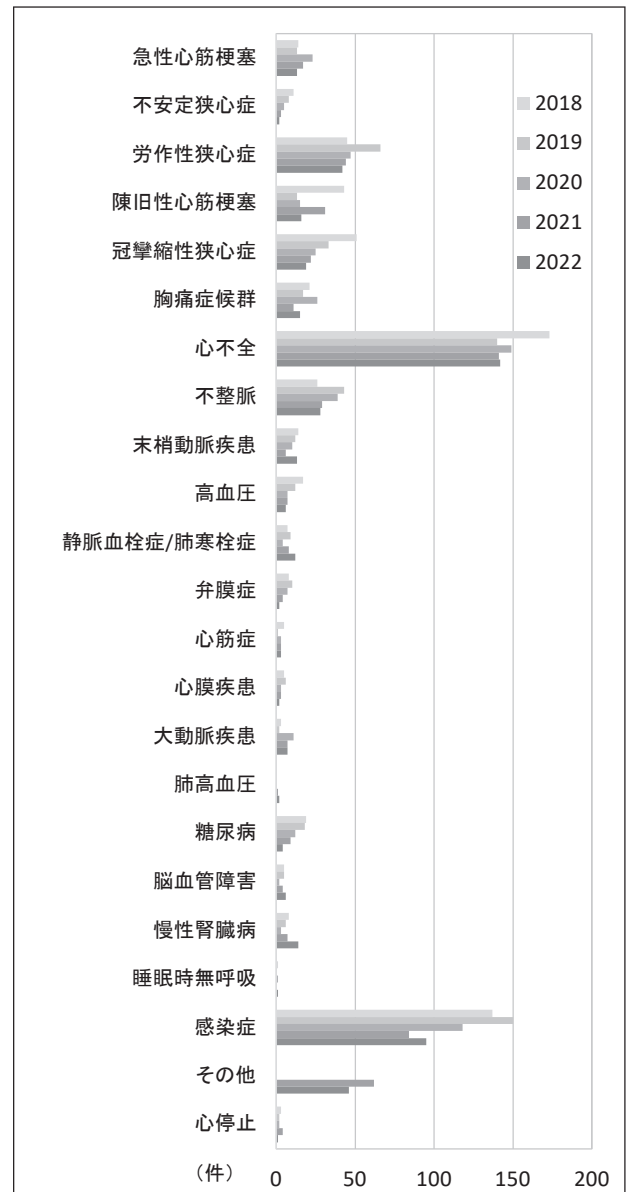
### 1. 診断群分類別患者数等

DPCコード	DPC名称	症例数
050050xx9920x0	狭心症、慢性虚血性心疾患手術なし手術・処置等1-2あり手術・処置等2なし重症度等他の病院・診療所の病棟からの転院以外	53
050130xx9902xx	心不全手術なし手術・処置等1なし手術・処置等2-2あり	49
050130xx9900x0	心不全手術なし手術・処置等1なし手術・処置等2なし重症度等他の病院・診療所の病棟からの転院以外	45
040081xx99x0xx	誤嚥性肺炎手術なし手術・処置等2なし	27
050210xx97000x	徐脈性不整脈手術あり手術・処置等1なし、1,3あり手術・処置等2なし定義副傷病名なし	15

虚血性心疾患には、現病歴を詳細に聴取した上で、スクリーニング検査として運動負荷心電図、心臓CT検査（320列）、薬物負荷心筋シンチグラフィなどの検査を実施しています。その上で虚血性心疾患が疑わしい場合には、入院のうえ冠動脈造影検査を行っています。冠動脈造影検査では器質的狭窄の評価を行いますが、中等度狭窄の場合には圧ワイヤーを用いた冠血流予備量比（fractional flow reserve: FFR）の測定を行い、経皮的冠動脈インターベンションの適応を評価しています。また、安静時、特に夜間から早朝にかけて胸痛が生じる冠攣縮性狭心症は、男性のみならず女性にも多い疾患です。現病歴からその合併が疑わしい場合には冠攣縮誘発試験を行い確定診断をつけるように心がけています。近年、高齢化に伴い心不全の患者さんが増加しています。緊急処置が必要な急性心不全にも対応し、その上で多様な心不全の原因を検索し可能な限り原疾患を治療するようにしています。

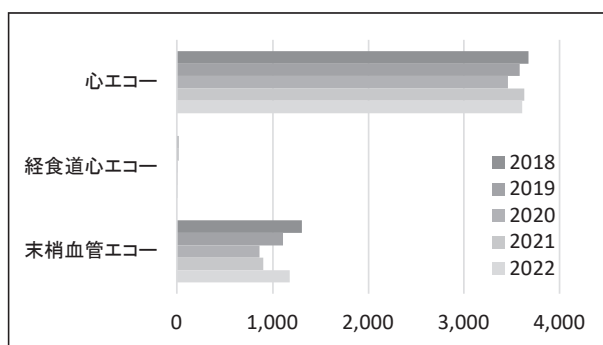
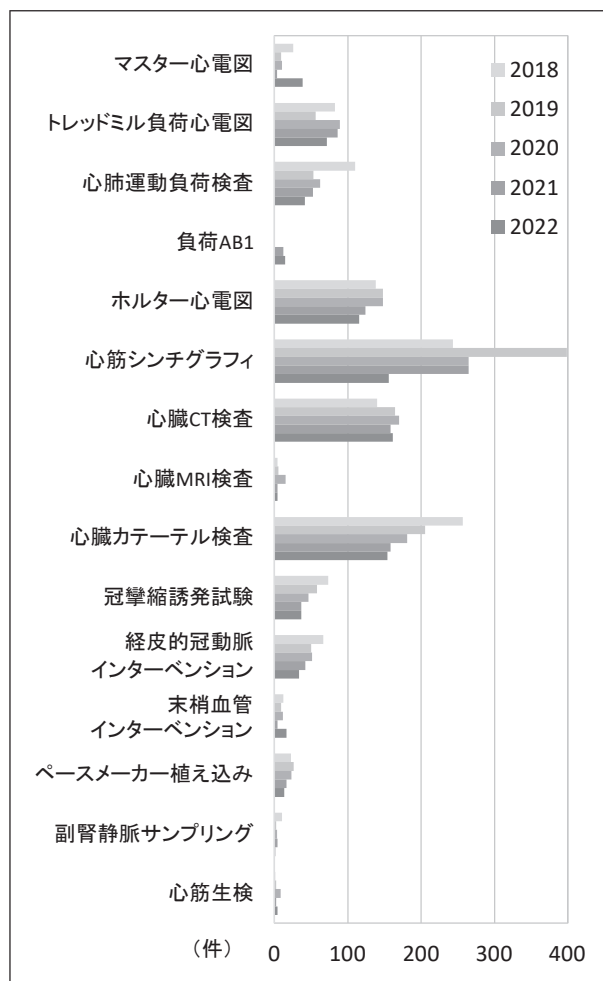
## 2. 疾患別入院患者数

	2018	2019	2020	2021	2022
冠動脈疾患	185	150	141	128	109
急性心筋梗塞	14	13	23	17	13
不安定狭心症	11	8	5	3	2
労作性狭心症	45	66	47	44	42
陳旧性心筋梗塞	43	13	15	31	16
冠攣縮性狭心症	51	33	25	22	19
胸痛症候群	21	17	26	11	15
心不全	173	140	149	141	142
不整脈	26	43	39	29	28
末梢動脈疾患	14	12	10	6	13
高血圧	17	12	7	7	6
静脈血栓症/肺塞栓症	7	9	4	8	12
弁膜症	8	10	7	4	2
心筋症	5	1	3	3	3
心膜疾患	5	6	3	3	2
大動脈疾患	3	2	11	7	7
肺高血圧	0	0	0	1	2
糖尿病	19	18	12	9	4
脳血管障害	5	5	2	4	6
慢性腎臓病	8	6	3	7	14
睡眠時無呼吸	1	0	1	0	1
感染症	137	150	118	84	95
その他	3	2	2	62	46
心停止	3	2	2	4	1
合計	623	566	512	507	494



### 3. 循環器内科検査数

	2018	2019	2020	2021	2022
運動負荷心電図	217	118	161	153	164
マスター心電図	25	9	10	3	38
トレッドミル負荷心電図	82	56	89	86	71
心肺運動負荷検査 (CPX)	110	53	62	52	41
負荷AB1				12	14
ホルター心電図	138	148	148	124	115
エコー検査	4993	4704	4323	4537	4792
経胸壁心エコー	3676	3582	3458	3628	3606
経食道心エコー	14	13	5	7	5
末梢血管エコー (頸、腎、下肢)	1303	1109	859	900	1179
負荷心エコー	2	0	1	2	2
心筋シンチグラフィ	243	399	265	265	156
心臓CT検査	140	164	170	158	161
心臓MRI検査	4	5	15	4	4
心臓カテーテル検査	257	205	181	158	154
冠攣縮誘発試験	73	58	46	36	36
経皮的冠動脈インターベンション	66	50	51	42	33
末梢血管インターベンション	12	9	11	4	16
ペースメーカー植込み	22	26	23	16	13
副腎静脈サンプリング	10	2	3	4	1
心筋生検	1	2	8	2	4



# 呼吸器内科

## 医師紹介

2022年度在籍医師

### 呼吸器内科主任部長

#### 峠岡 康幸 1989年卒

Yasuyuki Taooka

##### 呼吸器疾患、内科、総合診療

医学博士  
島根大学医学部臨床教授  
米国胸部疾患専門医会上級会員 (FCCP)  
米国内科学会上級会員 (FACP)  
日本内科学会認定医・総合専門医・指導医  
日本呼吸器学会専門医・指導医  
日本アレルギー学会専門医・指導医  
日本リウマチ学会専門医・指導医  
日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医  
日本病院総合診療医学会認定医・特任指導医  
日本専門医機構・総合診療科特任指導医  
日本化学療法学会抗菌化学療法認定医、  
ICD制度協議会認定ICD（感染制御認定医）  
日本環境感染学会災害感染制御チーム（DICT）  
日本結核・抗酸菌症学会認定医  
肺がんCT検診認定医  
がん治療認定機構認定がん治療認定医  
広島県 身体障害者福祉法指定医（呼吸器機能障害）  
広島県難病認定指定医  
広島県緩和ケア研修会修了  
日本医師会医療安全推進者養成講座受講修了  
日本医学教育学会認定クリニカル・クラークシップ・  
ディレクター研修修了

### 部長

#### 稲田 順也 1997年卒

Junya Inata

##### 呼吸器疾患とくに肺癌、内科

医学博士  
日本内科学会認定医・指導医  
日本呼吸器学会専門医・指導医  
がん治療認定機構認定がん治療認定医  
広島県 身体障害者福祉法指定医（呼吸器機能障害）  
広島県 緩和ケア研修会修了  
広島県難病認定指定医

### 医長

#### 川本 数真 2016年卒（2023年3月31日転出）

Kazuma Kawamoto

##### 呼吸器疾患とくに気管支喘息、COPD、内科

日本内科学会会員  
日本呼吸器学会会員  
日本アレルギー学会会員  
日本肺癌学会会員  
広島県 緩和ケア研修会修了

## 診療内容

当科は、広島市東部の地域医療に貢献するために、3名の常勤医全員が内科外来診療、緊急診療、入院診療、当直業務に対応しています。当科の入院患者の内訳は、COVID-19を含む感染症が40%、腫瘍性疾患が15%、気管支喘息・COPD・間質性肺炎が20%前後、睡眠時無呼吸症候群（PSG検査入院）が5%、内科救急疾患が20%です。また、当科は日本呼吸器学会教育認定施設および日本アレルギー学会教育認定施設として、学会が推奨する治療ガイドラインに準拠した標準的な呼吸器疾患の診療に取り組んでいます。呼吸器外科医が不在であるため、気胸や肺癌など外科的治療が必要な場合には、専門施設への紹介を含むサポートを行っています。肺癌に対して放射線治療が必要な場合には、HIPRACと協力して治療に取り組み、化学療法については外来通院や入院での投薬を行っています。当科では通常の外来診療に加えて、禁煙外来、睡眠時無呼吸症候群外来、毒ガス障害者後遺症外来、糖尿病外来（広島大学病院の非常勤医師による）を実施しています。

## 診療実績

### 1. 診断群分類別患者数等

DPCコード	DPC名称	症例数
040081xx99x0xx	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等2なし	47
040110xxxxx0xx	間質性肺炎 手術・処置等2なし	37
040150xx99x0xx	肺・縦隔の感染、膿瘍形成 手術なし 手術・処置等2なし	13
110310xx99xxxx	腎臓又は尿路の感染症 手術なし	12
040040xx99100x	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1-1あり 手術・処置等2なし 定義副傷病なし	10

慢性閉塞性肺疾患（COPD）をはじめとする慢性呼吸器不全、間質性肺炎、気管支喘息をはじめとするアレルギー疾患、肺がん、感染症、睡眠時無呼吸症候群など幅広い呼吸器疾患全般の診療を行っています。肺がんなどにおける集学的治療が必要な場合などは、大学病院をはじめとした基幹病院に紹介を含めた支援を受けています。患者数が最も多い疾患は誤嚥性肺炎で、ほとんどが緊急入院の症例です。誤嚥性肺炎は高齢者が多く、必要に応じて歯科衛生士による口腔ケアや言語聴覚士による嚥下機能訓練、リハビリテーション科による嚥下内視鏡などを行っています。

# リウマチ・膠原病内科

## 医師紹介

2022年度在籍医師

### 医長

**河野 紘輝** 2013年卒 (2023年3月31日転出)

Hiroki Kohno

日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員  
日本内科学会認定医

### 医師

**大本 卓司** 2017年卒

Takuji Ohmoto

日本内科学会認定医

**荒木 慧** 2014年卒 (非常勤)

Kei Araki

日本リウマチ学会専門医・指導医  
日本内科学会認定医

## 診療内容

リウマチ・膠原病疾患の正確な診断と最新の知見に基づいた専門的な治療を提供します。

リウマチ・膠原病は治らない病気（難病）と言われておりましたが、現在は正確な早期診断と専門的な治療（ステロイド、抗リウマチ薬、免疫抑制薬、生物学的製剤等）により寛解（治療して症状が治まり病気が進行しない状態）を目指すことができるようになりました。

当科はリウマチケアチーム（他職種専門職チーム：内科、整形外科のリウマチ専門医、認定看護師：外来、化学療法室、関節エコー検査：登録ソノグラファー、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、歯科衛生士、管理栄養士、事務員）が一丸となり患者さんのトータルケアを目指し、各診療科専門医ともしっかりと協体制で患者さんに安心した医療を提供いたします。また地域の医療機関の先生方と連携し1人1人の患者さんが毎日、体調に不安なく過ごせることを目指します。

【このような症状や異常があれば受診してください】

- ・朝のこわばり（手がにぎりにくい、起床後30分以上続く）
- ・関節の腫れや痛み（ペットボトルを開けづらい、ドアノブが回しにくい、靴ひもが結びにくい、足の付け根が痛む、草履を履いているような感覚が続いている）
- ・筋肉痛（朝起きると腕や太ももが痛くて起き上がることができない）
- ・レイノー症状（寒い時に手指が白色、紫色から赤色に変色する）
- ・眼や口の乾燥症状がひどい（ドライアイがひどくパンなど水分がないと飲み込めない）
- ・若い頃からの安静にしてもよくなる腰痛、動いているとよくなる腰痛
- ・血液検査でリウマチ因子、抗CCP抗体、抗核抗体などの異常値があり、リウマチ・膠原病疾患を心配されている方。

## 診療実績

### 診断群分類別患者数等

DPCコード	DPC名称	症例数
040081xx99x0xx	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等2なし	16
070560xx99x00x	重篤な臓器病変を伴う全身性自己免疫疾患 手術なし 手術・処置等2なし 定義副傷病なし	-
110310xx99xxxx	腎臓又は尿路の感染症 手術なし	-
040110xxxxx0xx	間質性肺炎 手術・処置等2なし	-
070510xx99xxxx	痛風、関節の障害(その他) 手術なし	-

※患者数が10人未満の項目には、ハイフン（-）を表示しています。

関節リウマチや全身性エリテマトーデス、強皮症、筋炎等といった自己免疫性疾患を診療しています。多臓器の病変をきたしうるリウマチ膠原病の各種病態に対して各臓器専門医との強力なパートナーシップのもとに入院精査・加療を行っております。東区を中心とした広島市内の先生方との連携により多数の入院がありました。(リウマチ・膠原病疾患の精査・免疫抑制治療、生物学的製剤の導入、感染症、不明熱精査)常勤医師3人体制で迅速に入院加療を行える体制となっております。



# 外科・消化器外科・甲状腺外科

## 医師紹介

2022年度在籍医師

### 診療部長

**岡本 有三** 1982年卒 (2023年3月31日転出)  
Yuzo Okamoto

消化器外科 (肝胆道外科)、内視鏡外科

医学博士  
日本外科学会専門医  
日本肝胆膵外科学会評議員  
医師救急医療業務実地修練過程修了  
高齢者医療研修修了  
臨床研修指導医

### 外科・消化器外科・甲状腺外科主任部長

**矢野 将嗣** 1989年卒  
Masatsugu Yano

消化器、内分泌甲状腺、内視鏡外科

医学博士  
日本外科学会専門医・指導医  
日本消化器外科学会専門医・指導医  
内分泌・甲状腺外科専門医・指導医  
日本甲状腺学会専門医  
日本消化器病学会専門医・指導医  
日本透析医学会専門医・指導医  
日本肝臓病学会専門医  
日本臨床栄養代謝学会認定医  
日本癌治療認定医機構がん治療認定医  
消化器がん外科治療認定医  
日本臨床栄養代謝学会TNT講師  
日本臨床栄養代謝学会学術評議員  
PDNセミナー講師  
緩和ケア研修会修了

### 部長

**志々田 将幸** 1998年卒  
Masayuki Shishida

消化器外科 (胃外科)、内視鏡外科

医学博士  
日本外科学会専門医・指導医  
日本消化器外科学会専門医・指導医  
消化器がん外科治療認定医  
日本消化器病学会専門医・指導医  
日本肝臓学会専門医  
日本透析医学会専門医・指導医  
日本内視鏡外科学会技術認定  
日本がん治療認定医機構がん治療認定医  
日本移植学会認定医  
緩和ケア研修会修了

**住谷 大輔** 1998年卒

Daisuke Sumitani

消化器外科 (大腸外科)、内視鏡外科

医学博士  
日本外科学会専門医  
日本消化器外科学会専門医  
消化器がん外科治療認定医  
日本大腸肛門病学会専門医・指導医  
日本内視鏡外科学会技術認定取得医 (大腸)  
日本がん治療認定医機構がん治療認定医  
緩和ケア研修会修了

### 医長

**豊島 幸憲** 2011年卒

Yukinori Toyoshima

消化器外科

日本外科学会専門医  
日本消化器外科学会専門医  
消化器がん外科治療認定医  
日本消化器病学会専門医  
日本消化器内視鏡学会専門医  
日本食道学会食道科認定医  
緩和ケア研修会修了

**平昭 吉野** 2016年卒

Yoshino Hiraaki

消化器外科

緩和ケア研修会修了

## 診療内容

患者さん一人ひとりに、最適な低侵襲の治療を提供します。

当院の外科は、消化器、甲状腺、乳腺を主として、患者さん一人ひとりに最適な医療を提供できるように日々研鑽を積んでいます。また、患者さんにとって低侵襲で負担の少ない内視鏡下の手術にも積極的に取り組んでいます。

症例的にはがんの手術が多いですが、緊急手術も積極的に行っています。スムーズな急患対応に鋭意取り組んでいます。治療の方針に関しては、患者さんとご家族の皆さまに十分な説明と情報提供を行った上で話し合い、共に治療方針を構築していくことを基本としています。そして何より安心・安全な医療を提供することが一番大事なことと考えています。手術に関しましては、専門医による専門性の高い手術も行っています。技術に裏打ちされた最善の手術を行い、患者さんが元気になれることをスタッフ一同の喜びとしています。

# 診療実績

## 外科・消化器外科・甲状腺外科手術件数 ( )内は鏡視下手術数

手術内容/年度		2012	2013	2014	2015	2016	
頸部	甲状腺切除	37	14	15	29	46	
	副甲状腺切除	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	4	2	4	
胸部	乳腺	腫瘍摘出術	3	2	10	1	1
		切除術	10	7	2	5	13
		その他	3	1	2	1	0
	肺	切除術	24(24)	8(8)	2	8(8)	0
		縦隔	4(4)	0	1	1(1)	0
		その他	13(12)	22(16)	15	3	0
	食道	切除、再建術	0	0	1	2	0
		その他	2	1	0	0	1
	横隔膜	0	0	0	0	0	
	胸壁	4	3	4	0	0	
	心臓	0	0	0	0	0	
	その他	1	0	1	0	1	
	消化管	胃、十二指腸	良性、切除	3	0	0	2(1)
良性、その他			0	2	5	3	4
悪性、切除術			23(1)	28(1)	15	18(8)	30(22)
悪性、その他			1	0	0	6(1)	0
大腸、小腸		イレウス解除術	7	11	8	4	2
		腸切除術	42(10)	58(10)	44	50(18)	74(39)
		人工肛門造設術	5	13	11	14	12(2)
		その他	7	12	16	9	11
直腸、肛門		直腸切除術	11(3)	6(2)	13	11(6)	28(21)
		痔核、痔瘻手術	18	21	35	8	8
		その他	11	6(1)	21	6	7(4)
虫垂		切除術	24(2)	30(1)	22	44(17)	39(29)
その他		0	0	0	1	2(1)	
肝・胆・膵・脾	肝臓	切除術	8	3	9	6	16(1)
		その他	1	0	1	2(2)	0
	胆道	胆嚢摘出術	44(22)	26(17)	40	33(30)	56(48)
		胆道再建術	1	1	1	2	2
		その他	1	0	0	1	2
	膵臓	切除術	1	5	5	5	3
その他		0	1	1	1	0	
脾臓	摘出術	0	0	0	0	0	
腹膜・腹壁	ヘルニア	51	39	44	42	52(13)	
	その他	2	8	3	2(1)	2(1)	
血管	静脈瘤手術	1	4	7	1	0	
	血行再建術	0	0	1	0	2	
	シャント術	0	0	0	4	36	
	その他 (CAPD関連)	4	54	0	1	2	

手術内容/年度		2017	2018	2019	2020	2021	2022
1) 消化管及び腹部内臓		350	397	344	304(178)	283(167)	283(174)
食道	切除再建術	0	0	0	0	0	0
	その他	1	0	0	0	0	1
	胃・十二指腸	34	32	25	21(11)	21(11)	25(17)
胃・十二指腸	幽門側胃切除術、幽門保存胃切除	17	18	15	8(5)	12(5)	12(10)
	胃全摘術	5	6	2	3(1)	3(1)	5(2)
	噴門側胃切除術	2	1	1	1(1)	0	0
	胃局所切除術	4	1	2	3(1)	2(2)	3(3)
	その他	6	6	5	6(3)	5(3)	5(2)
小腸・結腸・直腸	185	197	187	173(93)	147(80)	208(67)	
結腸癌の手術(切除術)	37	34	38	49(34)	41(22)	28(17)	
直腸癌の手術(切除術)	23	23	21	24(23)	20(17)	22(19)	
虫垂切除術	41	33	29	38(34)	39(32)	19(17)	
痔核、痔瘻の手術	24	36	30	25	10	79	
人工肛門増設・閉鎖術	30	37	45	23	26(9)	29(9)	
腸閉塞の手術	12	11	7	6	4	12	
その他	18	23	17	8(2)	7	19(5)	
肝・胆・膵・脾臓	65	98	73	63(58)	56(41)	46(38)	
肝	8	12	5	5(1)	5(1)	0	
肝部分切除術	7	12	4	3	5(1)	1	
肝2区域以上の切除術	1	0	0	1	0	0	
その他	0	0	1	1(1)	0	0	
胆・膵臓	57	85	68	58(57)	50(40)	46(38)	
胆嚢摘出術	47	69	62	58(57)	49(40)	46(38)	
膵頭十二指腸切除術	2	5	1	0	0	0	
その他	8	11	5	0	1	0	
脾臓	0	1	0	0	1	0	
脾臓摘出術	0	1	0	0	1	0	
その他	0	0	0	0	0	0	
その他	65	70	59	47(16)	59(35)	73(51)	
鼠径ヘルニア手術	46	51	46	36(16)	51(33)	60(48)	
急性汎発性腹膜炎手術	0	2	2	3	3(1)	4	
その他	19	17	11	8	5(1)	9(3)	
2) 乳腺	16	15	24	27	15	12	
3) 呼吸器	0	3	1	0	0	1	
4) 心臓・大血管	0	0	0	0	0	0	
5) 末梢血管(頭蓋内血管除く)		64	74	65	92	89	70
静脈瘤手術	1	0	0	0	0	0	
血行再建術	0	0	12	14	16	11	
シャント術	56	63	19	27	29	30	
その他 (CAPD関連)	7	11	34	51	44	29	
6) 頭頸部・体表・内分泌外科		74	77	71	52	42	49
甲状腺手術	30	34	26	11	11	16	
副甲状腺手術	0	0	2	1	0	0	
その他	44	43	43	40	31	33	
7) 小児外科		0	0	0	0	0	0
8) 外傷(胸腹部損傷手術)		0	0	0	0	0	0
9) 移植		0	0	0	0	0	0
肝移植	0	0	0	0	0	0	
腎移植	0	0	0	0	0	0	
膵移植	0	0	0	0	0	0	

# 人工透析外科

## 医師紹介

2022年度在籍医師

人工透析外科主任部長

**越智 誠** 1986年卒

Makoto Ochi

透析アクセス手術、一般外科

医学博士

日本透析医学会専門医・指導医

日本腹膜透析医学会認定医

腎代替療法専門指導士

日本透析医学会VA血管内治療認定医

日本外科学会認定医・専門医

日本消化器外科学会認定医

臨床研修指導医養成講習会修了

緩和ケア研修会修了

## ひとこと

透析専門医の立場から、CKD病診連携を行い少しでも病気の進行を抑え、透析導入が回避できるように取り組んでいます。しかし、末期腎不全になられた場合には、納得した治療法を選択していただき、計画的な透析導入を心がけています。腹膜透析の普及・啓発、シャント管理に力を入れています。

## 診療内容

慢性腎臓病患者さんに最善の治療をご提供します。

慢性腎臓病（CKD）患者さんの腎障害の進行を抑えること、適切な時期に腎代替療法（透析、腎移植）の説明を行い、納得した治療法を選択していただくこと、計画的に透析導入を行うこと、さらに、安心・安全な透析が続けられるように最善を尽くしています。

### CKD外来

CKDは、病気が進行して末期腎不全となり透析が必要になるばかりか、脳卒中や心筋梗塞など心血管疾患のリスクを高め、生命の危険やQOLの低下につながります。CKD患者さんを早期に発見し治療を開始することが大切です。当科ではeGFR30mL/分/1.73m<sup>2</sup>未満、あるいは、血清クレアチニン値2.0mg/dL以上をご紹介の目安として、CKD連携を行っています。当院へは2～6か月に1回受診していただき、生活指導や栄養指導、貧血治療やリン吸着薬など薬剤の調整を行わせていただきます。また、経過をみながら患者さんとご家族に、腎代替療法を説明して意思確認を行っています。無症状のうちに進行してしまうCKD患者さんのお役に立てるように頑張りたいと思います。

### CKD外来への受診の目安

eGFR 30mL/分/1.73m<sup>2</sup>未満

あるいは、血清クレアチニン値2.0mg/dL以上

### 腹膜透析（PD）

PDは、ゆるやかな治療で急激な体調の変化がないので、心血管疾患のある患者さんや自立した高齢の患者さんにも適した治療法です。また、患者さんの生活リズムで行える在宅治療ですので、メリットを生かせる患者さんには、PDファーストでの透析導入を積極的に勧めています。また、透析導入後も、かかりつけの先生方とPD病診連携を行っています。地域包括ケアシステムの構築や、医療と介護の連携強化が叫ばれていますが、高齢化が進む患者さんを多職種で協力してサポートするPDは、腎不全医療に必要な不可欠です。

PDを行うためには、PDカテーテル留置術が必要です。段階的腹膜透析導入法（SMAP法）

で計画的に透析を開始できるように心がけています。これは、数か月以内に透析導入を行う必要があると判断した段階で、PDカテーテルを腹腔内に留置し、外へ出さないで皮下に埋め込んでおきます。いざ透析が必要となった時に、出口を作製し透析を開始します。この方法ですと、入院期間の短縮やカテーテルトラブルを減少させることができます。また、精神的にゆとりをもってPDに臨むことができます。

カテーテル出口部の位置は、カテーテルケアが容易に行えること、出口部・皮下トンネル感染のリスクを減少させる観点からも重要です。患者さんの体形にあわせて、下腹部出口やセミロングカテーテルを用いた上腹部出口を選択しています。

出口部感染を予防し早期に治療するように努めていますが、皮下トンネル感染に進展した場合には外科的対応が必要です。トンネル感染になると抗生物質の投与のみでは改善は期待できず、出口変更術を行います。しかし、感染が腹膜近くまで波及していればカテーテルを抜き、新たなカテーテルを反対側から入れ替えることとなります。

カテーテルトラブルとして位置異常や閉塞による透析液の注排液不良がありますが、腹腔鏡下に位置修復術や閉塞解除を行っています。

## 血液透析 (HD)

HDを行うためには、バスキュラーアクセス(シャント)の作製が必要です。自己血管による動脈-静脈吻合が基本ですが、シャント作製に適した静脈がない場合も多く、人工血管(グラフト)によるシャント作製を行う症例も増えていきます。また、シャント作製が困難であったり、ADLが著しく低下していたり、心機能不良な患者さんでは、長期間使用可能なカフ型カテーテルを留置したり、動脈の表在化を行っています。

シャントトラブルとして頻度の多い狭窄と血栓性閉塞の治療は、まず、経皮的血管形成術(シャントPTA)を行います。シャント感染(特に、グラフト感染)や破裂の危険性のあるシャント瘤には再建術が必要です。

シャントの自己管理は大切で、毎日、見て・聞いて・触って、異常を早期に発見できるように指導しています。一度作ったシャントが長く使えるように維持管理を行っています。

## PD+HD併用療法 (ハイブリッド療法)

PDとHD、それぞれの治療法の長所を生かし短所を補う目的で、またPDからHDへの移行期

に行っています。β2-ミクログロブリンなどの溶質除去不良や体液過剰の場合などに、週1回HDを行い週6日間はPDを継続しています。

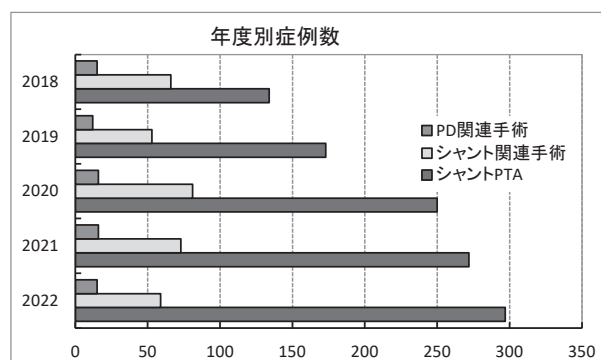
## 腎移植

末期腎不全に対する唯一根本的な治療法です。腎移植を希望される患者さんで腎提供者(ドナー)がいらっしゃれば生体腎移植を、ドナー候補がいなければ献腎移植の登録をお勧めします。残念ながら、当院では腎移植は行っておりません。腎移植を希望される患者さんは、広島大学病院や県立広島病院と連携していますので紹介させていただきます。

人工透析外科では、CKD患者さんの保存期から腎代替療法の開始・維持期に渡って治療が行えるような体制を整えていますので、今後ともよろしくお願いいたします。

## 診療実績

	透析アクセス手術			シャントPTA
	PD関連	シャント関連	合計	
2018	15	66	81	134
2019	12	53	65	173
2020	16	81	97	250
2021	16	73	89	272
2022	15	59	74	297



# 人工透析センター

## 医師紹介

2022年度在籍医師

### 人工透析センター長

#### 越智 誠 1986年卒

Makoto Ochi

透析アクセス手術、一般外科

医学博士  
日本透析医学会専門医・指導医  
日本腹膜透析医学会認定医  
腎代替療法専門指導士  
日本透析医学会VA血管内治療認定医  
日本外科学会認定医・専門医  
日本消化器外科学会認定医  
臨床研修指導医養成講習会修了  
緩和ケア研修会修了

### 外科・消化器外科・甲状腺外科主任部長

#### 矢野 将嗣 1989年卒

Masatsugu Yano

消化器、内分泌甲状腺、内視鏡外科

医学博士  
日本外科学会専門医・指導医  
日本消化器外科学会専門医・指導医  
内分泌・甲状腺外科専門医・指導医  
日本甲状腺学会専門医  
日本消化器病学会専門医・指導医  
日本透析医学会専門医・指導医  
日本肝臓病学会専門医  
日本臨床栄養代謝学会認定医  
日本癌治療認定医機構がん治療認定医  
消化器がん外科治療認定医  
日本臨床栄養代謝学会TNT講師  
日本臨床栄養代謝学会学術評議員  
PDNセミナー講師  
緩和ケア研修会修了

### 外科・消化器外科・甲状腺外科部長

#### 志々田 将幸 1998年卒

Masayuki Shishida

消化器外科（胃外科）、内視鏡外科

医学博士  
日本外科学会専門医・指導医  
日本消化器外科学会専門医・指導医  
消化器がん外科治療認定医  
日本消化器病学会専門医・指導医  
日本肝臓学会専門医  
日本透析医学会専門医・指導医  
日本内視鏡外科学会技術認定  
日本がん治療認定医機構がん治療認定医  
日本移植学会認定医  
緩和ケア研修会修了

## 診療内容

通院透析患者さんから入院透析まで、安心して任せいただける体制と環境です。

人工透析センターは透析監視装置30台、全台で大量置換血液透析濾過（on-line HDF）が可能です。機械室のクリーン化を図り、清浄化された透析液が供給できるように管理しています。人工透析センターでは、通院維持透析患者さんと、さまざまな合併症管理のために入院され、比較的状态が安定している透析患者さんの治療を行っています。また、潰瘍性大腸炎、クローン病や関節リウマチに対して血球成分除去療法や、難治性腹水に対しての腹水濾過濃縮再静注法なども行っています。夜間の緊急透析や、循環動態の不安定な患者さんの持続血液透析濾過（CHDF）は、入院病棟で行っています。

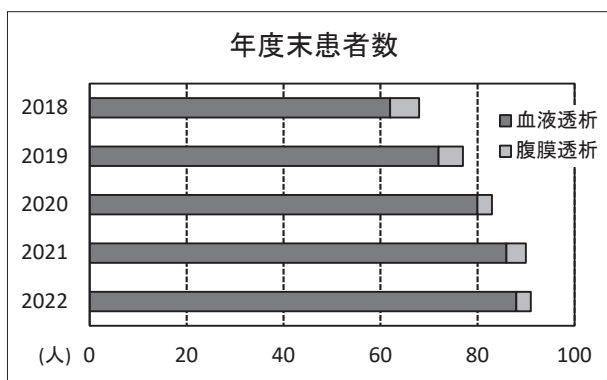
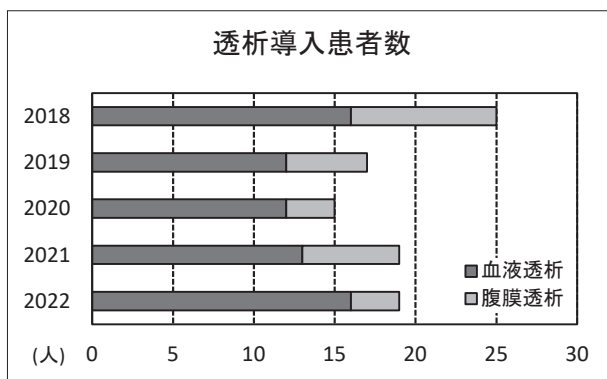
JR広島駅に近く、交通アクセスの容易な当院のメリットを活かして、通院透析患者さん以外にも、広島を観光で訪れる透析患者さんの旅行透析も積極的に受け入れています。

人工透析センターでは、人工透析外科と外科の医師が主に治療にあたります。さらに、看護師、臨床工学技士、薬剤師、栄養士、リハビリ科や医療ソーシャルワーカーを含めたチーム医療で、透析患者さんの希望に添える医療が提供できるように努力しています。透析患者さんが安心して透析を任せられるセンターにしていきたいので、今後ともよろしくお願ひいたします。



## 診療実績

	透析導入患者数			年度末患者数		
	血液透析	腹膜透析	合計	血液透析	腹膜透析	合計
2018	16	9	25	62	6	68
2019	12	5	17	72	5	77
2020	12	3	15	80	3	83
2021	13	6	19	86	4	90
2022	16	3	19	88	3	91



# 整形外科

## 医師紹介

2022年度在籍医師

### 整形外科主任部長

**田中 信弘** 1990年卒

Nobuhiro Tanaka

脊椎、脊髄外科

医学博士  
脊椎脊髄外科専門医  
日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医  
日本整形外科学会認定整形外科専門医  
日本整形外科学会脊椎脊髄病認定医  
日本整形外科学会認定スポーツ医  
広島卒後臨床研修ネットワーク指導医  
緩和ケア研修会修了  
Fellow of International Orthopaedic Research (FIOR)

### リハビリテーション科主任部長

**中村 精吾** 1984年卒 (2023年3月31日転出)

Seigo Nakamura

股関節外科、リウマチ

医学博士  
日本整形外科学会認定整形外科専門医  
日本リウマチ学会専門医  
日本リハビリテーション学会専門医  
日本整形外科学会スポーツ医

### 部長

**小林 孝明** 1992年卒

Takaaki Kobayashi

膝関節、足の外科

医学博士  
整形外科専門医  
日本体育協会公認スポーツドクター  
日本医師会認定健康スポーツ医  
日本整形外科学会認定スポーツ医  
運動器リハビリテーション医  
日本骨粗鬆症学会認定医  
日本旅行医学会認定医  
日本職業・災害医学会労災補償指導医  
日本リハビリテーション医学会認定医

**須賀 紀文** 2005年卒 (2023年3月31日転出)

Norifumi Suga

膝関節外科、整形外科一般

日本整形外科学会認定整形外科専門医

## 医長

**田島 稔章** 2014年卒

Toshiaki Tashima

整形外科一般

日本整形外科学会認定整形外科専門医

## 医師

**松本 明子** 2019年卒 (2023年3月31日転出)

Akiko Matsumoto

整形外科一般

## 診療内容

脊椎・脊髄および四肢・関節の治療を行っています。

整形外科は、四肢（上肢・下肢）および脊椎の病気を診断し治療する診療科です。上肢は、肩から指先、下肢は、骨盤からつま先までの広い範囲の病気を扱います。脊椎は、くび・背中・腰の痛みだけではなく、脊髄・神経が圧迫されて生じる上肢・下肢のしびれや痛み、手足の運動障害（手が動かしくくボタンがかけにくい・箸が使えない・歩きにくい・転びやすい）の治療を行います。

当院では整形外科医6名が、脊椎・脊髄外科、関節外科および四肢の骨折・外傷の治療に力を入れています。脊椎疾患による神経痛は、初期には神経根ブロックなど保存治療を行いますが、保存治療の効果の少ない頑固な症状が続くときは、顕微鏡を使った手術をお勧めしています。顕微鏡を使用すると、立体的な視野の下で安全に手術が行え、身体に負担が少ないため翌日から離床が可能です。

変形性股関節症、変形性膝関節症は高齢者に多くみられる疾患ですが、保存治療の効果のない高度な関節症の方には人工関節置換術を行っています。

## 診療実績

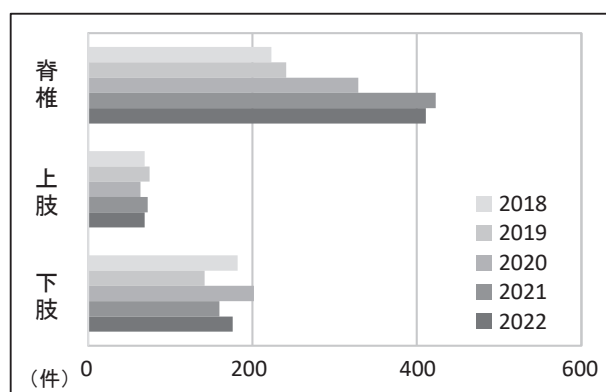
### 1. 診断群分類別患者数等

DPCコード	DPC名称	患者数
070343xx97x0xx	脊柱管狭窄（脊椎症を含む。）腰部骨盤、不安定椎 その他の手術あり 手術・ 処置等2なし	233
070341xx020xxx	脊柱管狭窄（脊椎症を含む。）頸部 脊椎固定術、 椎弓切除術、椎弓形成術 （多椎間又は多椎弓の場合 を含む。）前方椎体固定等 手術・処置等1なし	67
160800xx01xxxx	股関節・大腿近位の骨折 人工骨頭挿入術 肩、股 等	49
07040xxx01xxxx	股関節骨頭壊死、股関節 症（変形性を含む。）人工 関節置換術等	29
070230xx01xxxx	膝関節症（変形性を含む。） 人工関節置換術等	18

脊椎脊髄疾患（頸椎症性脊椎症、頸椎症性神経根症、腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニアなど）、変形性関節症および四肢外傷（骨折、靭帯断裂など）に対して治療を行っています。腰椎椎間板ヘルニア・脊柱管狭窄症の初期では神経根ブロックなどの保存的治療が有効なこともあります。日常生活に困る痛みやしびれ、或いは、筋力の低下が生じたときには手術をお勧めしています。脊椎手術は、顕微鏡を使用した手術を行っています。顕微鏡手術の利点は、明るく立体的な視野のもとで行うため安全に手術が行えます。体に負担が少ない低侵襲手術ですので翌日から離床が可能です。股関節や膝関節の変形性関節症は高齢者に多くみられる疾患です。保存療法の効果のない進行期から末期の関節症の方には人工関節置換術を行い、生活の質を高めることを目標としています。高齢化に伴い、骨粗鬆症を基盤とした骨粗鬆症性椎体骨折（いわゆる椎体圧迫骨折）や大腿骨近位部骨折が増加しています。特に骨粗鬆症性椎体骨折では、早期発見・早期保存療法を行えば、手術治療を行わずに治癒させることが可能です。

### 2. 整形外科手術件数

	2018	2019	2020	2021	2022
脊 椎	223	241	329	423	411
上 肢	69	75	64	73	69
下 肢	182	142	202	160	176





# リハビリテーション科

## 医師紹介

2022年度在籍医師

リハビリテーション科主任部長

**中村 精吾** 1984年卒 (2023年3月31日転出)

Seigo Nakamura

股関節外科、リウマチ

医学博士

日本整形外科学会認定整形外科専門医

日本リウマチ学会専門医

日本リハビリテーション学会専門医

日本整形外科学会スポーツ医

## 技士長よりごあいさつ

**長岡 由樹**

Yoshiki Nagaoka

病院の2階南側に位置するリハビリテーション科は、窓が大きくて日当たりがよく、部屋の中がとても明るくなっています。明るい部屋で、明るく元気なリハビリ科スタッフが皆さんに元気をお分けできるよう日々努力してまいります。

## 診療内容

嚥下内視鏡検査と攣縮のボトックス治療に注力しています。

入院患者さんのリハビリテーションを中心に提供していますが、連携先の先生からのご紹介についてはお引き受けしております。四肢の運動機能の回復・維持に役立つ機器類をはじめ、作業訓練によって身体機能の回復を促す作業療法のための用具、あるいは言語に障害の残る方のリハビリに用いるカードや検査機器など、幅広いリハビリのための環境が整っています。

現在注力しているのは、嚥下障害のある患者さんに対しての嚥下内視鏡検査と嚥下造影検査が1つ。そして、攣縮のある患者さんに対する、ボツリヌス菌によるボトックス治療にも力を入れています。

## 資格取得

心臓リハビリテーション指導士

3学会合同呼吸器療法認定士

認定理学療法士（循環）

認定理学療法士（運動器）

認定理学療法士（呼吸）

呼吸ケア指導士

日本リウマチ財団登録作業療法士

## 設備紹介



陽の光が入り明るく広々とした環境でリハビリを行います。



負担の大きい浴槽の出入りを実践的に練習することができます。



スムーズに日常生活を送れるよう、サポートしていきます。

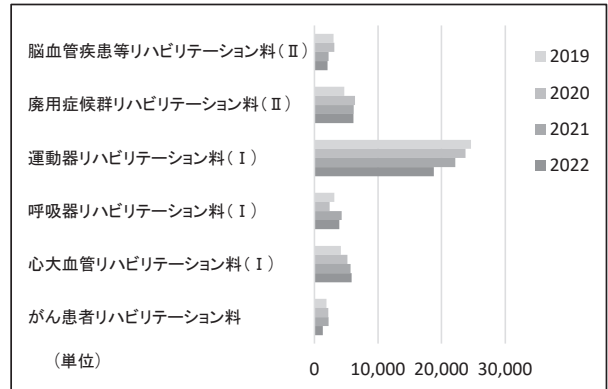


心肺機能の改善を目的としたりハビリを行う部屋です。

## 診療実績

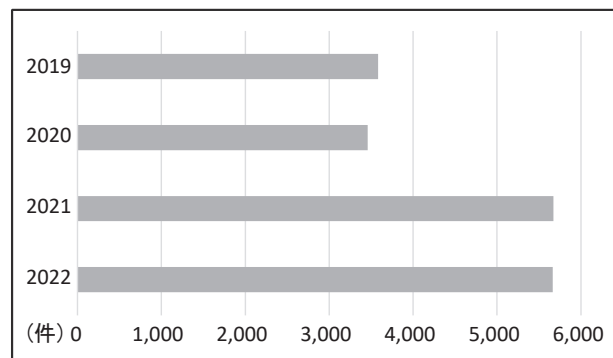
### 1. リハビリテーション単位数

	2019	2020	2021	2022
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ)	3,034	3,153	2,237	2,076
廃用症候群リハビリテーション料(Ⅱ)	4,712	6,408	6,186	6,132
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	24,628	23,792	22,177	18,807
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	3,154	2,404	4,301	3,912
心大血管リハビリテーション料(Ⅰ)	4,160	5,208	5,706	5,877
がん患者リハビリテーション料	1,887	2,213	2,223	1,328



### 2. 摂食機能療法件数

	2019	2020	2021	2022
摂食機能療法	5,921	6,098	5,672	5,663



# 小児科

## 医師紹介

2022年度在籍医師

### 小児科主任部長

**下 菌 彩 子** 1997年卒

Saiko Shimozono

小児科一般

日本小児科学会専門医・指導医

### 部長

**安 村 純 子** 2001年卒

Junko Yasumura

小児膠原病、小児科一般

医学博士

日本小児科学会専門医・指導医

日本リウマチ学会専門医・指導医

## 診療内容

当院小児科は、小児科専門医2名で担当しています。新生児から中学卒業までの児の、小児内科一般を幅広く診療しています。近隣開業医の先生方と連携し、地域の中核病院として、子どもたちの健康に貢献していきたいと思っています。

### 入院：

年間約200人の入院があります。主に上・下気道感染症や胃腸炎関連などの感染症、アレルギー疾患、川崎病、IgA血管炎などの急性期疾患を診療しています。大半が東区や安芸区、安芸郡など近隣の開業小児科からの紹介入院です。家族に寄り添った、きめこまかいサポートを心がけています。

### 外来：

主に感染症などの急性期疾患を中心に診療していますが、アレルギー疾患、てんかん、便秘、夜尿症など小児の様々な疾患に対応しています。健診や予防接種は、感染症と接触しないように時間帯を分けて対応しています。また、一般外来以外に心臓外来、膠原病外来の専門外来を行っています。心臓外来（担当：下菌）では、心雑音や不整脈の精査、学校心臓病検診の二次

検診（中学生まで）を、心臓図、心エコー、ホルター心電図、トレッドミルなどを組み合わせて診断しています。膠原病外来（担当：安村）では、広島県で唯一の小児リウマチ専門医・指導医として小児リウマチ性疾患のみならず、自己炎症性疾患、線維筋痛症にも対応しています。

## 診療実績

### 診断群分類別患者数等

DPCコード	DPC名称	症例数
040100xxxxx00x	喘息 手術・処置等2なし 定義副傷病なし	15
040090xxxxxxxxx	急性気管支炎、急性細気 管支炎、下気道感染症（そ の他）	14
030270xxxxxxxxx	上気道炎	10
180030xxxxxxxx0x	その他の感染症（真菌を 除く。）定義副傷病なし	10
0400801199x00x	肺炎等（1歳以上15歳未 満）手術なし 手術・処置 等2なし 定義副傷病なし	10

新生児から中学卒業までの小児内科一般を幅広く診療しています。上・下気道感染症や胃腸炎関連などの感染症が主ですが、川崎病やIgA血管炎、アレルギーなど急性期疾患を中心に、年間約200人の入院加療をしています。

# 皮膚科

## 医師紹介

2022年度在籍医師

### 皮膚科主任部長

**森岡 理恵子** 2006年卒

Rieko Morioka

皮膚科一般、アレルギー性皮膚疾患

日本皮膚科学会専門医

日本皮膚科学会指導医

### 医師

**住元 遥香** 2018年卒 (2022年11月30日転出)

Haruka Sumimoto

皮膚科一般

## 診療内容

早期治癒に向けた適切な治療を、確実に進めていきます。

皮膚疾患全般を対象としており、広島市東区唯一の病院皮膚科として、広島大学病院など他の病院・診療所との連携も密に行っています。

皮膚疾患に対して、的確な診断、適切な治療を確実にすることを心がけております。詳細な問診や血液検査などを参考にしつつ、患者さんの生活習慣や環境を考え、生活指導を行うようにしています。点滴治療を必要とする急性感染症は、入院を原則としてすみやかな改善に努めております。

昨今、生物学的製剤の登場で重症の乾癬やアトピー性皮膚炎、慢性特発性蕁麻疹など慢性で難治な皮膚疾患も著明な改善がみられ患者さんのQOLが上がる症例が多くあります。当院では従来の治療から最新の生物学的製剤を使用する治療まで幅広く行っておりますので、お気軽にご相談ください。

## 診療実績

### 1. 診断群分類別患者数等

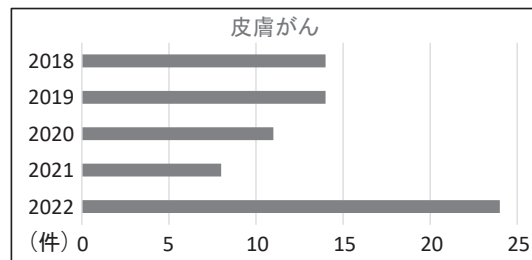
DPCコード	DPC名称	症例数
080006xx01x0xx	皮膚の悪性腫瘍（黒色腫以外）皮膚悪性腫瘍切除術等手術・処置等2なし	18
080007xx010xxx	皮膚の良性新生物 皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）等手術・処置等1なし	13
080020xxxxxxxx	帯状疱疹	12
080010xxxx0xxx	膿皮症 手術・処置等1なし	11
080250xx970lxx	褥瘡潰瘍 手術あり 手術・処置等1なし 手術・処置等2あり	-

※患者数が10人未満の項目には、ハイフン（-）を表示しています。

皮膚科疾患全般を対象としています。点滴治療を必要とする急性感染症（帯状疱疹、急性膿皮症）は、入院治療を行い早期軽快に努めています。急性膿皮症のほとんどは下肢の蜂窩織炎であり、糖尿病等基礎疾患を合併している患者さんが多いです。大きな粉瘤、脂肪腫等は一泊二日入院（局所麻酔手術）を行っています。

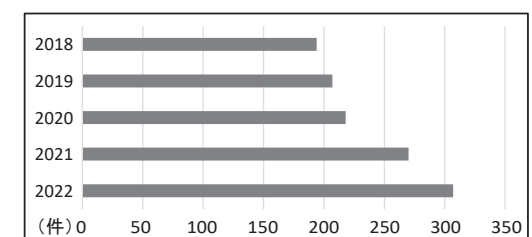
### 2. 皮膚手術件数

	2018	2019	2020	2021	2022
皮膚がん	14	14	11	8	24
その他	92	98	106	180	125
合計	106	112	117	188	149



### 3. 皮膚科病理組織検査件数

	2018	2019	2020	2021	2022
件数	194	207	218	270	307



# 産婦人科

## 医師紹介

2022年度在籍医師

### 産婦人科主任部長

**木谷 由希絵** 2005年卒

Yukie Kidani

産婦人科一般

医学博士

日本産科婦人科学会専門医

女性ヘルスケア専門医

### 部長

**山縣 麻衣** 2007年卒

Mai Yamagata

産婦人科一般

日本産科婦人科学会専門医

## 診療内容

産婦人科領域は大きく周産期（産科）・生殖内分泌・婦人科腫瘍・女性ヘルスケア領域に分けられ、各分野についてはそれぞれ以下に示すような対応を行っております。

### 周産期

当科では2018年7月より分娩の取り扱いを休止しておりますが、妊婦健診は引き続き行っています。里帰り分娩を予定されている方、他院での分娩を予約されている方で、当院で健診を希望される方の妊婦健診は妊娠初期から妊娠34週頃まで対応しております。

### 生殖内分泌

挙児希望の方に対しては基礎体温表を用いたタイミング指導や内服を用いた排卵誘発などを行っており、人工受精・体外受精などさらに高度な治療が必要とされる場合には専門施設を紹介させて頂いています。ご夫婦でのご相談の場合は当院の泌尿器科と連携して精液検査等にも対応しております。

また妊娠希望の方やご結婚を予定されている方の相談、子宮癌検診、超音波検査、ブライダルチェック（血液検査など）も行っています。

### 婦人科腫瘍

婦人科領域では子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がんなどの早期発見のための検診を積極的に行っています。手術については悪性腫瘍手術や腹腔鏡手術等に対応が困難な場合がありますが、その際には高次施設と連携して対応いたします。また、当院は院内の化学療法室や広島がん高精度放射線治療センターとの密な連携により、入院・外来化学療法や放射線治療についての受け入れ体制が整っていますので、術後や再発時の化学療法、放射線療法などを当院で希望される方についても適宜対応させていただきます。

### 女性ヘルスケア

また、思春期から更年期以降までの月経トラブルへの対応や健康管理など、女性医療・医学にも力を入れて診療をしています。若年の月経異常やPMS（月経前緊張症候群）、早発・遅発思春期などは産婦人科に受診することに抵抗があるため、受診が遅れる場合もありますが、2021年度から女性医師2名による診療を行っており、外来も女性スタッフのみです。比較的受診しやすい体制が整っています。若年の方に対しては経腹超音波やCT・MRIを用いた診断や漢方薬などホルモン剤以外による治療も行っております。また、更年期や更年期以降の体調不良や婦人科トラブルに対してもホルモン治療を始め、薬物療法や生活指導など幅広い治療を行っております。

産婦人科はその特性上、安易に受診しにくいところではありますが、当院では2021年度以降女性医師のみで対応可能であるため比較的抵抗感が少なく受診して頂けるのではないかと考えております。同じ女性の立場から、女性に対して細やかな対応を心がけており、女性に対して優しい医療を目指して参りたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

# 泌尿器科

## 医師紹介

2022年度在籍医師

### 泌尿器科主任部長

#### 橋本 邦宏 1990年卒

Kunihiro Hashimoto

泌尿器一般、尿路性器悪性腫瘍、腹腔鏡手術

医学博士

日本泌尿器学会専門医・指導医

広島大学医学部臨床教授

日本内視鏡外科学会技術認定医（腹腔鏡技術認定医）

日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医

### 部長

#### 井上 勝己 1989年卒

Katsumi Inoue

泌尿器一般、排尿機能障害

医学博士

日本泌尿器学会専門医・指導医

日本泌尿機能学会認定医

日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医

### 医長

#### 岡崎 真衣 2016年卒

Mai Okazaki

泌尿器一般

### 医師

#### 鵜飼 麟三 1970年卒

Rinzo Ukai

泌尿器一般、尿路性器悪性腫瘍

医学博士

日本泌尿器学会専門医・指導医

## 診療内容

泌尿器全般の疾患に、積極的かつ適切な治療を行っています。

尿路性器悪性腫瘍から前立腺肥大症、尿路結石、尿路感染症、神経因性膀胱、尿失禁まで泌尿器科全般の疾患に対応しています。

尿路結石治療では腎サンゴ状結石であっても細径腎盂鏡および吸引式腎用アクセスシース：クリアペトラを使用しレーザーにて完全破碎除去しております。

多発性骨転移を伴う去勢抵抗性前立腺癌に関してはRa223（ラジウム223）を使用し良好な経過を得ています。

膀胱腫瘍では経尿道的膀胱腫瘍一塊切除（TURBO）を実施しています。経尿道的に一塊切除して、正確な病理診断をもとに適切な治療を行うものです。

前立腺生検では経会陰式で行っており、一般的に行われている経直腸的な生検にくらべ、急性前立腺炎や直腸出血などの合併症はなく安全かつ正確な組織採取と診断が可能です。

難治性の過活動膀胱においてはボトックス膀胱内注入治療を開始しています。

尿路性器悪性腫瘍などの専門的な疾患にも積極的に治療を行っておりますので、早期発見のためにも、ぜひご相談ください。

# 診療実績

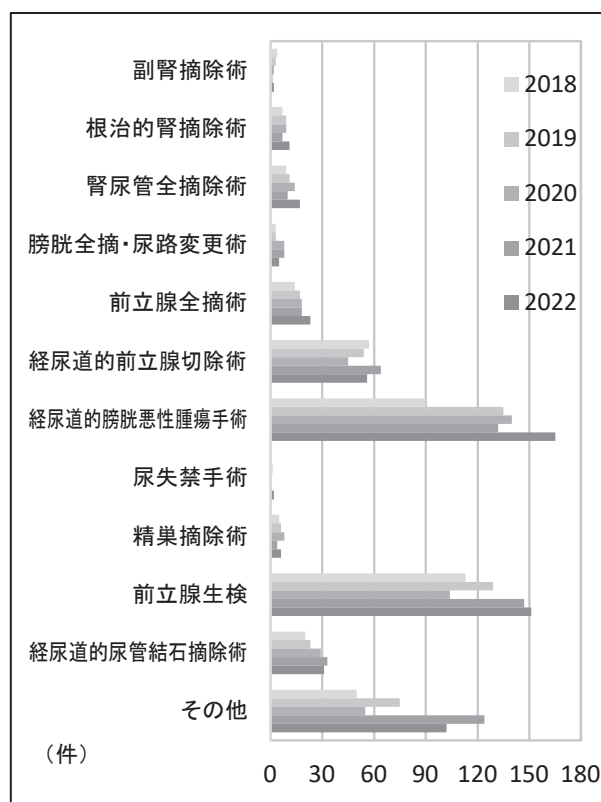
## 1. 診断群分類別患者数等

DPCコード	DPC名称	症例数
110070xx02xxxx	膀胱腫瘍 膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 + 術中血管等描出撮影加算	93
110200xx02xxxx	前立腺肥大症等 経尿道的前立腺手術等	60
110070xx03x0xx	膀胱腫瘍 膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 手術・処置等2なし	52
110310xx99xxxx	腎臓又は尿路の感染症 手術なし	45
110080xx991xxx	前立腺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1あり	28

前立腺肥大、尿路性器悪性腫瘍から、感染症、尿路結石、神経因性膀胱、尿失禁まで泌尿器全般の疾患に対応しています。腎・尿管結石の疼痛コントロールなども行っています。膀胱腫瘍に関しては、経尿道的膀胱腫瘍一塊切除術（TURBO）を実施しています。経尿道的に一塊に切除して、正確な病理診断をもとに適切な治療を行うものです。また、前立腺腫瘍に関しては、経会陰式前立腺生検を実施しています。一般的に行われている経直腸的な生検に比べ尿路感染症や直腸出血などの合併症が少ないのが特徴です。

## 2. 泌尿器手術件数 ( ) は鏡視下手術数

	2018	2019	2020	2021	2022
副腎摘除術	4(4)	3(3)	2(2)	1(1)	2(2)
根治的腎摘除術	7(6)	9(9)	9(8)	7(7)	11(11)
腎尿管全摘除術	9(9)	11(8)	14(12)	10(10)	17(17)
膀胱全摘・尿路変更術	3	3	8	8	5
前立腺全摘術	14	17	18	18	23
経尿道的前立腺切除術	57	54	45	64	56
経尿道的膀胱悪性腫瘍手術	90	135	140	132	165
尿失禁手術	0	1	0	0	2
精巣摘除術	5	6	8	4	6
前立腺生検	113	129	104	147	151
経尿道的尿管結石摘除術(レーザー破碎)	20	23	29	33	31
その他	50	75	55	124	102
合計	372	467	433	548	571



# 眼科

## 医師紹介

2022年度在籍医師

### 眼科主任部長

**田中 文香** 1998年卒

Ayaka Tanaka

緑内障・眼科一般

日本眼科学会専門医  
広島大学医学部臨床教授  
身体障害者福祉法指定医師  
ポトックス講習・セミナー修了医師

### 部長

**大田 遥** 2008年卒

Haruka Ota

眼科一般

日本眼科学会専門医

### 医長

**世良 有紗** 2014年卒

Arisa Sera

眼科一般

## 診療内容

私たちは、病院眼科として必要とされる医療の提供を目指します。

当科では、多くの疾患に対応しています。糖尿病網膜症、網膜裂孔、後発白内障などのレーザー手術、加齢黄斑変性や黄斑浮腫、血管新生緑内障に対する硝子体内注射、眼瞼痙攣や顔面痙攣に対するポトックス注射、ドライアイに対する涙点プラグなども行っています。

なかでも、白内障手術と緑内障手術に注力しております。手術件数は、年間800件を超えています。白内障手術は、外来手術、入院手術の両方で対応しています。ご高齢の患者さんでも、仰臥位安静が保たれば局所麻酔での白内障手術が可能です。必要な場合は、全身麻酔での手術も行っています。見える喜びは、生きる喜びにつながりますので、積極的かつ安全に手術ができるように取り組んでいます。

緑内障は、有病率が高く、日本の中途失明原因の1位です。40歳以上では20人に1人、70歳以上では10人に1人が緑内障と言われています。視野進行を抑制し、生涯治療を継続することが大切です。そのためには、正しい病型診断、適切な点眼加療、適切な時期の手術加療が大変重要です。当院では、SLT（Selective laser trabeculoplasty：選択的線維柱帯形成術）といわれる眼圧を下げるレーザー手術、低侵襲緑内障手術に分類されるμフックロトミー、白内障手術と同時にを行う水晶体再建術併用眼内ドレーン手術（iStent injectW®）から、難治性緑内障の治療に有用なBaerveldt®、Ahmed™ 緑内障治療用インプラント挿入術まで、幅広く対応しています。生涯にわたる緑内障加療を目指しております。

2022年もコロナ禍の1年となりましたが、手術件数は、過去最多となりました。安全に眼科診療を行うことができ感謝申し上げます。

当科は、患者さんの主訴をくみ取り、適切な治療へとつなげることができるように、日々努力してまいります。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

## 診療実績

白内障手術、緑内障手術を中心に、年間800件以上の手術を行っています。白内障手術は、外来手術、入院手術を選択できます。緑内障手術では、低侵襲緑内障手術から濾過手術、インプラント手術まで幅広く対応しています。高齢者、難易度の高い手術が多くなっています。

JR広島病院：眼科手術 805件（2022年度）

	術式	件数	
白内障手術 676件 (+75=751件)	PEA+IOL	675	
	ECCE+IOL	1	
緑内障手術 116件	μhookLOT+PEA+IOL	53	
	・MIGS：71件	TLE	29
	・濾過手術：43件	iStentW+PEA+IOL	15
	・インプラント手術：2件	TLE+PEA+IOL	6
うち白内障同時手術 75件	μhookLOT	3	
	Ahmed	2	
	Express+PEA+IOL	1	
緑内障術後の手術	Express	1	
	Direct suture	1	
	前房洗浄	3	
翼状片手術		14	
霰粒腫摘出術		1	
	合計	805	



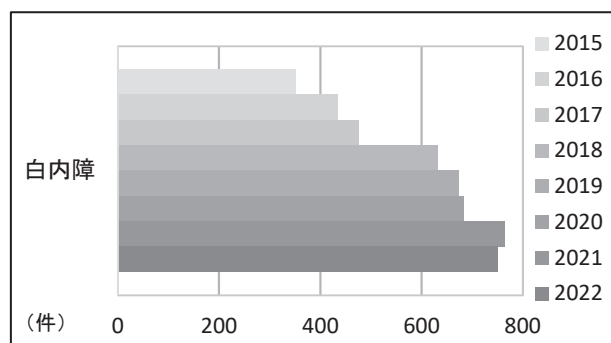
## 1. 診断群分類別患者数等

DPCコード	DPC名称	症例数
020110xx97xxx0	白内障、水晶体の疾患 手術あり 重症度等片眼	68
020220xx01xxx0	緑内障 緑内障手術 濾過手術 重症度等片眼	-
020110xx97xxx1	白内障、水晶体の疾患 手術あり 重症度等両眼	-
020220xx97xxx0	緑内障 その他の手術あり 重症度等片眼	-
020220xx99xxxx	緑内障 手術なし	-

※患者数が10人未満の項目には、ハイフン（-）を表示しています。

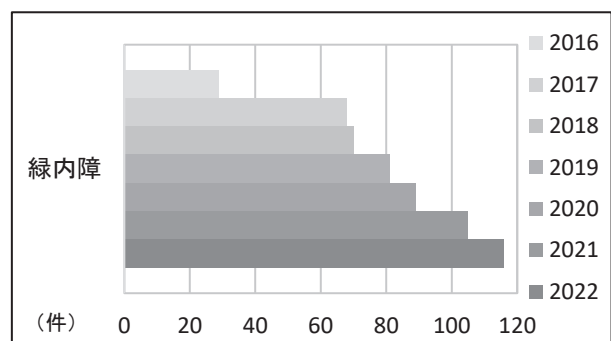
## 2. 眼科手術件数

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
白内障	352	434	477	631	673	683	764	751



(トリプル手術を含む)

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
緑内障	29	68	70	81	89	105	116



(内眼手術のみ)

# 耳鼻咽喉科

## 医師紹介

2022年度在籍医師

### 耳鼻咽喉科主任部長

#### 宮里 麻鈴 2000年卒

Marin Miyasato

耳鼻咽喉科一般

医学博士

日本耳鼻咽喉科学会専門医

補聴器相談医

身体障害者福祉法指定医

### 医師

#### 五月女 有華 2018年卒 (2023年3月31日転出)

Yuka Sotome

耳鼻咽喉科一般

## 診療内容

### 患者さんお一人お一人のニーズに合った検査・治療を提案します。

味、におい、あって当たり前と思っていませんか。最近テレビの音が大きくなった、耳が遠くなったかもしれないと感じることはありませんか。きこえは大切なコミュニケーション方法です。耳鼻咽喉科は五感のうち3つを担当しています。

耳鼻咽喉科ではいろいろな病気に対応します。

耳：中耳炎、耳あか、難聴、めまい、耳鳴り、補聴器の相談、耳のかゆみ

鼻：花粉症、副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、におい

のど：のどの違和感・痛み、飲み込みが悪い、魚の骨、声のかすれ、いびき、扁桃炎

他：かぜ、咳、首のはれ、味覚、顔面神経麻痺、頭頸部腫瘍（診断）など

当科では、地域医療支援病院としてCT、MRI検査、入院や手術も行っています。完治をめざす病気だけでなく、症状の軽減を目指す病気についても適切な説明を行い、患者さんのつらい症状に寄り添いながら、柔軟に対応することを心がけています。におい、難聴は早めの受診が

大切なことがあります。耳鼻科のがんの咽頭がん、喉頭がんは早期発見が重要です。思い当たる症状、気になる病気があればお気軽にご相談ください。専門医が親切丁寧に対応します。複数の診療科領域にわたる病気の場合は、関連する他の科との連携を密に行い、がんや高度な治療が必要な病気は適切な病院をご紹介します。

## 診療実績

### 診断群分類別患者数等

DPCコード	DPC名称	症例数
030230xxxxxxxx	扁桃、アデノイドの慢性疾患	20
030240xx99xxxx	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎 手術なし	20
030400xx99xxxx	前庭機能障害 手術なし	-
030240xx01xx0x	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎 扁桃周囲膿瘍切開術等 定義副傷病なし	-
030350xxxxxxxx	慢性副鼻腔炎	-

※患者数が10人未満の項目には、ハイフン（-）を表示しています。

急性咽頭炎は発熱による倦怠感、経口摂取困難となる症例は在宅での管理が困難であるため入院で治療を行っています。前庭機能障害はめまいを主とする症状があり、初診時に原因が特定できない場合は入院加療を行いながら頭部をはじめとする精査、他科へのコンサルテーションを行っています。重度の末梢性顔面神経麻痺、突発性難聴は安静、点滴によるステロイド治療を行っています。

# 緩和ケア内科

## 医師紹介

2022年度在籍医師

### 緩和ケア内科主任部長

**沖政 盛治** 1992年卒

Seiji Okimasa

医学博士

日本緩和医療学会認定医



## 診療内容

穏やかな時間と空間のために。

当院では病院のリニューアルに際し、新たに緩和ケア内科を設立し、あわせて7階病棟を緩和ケア病棟として運営開始といたしました。がん医療強化の一環としての一翼を担いたいと思っています。

「緩和ケア」とは

がんと診断されたときから行うサポートです。がん患者さんは、それ自体の症状のほかに、痛み、倦怠感などの身体的な症状や、不安、苛立ちなどの精神的な苦痛を経験します。さらには、闘病に際して経済的な問題や生きる意味への問いとしてスピリチュアルな苦痛を抱き苦悩することがあります（全人的苦痛：身体的苦痛、精神的苦痛、社会的苦痛、スピリチュアルな苦痛）。

そのような患者さんには

- ・信仰や人生への思いを尊重します
- ・痛みや苦しみの無い穏やかな日々をめざします
- ・それぞれの専門職が各々の力でお支えします
- ・地域の医療機関と連携し、自宅や医療施設のどちらでも療養できるようにサポートします

以上を信条とし、寄り添っていきたいと思っております。

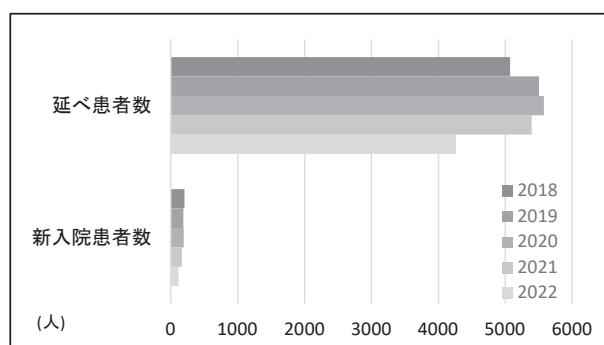
## 病棟内設備

緩和ケア病棟につきましては20ベッド全て個室で対応させていただいています。入棟については一定の条件がありますが、遠慮なく当院スタッフにお声掛けいただきますようお願いいたします。緩和ケア認定看護師をはじめ院内スタッフが懇切丁寧に対応させていただきます。

## 診療実績

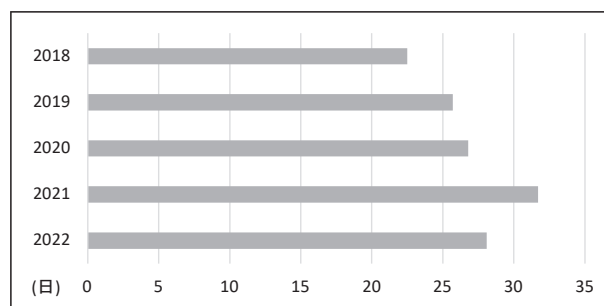
### 1. 患者数

	2018	2019	2020	2021	2022
延べ患者数	5,074	5,506	5,576	5,396	4,263
新入院患者数	200	182	191	164	114



### 2. 平均在院日数

	2018	2019	2020	2021	2022
平均在院日数	22.5	25.7	26.8	31.7	28.1



# 放射線科

## 医師紹介

2022年度在籍医師

### 放射線科主任部長

#### 伊達 秀二 1990年卒

Shuji Date

画像診断全般

医学博士

日本医学放射線学会放射線診断専門医

検診マンモグラフィ読影認定医

### 医長

#### 廣延 綾子 2010年卒

Ayako Hironobe

画像診断全般

日本医学放射線学会放射線診断専門医

検診マンモグラフィ読影認定医

### 医師

#### 前田 智郷 2017年卒

Chisato Maeda

画像診断全般

日本医学放射線学会放射線科専門医

検診マンモグラフィ読影認定医

## 技師長よりごあいさつ

### 中本 幸司

Koji Nakamoto

放射線科では、320列CT等最新機器を導入し、これら进行操作するスタッフは認定資格を持ったスペシャリストを配置しています。また、マンモグラフィーについては女性認定技師が対応し、患者さんが安心して検査を受けて頂けるよう取り組んでいます。検査内容についての疑問やご心配等ございましたら気軽にお問い合わせください。

## 診療内容

最新の医療機器と的確な診断で、患者さんに優しい検査をいたします。

放射線科では新病院体制に伴い最新の医療機器を導入し、数多くの検査に精力的に取り組んでいます。現在世界最高である320列の検出器を搭載したCTは撮像時間や被曝量を大幅に低減し、心臓を含めた全身のあらゆる部位を、3次元で詳細に観察することができます。1.5テスラのMRIは、従来の装置と比較し開口部が広いため圧迫感が少なく、撮像時の騒音を少なくする技術や、造影剤を使用せずに腹部や四肢の血管を撮影できる技術など、より患者さんに優しい検査が可能となりました。核医学検査では、SPECT-CTにより狭心症などの心臓疾患、骨転移などの癌病変、認知症やパーキンソン病をはじめとする神経系疾患など、様々な機能診断を行っています。

当科の画像診断は院内のみならず、地域の開業医の先生方との共同利用を推進しており、現在1日10件前後のご紹介をいただいています。読影はすべて放射線診断専門医が担当しており、「患者さんに優しい、迅速・的確な画像診断」をモットーに診断レポートを作成、提供しております。

## 放射線技師所属学会

日本放射線技術学会

日本診療放射線技師会

日本交通医学会

広島県放射線技師会

日本医用画像管理学会

日本消化器がん検診学会

NPO法人日本消化器がん検診精度管理評価機構

日本心血管インターベンション治療学会

## 放射線技師取得資格

第1種放射線取扱主任者  
 第2種放射線取扱主任者  
 検診マンモグラフィー撮影認定診療放射線技師  
 X線CT認定技師  
 肺がんCT検診認定技師  
 医療情報技師  
 医用画像情報専門技師  
 胃がんX線検診技術部門B資格認定技師  
 胃がんX線検診読影部門B資格認定技師  
 胃がん検診専門技師  
 画像等手術支援認定診療放射線技師  
 Ai認定診療放射線技師  
 血管撮影・インターベンション専門技師  
 磁気共鳴専門技術者

## 医療機器



世界最高水準の「コンピューター断層撮影CT320列」を整備。高水準の画像診断実施、診断の迅速化を図る。



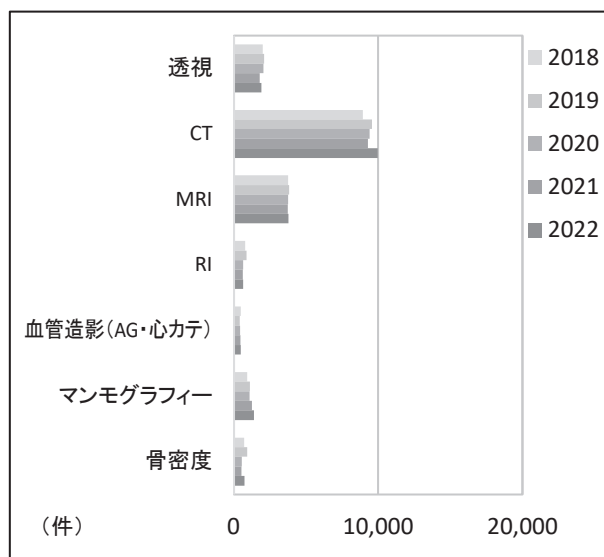
今後増加が予想される循環器疾患の治療を行う高機能装置を整備。



最新のMRI機器・設備を導入。病気の早期発見、早期診断の質の向上を図る。

## 診療実績

	2018	2019	2020	2021	2022
一般撮影	26,453	26,791	25,199	26,985	29,225
透視	2,020	2,107	2,057	1,808	1,915
CT	8,944	9,573	9,412	9,301	9,975
MRI	3,762	3,845	3,775	3,736	3,785
RI	789	892	662	634	644
血管造影 (AG・心カテ)	480	410	447	470	479
マンモグラフィー	932	1,122	1,095	1,249	1,410
骨密度	712	937	565	524	741



# 麻酔科

## 医師紹介

2022年度在籍医師

病院長（～2023.3.31）

**河本 昌志** 1979年卒

Masashi Kawamoto

麻酔一般

日本麻酔科学会指導医

日本ペインクリニック学会専門医

麻酔科主任部長

**久保田 稔** 1983年卒

Minoru Kubota

麻酔一般

日本麻酔科学会会員

部長

**平良 裕子** 1980年卒

Yuko Taira

麻酔一般

日本麻酔科学会専門医

**鈴木 麻倫子** 2007年卒

Mariko Suzuki

麻酔一般

日本麻酔科学会専門医

## 診療内容

### 安全かつ最適な麻酔がモットーです

麻酔科管理の手術症例数は、2022年度は1253例でした。

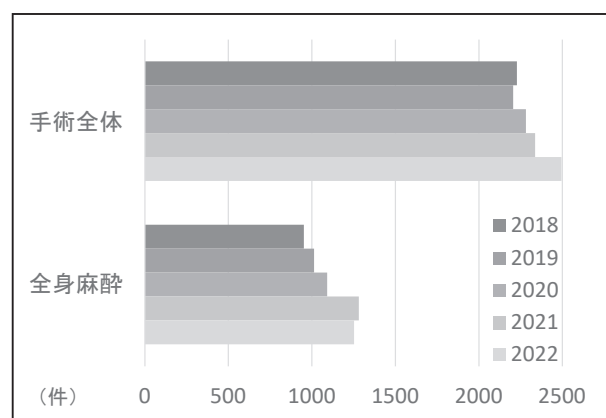
当院で行われる手術の約半数（1日平均5.2例）の麻酔科管理を行っています。

2021年度からは、麻酔科医は2名から3名に増員され、緊急手術が出来るだけ迅速に行われる体制となりました。患者さんが安全で快適に手術が受けられるように、日本麻酔科学会の安全基準に則して麻酔管理を行っています。

## 診療実績

### 全身麻酔症例数

	2018	2019	2020	2021	2022
手術全体	2,228	2,205	2,282	2,337	2,495
全身麻酔	952	1,013	1,092	1,281	1,253



# 病理診断科

## 医師紹介

2022年度在籍医師

教育研修部長・  
臨床検査科（病理診断科）主任部長

**中山 宏文** 1989年卒

Hirofumi Nakayama

病理診断（組織診断、細胞診、病理解剖）  
臨床検査管理、腫瘍間質、脂肪肝（NAFLD/  
NASH）

医学教育

医学博士  
厚生労働省死体解剖資格  
厚生労働省医政局長臨床研修指導医  
臨床研修協議会プログラム責任者養成講習会修了  
病理専門医・病理専門医研修指導医  
細胞診専門医・細胞診専門医教育研修指導医  
臨床検査管理医  
Reviewer Board Member of Japanese Journal of  
Clinical Oncology（Oxford University Press）  
広島大学医学部臨床教授

## 診療内容

国際標準的な診断を、正確・迅速に  
下しています。

患者さんから手術等で摘出された臓器を、目で見て評価し、顕微鏡標本を作製し観察したのち、臨床像を合わせて総合的に検討し、国際的に確立された診断規準に従って最終診断を下す病理組織診断が業務の中心です。また、病変から剥離した細胞および腫瘍を針で穿刺吸引し採取された細胞を顕微鏡で観察し診断する細胞診断を、細胞検査士資格を有する臨床検査技師と協力して行っています。お亡くなりになった患者さんの病理解剖も必要に応じて行い、主治医および関係した医療従事者で、症例検討会を年数回開催しています。分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害薬使用のためのコンパニオン診断も一部院内化しています。

当院病理診断科は、日本病理学会認定施設B（ただし2008年4月1日から2012年3月31日まで、病理解剖数不足のため2012年4月1日以降は日本病理学会登録施設）、日本臨床細胞学会認定施設（2004年4月1日認定）および日本臨床細胞学会教育研修施設（2009年4月1日認定）です。新専門医制度下では、広島大学病理専門

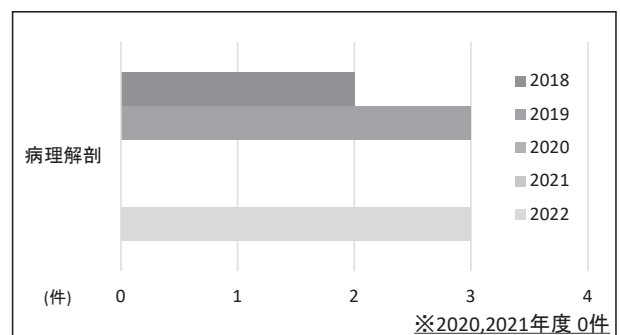
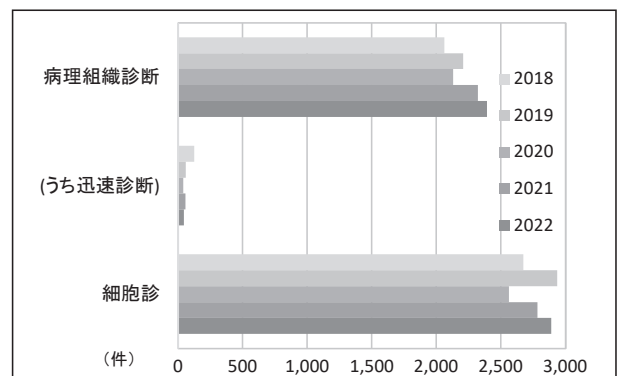
研修プログラムの連携施設として、引き続き病理専門医育成に貢献しつづけます。

教育および研究にも携わっています。当科部長の中山は、広島大学医学部臨床教授の称号を付与されており、当院内で広島大学医学部医学科の5年生の臨床実習Ⅰおよび6年生の臨床実習Ⅱの一部を担当し、市中病院における病理診断の実際を見学していただいています。今年度は学外臨床実習が再開され、臨床実習Ⅱでは4週間コース4名、2週間コース2名の学生が当科で実習されました。また、各診療科の貴重症例の報告を支援し、自らも集積された症例の解析を行っており、病理形態学および病理疫学的研究を継続して行っています。

## 診療実績

各診療科医師の交代等の影響を受けるため、年によって多少異なりますが、過去5年については、以下の通りです。

	2018	2019	2020	2021	2022
病理組織診断	2,062	2,207	2,130	2,323	2,392
（うち迅速診断）	125	60	41	56	44
細胞診	2,674	2,935	2,561	2,783	2,890
病理解剖	2	3	0	0	3



# 健診センター

## 医師紹介

2022年度在籍医師

### 健診センター主任部長

**野村 秀一** 1986年卒

Shuichi Nomura

医学博士  
日本内科学会認定内科医  
日本内科学会認定総合内科専門医・指導医  
日本循環器学会認定日本循環器専門医  
日本老年医学会認定老年病専門医・指導医  
日本高血圧学会専門医・指導医  
日本動脈硬化学会動脈硬化専門医  
広島卒後臨床研修ネットワーク指導医  
日本人間ドック学会認定医  
人間ドック健診情報管理指導士

### 部長

**田中 美和子** 2001年卒

Miwako Tanaka

医学博士  
日本内科学会認定医・総合内科専門医  
日本消化器内視鏡学会専門医・指導医  
日本消化器病学会専門医  
日本消化管学会胃腸科認定医・専門医・指導医

## 診療内容

健診センター部門が設立されてはや7年が経過しました。“健診を通じて病気の予防と早期発見に努め、受診者皆様の健康維持・増進に積極的に貢献します”という当健診センターの理念のもと、引き続き地域住民の方々をはじめとした利用者の健康管理に携わるとともに企業健診にも関わっていくことが当健診センターの目標であります。

医師は昨年と同様の常勤医2名（野村、田中）、非常勤医6名（豊田、今川、竹林、大成、宮本、大学院医師）体制で診察、結果説明を行いました。また今年度も月曜日から金曜日までの毎日3人体制は継続しました。

今年度も引き続き新型コロナウイルスの感染予防対策を徹底して行いました。受付において体温測定を行い、37.5度以上の発熱を認めた場

合は受診をキャンセルしていただきました。3密を避けるように椅子の配置に工夫をしました。また各自で小まめに手指、器具などの消毒を行っていきました。各部屋の換気にも配慮し、CO<sub>2</sub>チェッカーで換気に問題ないことを検証しました。さらに雑誌、新聞は撤去しました。

2021年度の受診者数は一日人間ドックが3,098名（男性2,321名、女性777名）、生活習慣病予防健診が2,226名（男性1,245名、女性981名）、定期健康診が2,481名（男性974名、女性1,507名）でしたが、2022年度の受診者数は一日人間ドックが3,462名（男性2,644名、女性818名）、生活習慣病予防健診が2,541名（男性1,397名、女性1,144名）、定期健康診が2,739名（男性1,112名、女性1,627名）でした。感染予防対策を行いながら近畿地方（498名）、九州地方（48名）などの他県からの受け入れを行い、2021年度の受診者数をも上回り、過去最高となりました。

収益増加の取り組みとして以下の2点があります。

- 1) 生活習慣病予防健診受診者に人間ドックに近い検査項目を受けていただく、名付けて“ハイブリッド健診”を引き続き推し進めることにより、単価が上がり、増収につながりました。
- 2) 地方職員共済組合広島県支部、広島市職員共済といった新たな企業と契約を結ぶことができ、2022年度は105名の方に受診していただきました。

また、体制の整備として以下のことを行いました。

- 1) 転倒、転落防止のため、内視鏡室への移動時には靴を履くことを推奨しました。また鎮静剤を使用した場合は、健診センターの看護師が内視鏡室まで迎えに行くこととしました。
- 2) 受診者の誤認防止のため、リストバンドのバーコード読み取りを徹底しました。
- 3) 雑誌、新聞は撤去した代わりに、Wi-fiを設置し、d-マガジンを購入しました。各自が自分のスマートフォンでd-マガジンを閲覧することで、待ち時間を有意義に過ごしていただけるようになりました。
- 4) レディースデーを2022/5/26、8/25、12/22、2023/2/16の年4回に増やし、引き続き受診者、検査施行者（内視鏡検査は除く）、医師を女性のみで運用しました。
- 5) 初期研修医の先生に約1か月健診業務・診察などの指導を行う体制を整えました。2022年度には2名の先生が当健診センターをローテートしています。



特定保健指導は2021年度71名から本年度251名と増加しています。しかし受診勧奨を含めた生活指導は227名と昨年度340名から減少しており、指導の枠組みを拡大していく予定です。

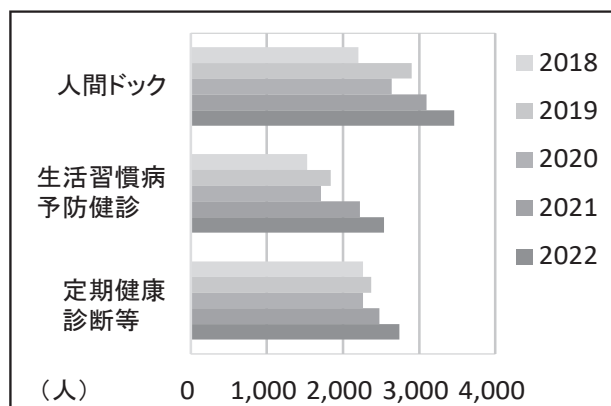
また人間ドック健診施設機能評価受診に向けてワーキンググループ内で準備を進め、申請書類を提出しました。審査は2023年7月に行われ、9月現在、審査結果を待っている状態です。

年2回当センターで行っている受診者満足度調査においては接遇、サービス、設備、問診のいずれの面においても満足度90%以上と高評価をいただいています。引き続き受診者の皆さまが安心して健診を受けられるようにさらなる改善を図っていく所存です。

## 診療実績

### 1. 受診者数

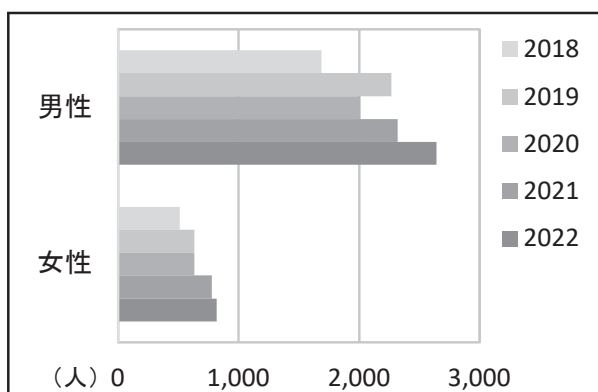
	2018	2019	2020	2021	2022
人間ドック	2,201	2,901	2,642	3,098	3,462
生活習慣病予防健診	1,527	1,838	1,714	2,226	2,541
定期健康診断等	2,265	2,373	2,261	2,481	2,739
計	5,993	7,112	6,617	7,805	8,742



### 2. 受診者数内訳 (種別・性別)

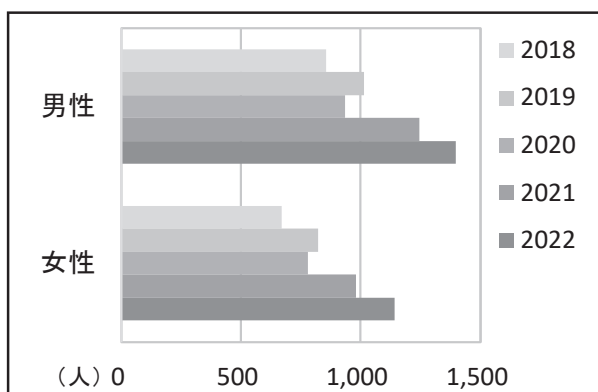
#### (1) 人間ドック

	2018	2019	2020	2021	2022
男性	1,689	2,269	2,009	2,321	2,644
女性	512	632	633	777	818



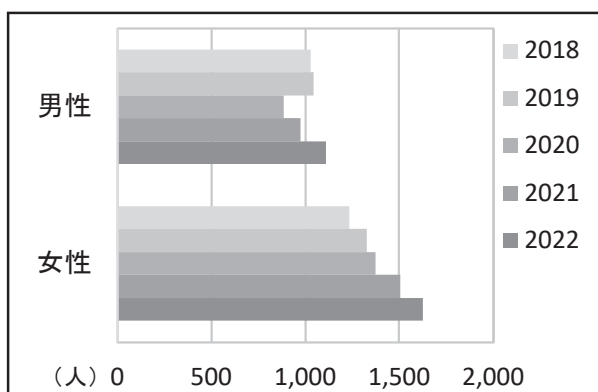
#### (2) 生活習慣病予防健診

	2018	2019	2020	2021	2022
男性	856	1,015	934	1,245	1,397
女性	671	823	780	981	1,144

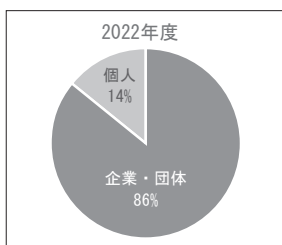
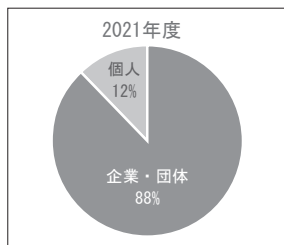
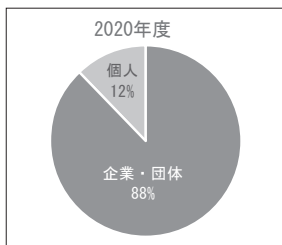
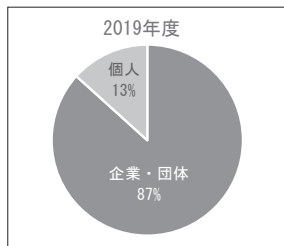
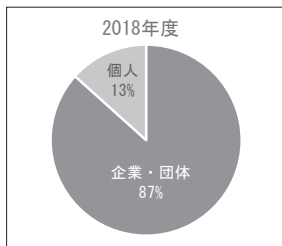


#### (3) 定期健康診断等

	2018	2019	2020	2021	2022
男性	1,030	1,046	887	974	1,112
女性	1,235	1,327	1,374	1,507	1,627

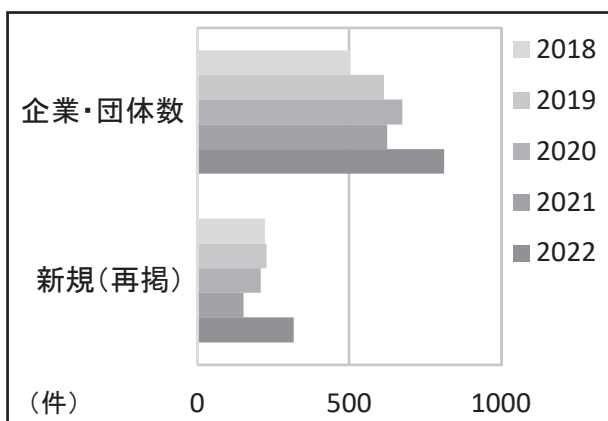


### 3. 申込みの割合



### 4. 企業・団体数

	2018	2019	2020	2021	2022
企業・団体数	615	674	624	813	866
新規(再掲)	227	208	152	317	261



# 歯科口腔外科

## 診療内容

歯科口腔外科は、月曜日～金曜日に広島大学病院の口腔インプラント診療科、咬合・義歯診療科、口腔顎顔面再建外科からの派遣歯科医師および常勤歯科衛生士2名で、入院患者（抗がん剤治療の外来患者も含む）を対象に診療を行っています。

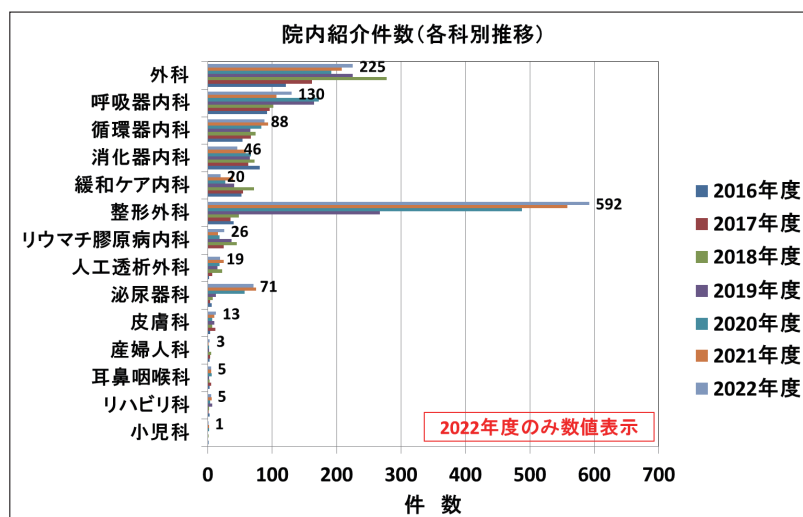
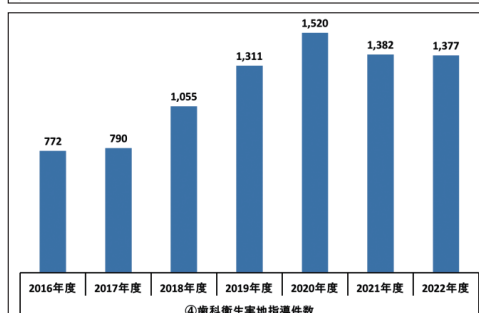
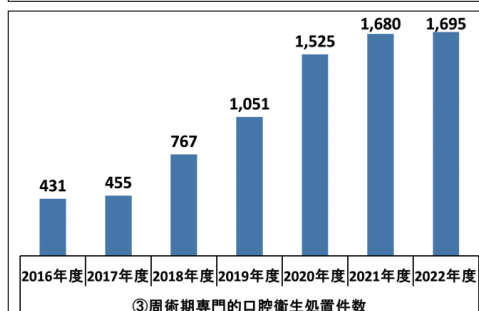
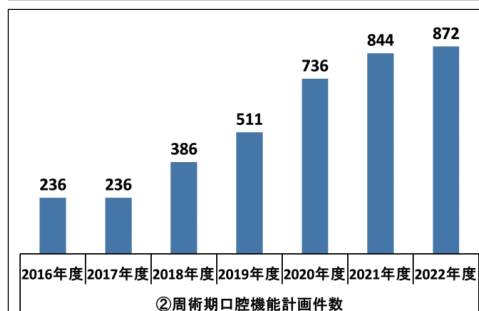
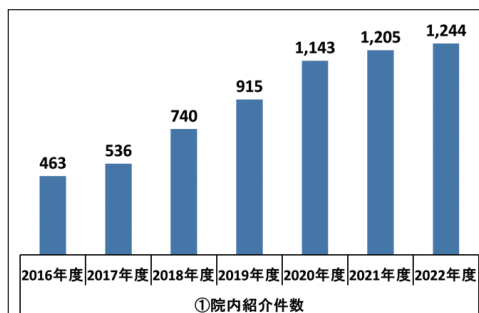
主たる診療は、医科から紹介された周術期の入院患者における口腔機能を管理しています。周術期口腔機能管理は、平成24（2012）年に保険医療に新設され、チーム医療の推進の一つとして、術後の合併症や術後誤嚥性肺炎の軽減、口腔・咽頭領域に合併症を生じる放射線治療や化学療法を受ける患者の口腔機能の管理を行い、さらに、栄養摂取のための良好な口腔環境の維持を目指しています。

その他の診療としては、周術期以外の入院患者の口腔の問題を改善し、入院中の口腔ケアを通して、退院後の歯科治療へつなげる役割も担っています。

ここ数年の①院内紹介件数、②周術期口腔機能計画件数、③周術期専門的口腔衛生処置件数、④歯科衛生実地指導件数の推移、および院内紹介件数（各科別推移）を紹介します。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）禍からWITHコロナ社会の新しい生活様式へ徐々に移行する中、各件数はいずれも増加しており、医科歯科連携チーム医療における歯科の役割を日頃よりご理解いただいた成果と感謝しています。また、骨粗鬆症外来の新設に伴い、薬剤関連顎骨壊死（MRONJ：Medication-Related Osteonecrosis of the Jaw）の認知も広がり、薬剤投与前口腔内診査の依頼も徐々に増えています。さらに、デジタルデンタル・パノラマX線撮影装置の新設で、画像データの共有も可能となりましたので、ご利用下さい。

今後とも引き続き、歯科の運営にご理解とご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。



# 化学療法センター

## 診療内容

確実・安全・安楽な治療を提供  
できるよう努めます。

化学療法センターは、悪性腫瘍あるいは特定疾患に対し、化学療法を受ける患者さん専用の治療スペースです。2016年1月18日の新築移転後より、院内の化学療法はすべてセンターで行うようになりました。スタッフはセンター長の医師：1名、外来がん治療認定薬剤師：1名、専任薬剤師：2名、がん化学療法看護認定看護師：1名、看護師：3名で構成しております。センター内はベッド3床・リクライニング式ベッド7床、計10床を設け、患者さんの要望に応じたベッドで治療を受けていただいております。また、ご家族の待合スペースもあり、患者さん、ご家族ともにリラックスして治療が受けられるよう環境も整えております。あわせて、安全な治療が行われるよう看護師はすぐそばで患者さんを見守り支援しております。治療時間はもちろんですが、ご自宅に戻られた後も副作用などの電話でのご相談を承っております。

患者さんのサポートは医師・薬剤師・看護師・その他多くの職種と連携を図りながら専門性を活かしたチームで行っています。

〈現在治療を行っている診療科〉 2023年7月現在

診療科
外科・消化器外科
消化器内科
呼吸器内科
泌尿器科
産婦人科
リウマチ・膠原病科
小児科

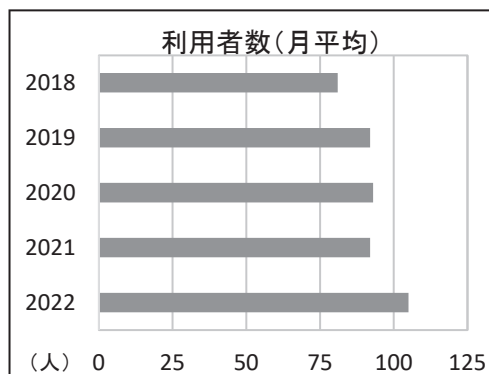
〈疾患別〉 ※一部抜粋

胃がん、大腸がん、膵臓がん、肝内胆管がん  
肺がん、膀胱がん、前立腺がん、子宮頸がん  
子宮内膜がん、卵巣がん、関節リウマチ  
強直性脊椎炎 など

## 診療実績

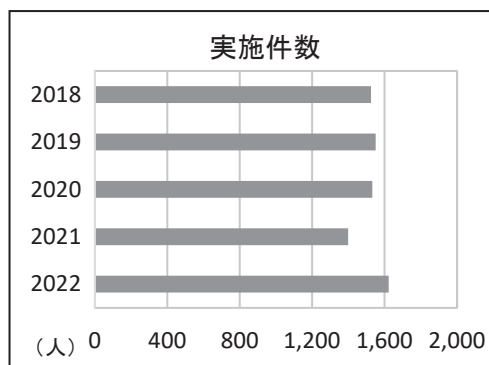
### 1. 利用者数

	2018	2019	2020	2021	2022
利用者数 (月平均)	81	92	93	92	105



### 2. 実施件数

	2018	2019	2020	2021	2022
実施件数	1,525	1,551	1,533	1,399	1,623



# 臨床検査科

## 医師紹介

2022年度在籍医師

教育研修部長・  
臨床検査科（病理診断科）主任部長

**中山 宏文** 1989年卒

Hirofumi Nakayama

病理診断（組織診断、細胞診、病理解剖）  
臨床検査管理、腫瘍間質、脂肪肝（NAFLD/  
NASH）

### 医学教育

医学博士  
厚生労働省死体解剖資格  
厚生労働省医政局長臨床研修指導医  
臨床研修協議会プログラム責任者養成講習会修了  
病理専門医・病理専門医研修指導医  
細胞診専門医・細胞診専門医教育研修指導医  
臨床検査管理医  
Reviewer Board Member of Japanese Journal of  
Clinical Oncology  
広島大学医学部臨床教授

## 技師長よりごあいさつ

**川西 なみ紀**

Namiki Kawanishi

臨床検査技師・修士  
日本臨床細胞学会認定細胞検査士（JSC）  
国際細胞学会認定細胞検査士（CMIAC）  
日本心理学会認定心理士

高度化・複雑化した医療に貢献できるよう、  
資格や専門知識を持った21名の臨床検査技師が  
従事しています。患者さんの大切な検体や生体  
から、正確で精度の高い検査結果をご提供でき  
るよう心がけています。どうぞ宜しくお願いいた  
します。

## 運営方針と目標

1. 医療過誤のない迅速で正確な検査情報を提供します。
2. チーム医療に心がけ診療支援を行います。
3. 最新の専門的知識と技術を習得し、目標達成のため、日々の業務に真摯に取り組んでいます。また、研修会に参加し、学会発表および論文投稿を積極的に行っています。

## 診療内容

正確・迅速な診療支援をしています。

ご来院いただいた患者さんの診断と治療、病態把握に必要な臨床検査結果を医師に提供する部署で、検体検査、生理検査、および病理診断支援の3部門からなります。

院内感染予防対策チーム（ICT）、抗菌薬適正使用支援チーム（AST）、栄養サポートチーム（NST）など院内の他部門と密な連携を取り、安全で適切な医療の向上に努めています。

日本臨床衛生検査技師会、日本医師会、および広島県医師会などの精度管理（外部精度管理）に参加し、検査精度向上を目的として、努力しています。

また、「標準化され、かつ精度が十分保障されていると評価できる施設」として日臨技精度保証施設に登録されています。

### 1. 検体検査部門

患者さんから採取された検体（血液、尿、便、穿刺液、喀痰、鼻汁等）を検査します。

### 生化および血清検査

血液中の血清を用いて、肝機能（AST、ALTなど）、脂質（LDL-C、HDL-Cなど）、腎機能検査（尿素窒素、クレアチニンなど）、抗体、腫瘍マーカー（PSA、CA19-9など）、及び各種ホルモンの値を測定します。

### 血液検査

血液中の赤血球数、白血球数、血小板数を測定し白血球分類などを行います。異常があれば顕微鏡で目視し所見を報告します。凝固線溶系検査も測定します。

### 輸血検査

輸血副作用のリスクが非常に少ない自己血輸血に積極的に取り組んでいます。血液（A、B、O、Rh）を確認するのみならず、さらに詳細な検査を行い（不規則抗体検査、交差適合検査）を行い、安全な輸血療法に貢献しています。

## 一般検査

尿や便の中の細胞や物質を調べます。尿中の糖やたんぱく質を検査することにより糖尿病や腎機能の異常を知ることができます。膀胱がんの細胞が尿の中にでてくることがあります。便潜血反応は大腸がんをはじめ消化管がんのスクリーニングに有用です。

## 細菌検査

感染症の原因となる細菌を見つける同定検査と、どんな薬が効くのかを調べる薬剤感受性検査を行っています。同定検査は質量分析装置を使用し、精度の高い結果を迅速に報告しています。薬剤耐性菌の検出や抗酸菌の遺伝子検査も院内で実施しており感染症治療や院内感染対策に生かしています。

## 採血

看護師と協力して採血業務を行う、検体検査の窓口となる部門です。取り違え防止などのため、患者さんごとにバーコードラベルを発番させて検査過誤防止に取り組んでいます。痛みを伴う採血への患者さんの負担軽減のため、接遇の向上にも努めています。

## 2. 生理検査部門

心電図、ホルター心電図、肺機能検査（VC、FVC、RV、DLco、呼吸抵抗など）、脳波、トレッドミル運動負荷検査、心肺運動負荷試験（CPX）、超音波検査（消化器、循環器、血管、乳腺、関節など）、神経伝導速度検査、睡眠時無呼吸検査（簡易、精密）等を行っております。この他にも術中脊髄モニタリングや心臓カテーテル検査の生体情報モニタリングもしています。また、健診センターとも連携して検査を行っています。

## 3. 病理診断支援部門

細胞診分野では、日本臨床細胞学会の認定施設であり、婦人科、呼吸器、泌尿器、甲状腺、乳腺、体腔液など院内で提出される全ての材料を取り扱い、細胞検査士がベッドサイドまで出向いて標本を作製しています。材料によっては、液状検体細胞診や必要に応じてセルブロックを作製し、細胞からできる限りの情報をご提供できるよう努力しています。

病理組織分野では、生検材料から手術材料を取り扱っており、検体の取り違え防止を徹底するとともに、診断に適した標本作製、必要に応じて免疫染色、遺伝子検査を行っています。

## 当院臨床検査科が取得している認定基準

品質保証施設認証（日本臨床衛生検査技師会認定）  
日本臨床細胞学会施設認定  
日本病理精度保証機構認定（染色サーベイ・フォトサーベイ）  
PCR感染症検査研究会認定（マイコバクテリウムコントロールサーベイ）

## 当院臨床検査技師が所属する学会

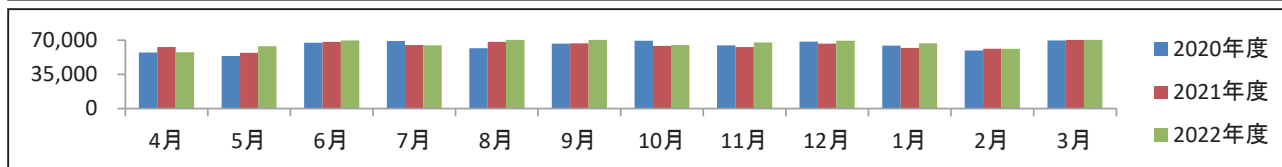
日本臨床衛生検査技師会・広島県臨床検査技師会  
日本交通医学会・日本医療検査科学会  
日本臨床化学会・日本検査血液学会  
日本輸血細胞治療学会・日本臨床微生物学会  
日本感染症学会・日本環境感染学会  
日本医用マスペクトル学会・日本化学療法学会  
国際細胞学会・日本臨床細胞学会  
広島県臨床細胞学会  
日本超音波医学会・日本超音波検査学会  
心エコー図学会・日本不整脈心電学会  
日本心血管インターベンション治療学会  
日本臨床栄養代謝学会

## 取得資格

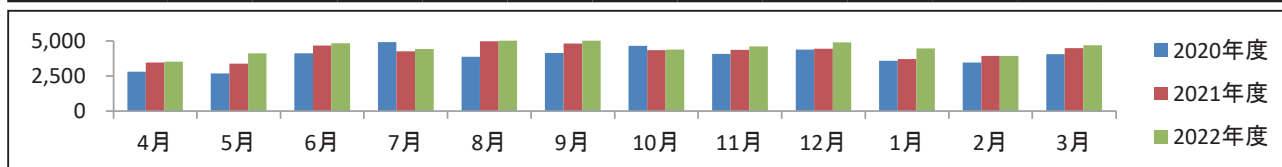
認定血液検査技師  
認定一般検査技師  
認定心電検査技師  
認定臨床微生物検査技師  
感染制御認定臨床微生物検査技師（ICMT）  
超音波検査士（循環器領域）（腹部）（健診）  
国際細胞検査士（CMIA）（CTIAC）  
日本臨床細胞学会認定細胞検査士（CT）  
二級臨床検査士（臨床化学）  
二級臨床検査士（免疫血清）  
二級臨床検査士（血液）  
二級臨床検査士（微生物）  
緊急臨床検査士  
心血管インターベンション技師  
医用質量分析認定士  
NST専門療法士  
広島県糖尿病療養指導士  
日本リウマチ学会登録ソノグラファー  
日本臨床試験学会認定GCPパスポート認定資格  
ひろしま肝炎コーディネーター

## 各種検査の実績

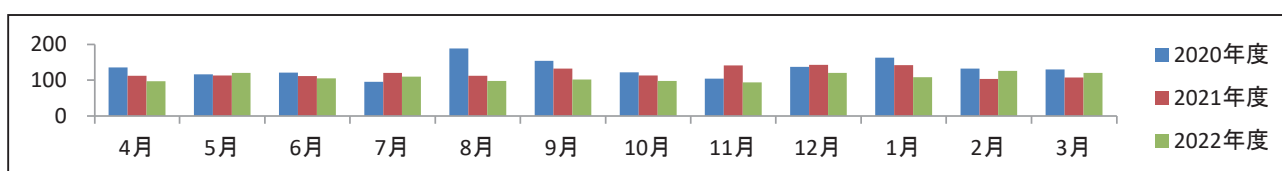
【生化学・免疫】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020年度	57,319	53,653	67,198	69,101	61,570	66,224	69,389	64,598	68,315	64,177	59,204	69,605	799,177
2021年度	62,806	57,068	68,155	64,818	68,076	66,544	63,864	62,662	66,320	61,948	61,039	71,110	770,353
2022年度	57,577	63,805	69,511	64,655	70,065	71,444	64,784	67,602	69,344	66,680	60,913	72,039	798,419



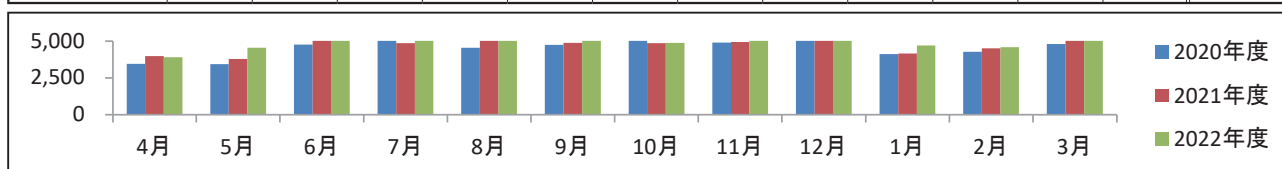
【糖関連検査】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020年度	2,800	2,676	4,104	4,918	3,869	4,122	4,635	4,071	4,385	3,571	3,455	4,049	49,316
2021年度	3,456	3,378	4,670	4,250	4,968	4,805	4,333	4,360	4,444	3,700	3,918	4,475	46,655
2022年度	3,520	4,117	4,826	4,408	5,452	5,323	4,370	4,604	4,892	4,464	3,921	4,689	54,586



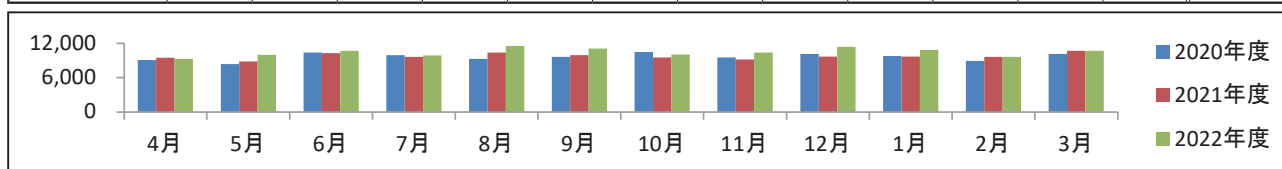
【血液ガス】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020年度	135	116	121	95	188	154	122	104	137	163	132	130	1,166
2021年度	112	113	111	120	112	132	113	141	143	142	103	107	1,597
2022年度	97	120	105	110	98	102	98	94	120	108	126	120	1,298



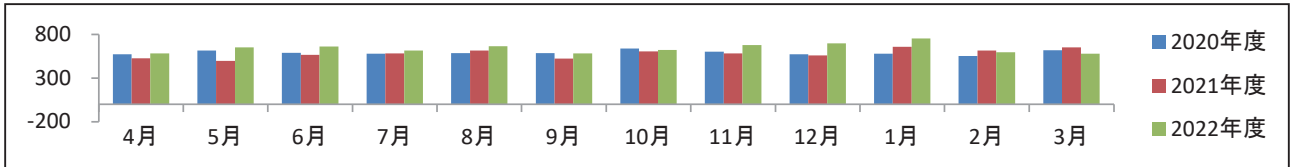
【一般検査】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020年度	3,446	3,425	4,762	5,025	4,545	4,731	5,229	4,892	5,014	4,113	4,262	4,802	57,974
2021年度	3,985	3,784	5,239	4,846	5,112	4,880	4,845	4,933	5,120	4,151	4,498	5,060	54,246
2022年度	3,905	4,536	5,367	5,076	5,608	5,462	4,879	5,140	5,457	4,703	4,587	5,597	60,317



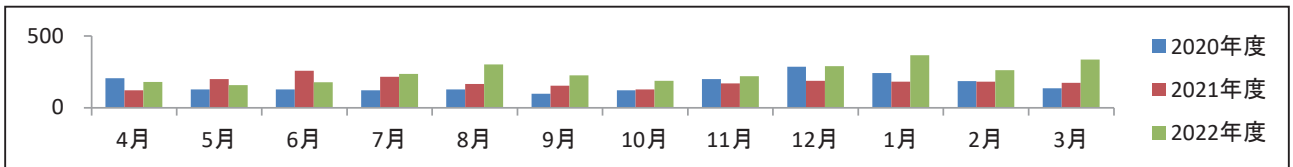
【血液・凝固検査】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020年度	9,056	8,346	10,393	9,935	9,244	9,617	10,449	9,517	10,099	9,749	8,890	10,133	119,103
2021年度	9,467	8,829	10,248	9,600	10,394	9,942	9,518	9,184	9,644	9,653	9,625	10,672	115,428
2022年度	9,248	9,947	10,683	9,889	11,502	11,065	10,021	10,376	11,360	10,827	9,620	10,656	125,194



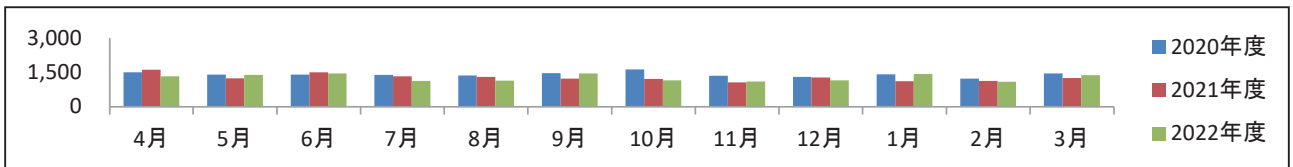
【輸血関連検査】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020年度	572	614	589	579	586	586	637	600	571	578	551	616	6,773
2021年度	527	495	564	580	614	521	604	582	559	656	614	652	7,079
2022年度	581	651	660	615	664	582	620	677	696	754	596	579	7,675



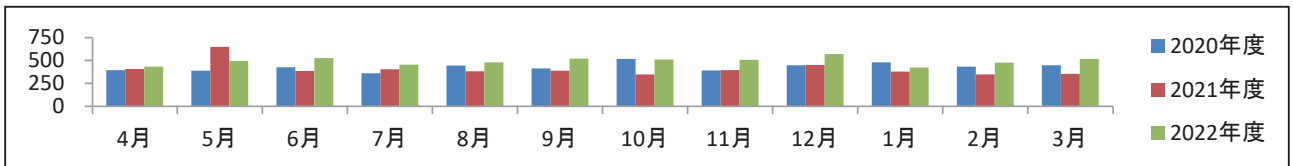
【簡易迅速検査】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020年度	206	127	128	122	128	97	122	200	285	241	185	136	4,389
2021年度	122	199	258	216	165	154	127	170	188	181	181	174	1,977
2022年度	179	158	177	236	301	225	188	220	289	365	262	336	2,936



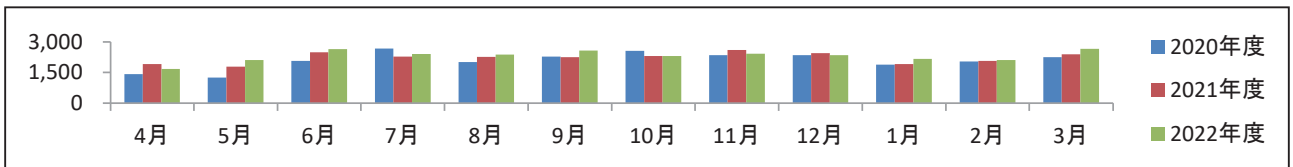
【外部委託検査】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020年度	1,507	1,398	1,398	1,383	1,365	1,459	1,621	1,354	1,304	1,414	1,227	1,450	19,097
2021年度	1,619	1,234	1,499	1,331	1,295	1,221	1,217	1,060	1,275	1,107	1,121	1,251	16,880
2022年度	1,319	1,394	1,453	1,125	1,137	1,449	1,155	1,101	1,152	1,421	1,083	1,381	15,170



【細菌検査】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020年度	393	388	424	361	443	414	517	392	446	479	431	446	4,679
2021年度	407	648	386	405	380	389	347	394	451	379	346	354	5,134
2022年度	431	495	526	453	478	521	509	508	570	421	476	517	5,905



【生理機能検査】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020年度	1,410	1,245	2,058	2,666	2,008	2,277	2,561	2,347	2,345	1,888	2,042	2,241	30,865
2021年度	1,911	1,776	2,485	2,279	2,263	2,247	2,301	2,596	2,441	1,913	2,071	2,383	25,088
2022年度	1,674	2,109	2,635	2,404	2,380	2,565	2,297	2,416	2,340	2,156	2,100	2,654	27,730





# 温熱療法室

## 医師紹介

2022年度在籍医師

**小野 栄治** 1974年卒

Eiji Ono

医学博士

日本ハイパーサーミア学会認定医

日本外科学会専門医

日本外科学会指導医

日本消化器外科学会・消化器がん外科治療認定医

## 診療内容

### 悪性腫瘍に対する温熱療法 (ハイパーサーミア) について

当院では、新病院においてハイパーサーミア治療室(温熱療法)を設置し、サーモトロンRF8を配備し悪性腫瘍に対する温熱療法を開始します。この治療は、癌など悪性腫瘍が正常組織に比べ熱に弱いという性質を利用し、サーモトロンRF8という装置を用いて、腫瘍組織を中心に局所の温度を選択的に42℃から44℃の高温状態を作り出すことにより、腫瘍を縮小あるいは予後を延長させることを目的とした治療法です。

#### 1. 対象となる疾患

脳など頭蓋内の領域を除く悪性腫瘍のうち、体中すべての悪性腫瘍が適応となります。手術や内視鏡治療等で治療が可能なものではそれらの治療を優先すべきですが、手術で切除できない進行がんや再発がん、体力的に手術を受けられない場合などが適応となります。抗がん剤などの化学療法や放射線治療との併用療法の有効性が高く、通院での治療も可能です。

#### 2. 治療の原理

体の表面だけでなく、深部まで到達する8MHzの高周波を用いて、ターゲットとなる腫瘍の領域を選択的に加温します。正常組織は、加温されると組織内の血管が拡張し、血流量の増加が車のラジエーターのように作用し、組織の温度上昇を抑制しますが、腫瘍組織内の血管は拡張しにくい構造となっているために、組織内の温度が上昇し、結果として効率的な加温がされます。したがって、腫瘍部分が選択的に熱によるダメージを受けます。また、放射線治療や抗がん剤の

治療中の組織では、この効果がさらに増幅されることが証明されています。また、温熱治療により免疫担当細胞が活性化され、腫瘍免疫の増強により、癌に対する抑制効果に繋がることも知られています。

## 診療実績

2016年1月に新病院での診療開始時に広島では初めての電磁波温熱療法を導入し2023年3月末の時点で7年2か月となります。この間に426例の悪性腫瘍の患者さんに対する診療を行ってきました。そのほとんどは、遠隔転移や、リンパ節転移、腹膜播種などを伴う高度進行・再発の極めて厳しい状況の患者さんです。その中で最も長期になる例は、前立腺癌の骨転移、肺転移のあった事例で、現在6年10か月を経っていますが、再発病変はなくCRの状態を維持されています。

2016年1月25日から2023年3月31日までの新規治療症例の疾患別患者数

表1 ( )内は2022年度の症例数。

原疾患	症例数
頭頸部ガン	16 ( 0 )
食道ガン	10 ( 0 )
肺ガン	37 ( 7 )
乳ガン	35 ( 4 )
胃ガン	25 ( 2 )
結腸・直腸ガン	72 ( 5 )
膵ガン	51 ( 5 )
肝・胆道ガン	17 ( 1 )
子宮・卵巣ガン	46 ( 8 )
泌尿器系ガン	16 ( 3 )
その他	18 ( 0 )
計	454 (35)

2022年度は新規に35例の治療を開始しています。最も多かったのが肺癌の7例でした。次いで、卵巣癌6例、大腸癌5例、膵癌5例、乳癌4例、胃癌と前立腺癌、子宮癌がそれぞれ2例、胆管癌と腎癌が1例ずつと、様々な臓器の癌に対して治療を行っています。いずれもStageⅣの症例で、他院での治療継続中でPDの状況にある方々でした。

今回、現在までに、3年以上治療継続できた23名の患者さんにつき検討してみました。

性別は男性 8 例、女性15例。年齢は33歳から88歳。疾患別の内訳は、肺癌 5 例、乳癌 4 例、大腸癌 4 例、胃癌 2 例、膀胱癌 1 例、卵巣癌 2 例、子宮平滑筋肉腫 1 例、前立腺癌 1 例、肝細胞癌 1 例、十二指腸乳頭癌 1 例、胸腺癌 1 例と様々でした。発症時、手術不能であった例が 7 例、手術後の再発例は16例、いずれの症例も化学療法の治療歴を有しており、ハイパーサーミア開始時のClinical Stageでは、乳癌、大腸癌、胸腺癌のそれぞれ 1 例ずつの 3 例のみがStageⅢ、その他はいずれもStageⅣでした。治療開始 3 年後の臨床的評価としては、CR 7 例、PR 1 例、SD 5 例、PD10例でした。それぞれの症例は、治療開始時の進行度を考えれば、ハイパーサーミアによる予後延長効果が示されたと考えています。

# 教育研修部

## 教育研修部について

教育研修部は、

1. 院内の教育研修環境の整備
2. 初期臨床研修医のプログラムの整備、指導状況の把握、およびリクルート活動などを目的に、病院の医療法人化と合わせて、2016年4月1日に開設されました。

スタッフは、教育研修部長の中山宏文1名（診療部臨床検査科主任部長を兼務）と初期研修医（総定員10名）です。初期研修医については、2022年度は4月時点で、総勢9名（総定員10名）在籍しました。内訳は、当院基幹型プログラムの1年次4名（定員4名）、同プログラムの2年次4名（定員4名）、そして広島大学病院の臨床研修プログラムB4（当院とのたすきがけ）の2年次1名（定員2名）です。2年次生5名（基幹型4名およびたすきがけ1名）は2023年3月末に無事研修を修了しました。

活動は具体的に以下のごとくです。

### 1. 教育研修環境の整備

#### 1) 部門横断的カンファレンスやセミナーの充実

従来から行われてきたCPCやキャンサーボードに加えて、医療安全管理室の専従看護師の長谷川三智江副看護師長および室長である岡本有三診療部長の支援のもと、死亡症例カンファレンスを開催しています。医師、看護師はじめ多職種が参加しておりますが、さらに多くの職員の参加が望まれます。定期的に開催できるよう、さらに努力したいと考えています。研修医セミナーを月1回開催しており、好評です。今後は、週1回ぐらい頻繁に開催する方が教育的かもしれませぬ。研修医による院内でのプレゼンテーションの機会が極めて少ないので、研修医が経験した症例の発表会を定期的（月一回程度）に行いたいと考え、2023年1月と2月の2回に分けて医局会前に2年次研修医自身が経験した希少な症例の発表や集積した症例の解析結果を報告していただきました。

#### 2) 教育研修のための機器の充実

シミュレーターの更新および新規購入を積極的に進めつつありますが、充分ではありません。看護部、医療安全管理室はじめ多職種での研修を考慮し、充実させるよう努力する所存です。

### 3) 論文発表等の支援

院内には、論文査読経験がある医師初め医療スタッフが数名在籍しています。部長中山も、上記諸先生方同様、欧文および和文雑誌の査読経験があり、毎年数編ではありますが査読しています。日本交通医学会で発表された演題で上記学会誌へ投稿するよう推薦された発表の論文化支援をはじめ、その他の活動についても、可能な範囲で支援（査読者とのやりとり、適切な指導者の推薦等）しています。経験あるスタッフによる支援体制を整備する必要があると思われます。

## 2. 初期臨床研修医のプログラムの整備、指導状況の把握、リクルート活動、修了後の進路

### 1) プログラム整備 — 救急研修の充実、産科研修の受け入れ、HIPRACとの連携等 —

当院は、市内の4病院（広島大学病院、県立広島病院、広島市立広島市民病院、および広島赤十字・原爆病院）と共に、基幹型臨床研修病院です。本プログラムにご参画いただいております施設の医師はじめ全スタッフの皆様にご挨拶いたします。当院内では、合計24週間お世話になる内科4部門はじめ各診療科の多くのベテラン医師よりご指導いただいております。診療科によっては、院外で研修せざるを得ません。当院の臨床研修プログラムの協力型臨床研修病院は、県立広島病院（精神神経科）、広島赤十字・原爆病院（産婦人科）、市立三次中央病院（産婦人科）、翠清会梶川病院（広島市中区、脳神経内科）、医療法人社団更生会草津病院（広島市西区、精神神経科）です。特に、産婦人科は、かつて当院に産婦人科部長（現在の主任部長相当）として在籍された医師が産婦人科の長としてお勤めの広島赤十字・原爆病院および市立三次中央病院産婦人科で毎年研修させていただいております。臨床研修協力施設は、広島市東区の山崎病院（地域医療）、長崎県平戸市の平戸市民病院（地域医療）、および広島市東区の広島がん高精度放射線治療センター（HIPRAC（放射線治療））、そして高知県高知市の社会医療法人近森会近森病院（以下、近森病院）です。山崎病院では、院長の新宮哲司先生の陣頭指揮のもとに、幅広く親身にご指導いただいております。近森病院では、walk-inから多発外傷や心肺停止症例まで幅広い救急症例を多数経験できるため、近森病院のERにて4週間研修できる体制にしており、2018年度、2019年度、2020年度にそれぞれ1名が研修しました。

## 2) 指導状況の把握

研修医の評価は2018年度の1年次生より、事務部長の陣頭指揮の元、総務企画課の尽力でStandard EPOCが導入され、2020年度の1年次生より、研修医評価表Ⅰ「A. 医師としての基本的価値観」、研修医評価表Ⅱ「B. 資質・能力」、および研修医評価表Ⅲ「C. 基本的診療業務」に関する多職種評価が導入され、Standard EPOCはEPOC2に進化しました。研修医および当方、そして研修医OBは総務企画課担当者に心より感謝しております。

## 3) リクルート活動

リクルート活動は、当院の研修医そして事務部の協力なくしては、行えません。

2022年度は広島市内で春に開催されるマイナビレジデントフェスティバル、およびレジナビIN福岡に参加し、当院をWEBあるいは対面で見学してくれた医学生が応募してくれたため、2021年度に続き2022年度も、マッチングのみで定員4名を充足することができました。

## 4) 研修修了後の進路

当院基幹型プログラムの2022年度（2023年3月末）修了の研修医は4名でした。修了後は、内科に1名（広島大学病院専門医制度内科領域プログラム（リウマチ・膠原病内科）、放射線診断科に1名（広島大学病院放射線専門研修プログラム）、病理診断科に2名（広島大学病理専門プログラム1名、広島市民病院病理プログラム1名）進みました。たすきがけプログラムの1名は麻酔科（広島大学麻酔科専門研修プログラム）を専攻し、広島大学病院にて研修しています。

2008年度以降の当院（広島鉄道病院およびJR広島病院）基幹型プログラム修了者および進路は以下の通りです。

( ) 内は人数

	総数	男性	女性	進路
2008年度	2	1	1	内科 (1)、精神神経科 (1)
2009年度	4	3	1	内科 (2)、精神神経科 (1)、総合診療 (1)
2010年度	0	0	0	
2011年度	2	2	0	内科 (1)、泌尿器科 (1)
2012年度	2	2	0	整形外科 (1)、病理診断科 (1)
2013年度	0	0	0	
2014年度	2	2	0	内科 (1)、泌尿器科 (1)
2015年度	2	2	0	眼科 (1)、病理診断科 (1)
2016年度	0	0	0	
2017年度	1	0	1	病理診断科 (1)
2018年度	3	0	3	内科 (1)、皮膚科 (1)、病理診断科 (1)
2019年度	3	3	0	内科 (1)、泌尿器科 (1)、放射線治療科 (1)
2020年度	4	3	1	内科 (2)、精神神経科 (2)
2021年度	4	3	1	内科 (2)、精神神経科 (1)、病理診断科 (1)
2022年度	4	1	3	内科 (1)、放射線科 (1)、病理診断科 (2)

# 看護部

## 看護部長よりごあいさつ

**堀江 玲子**  
Reiko Horie

## 看護部理念

私たちは心をこめて安心と安全な看護を提供します。

## 看護部の基本方針

- ①安全な医療・看護を提供します。
- ②患者サービスの向上に努めます。
- ③専門職として看護の質の向上に努めます。
- ④地域医療への貢献に努めます。
- ⑤他職種との連携に努めます。

JR広島病院における看護は、病院理念「優しさと誠実な医療でさらなる地域貢献をめざします。」のもと、心をこめて良質で安全な看護を提供します。

患者さん、ご家族と良好なコミュニケーションを図り、他職種と連携しチームで質の高い医療・看護サービスを提供できるよう努めてまいります。

専門性の高い看護職の育成や継続教育にも力を入れ、看護職が生き生き働くことができる職場づくりにも取り組んでいます。

患者さんから「JR広島病院を選んで良かった。」と思って頂けるように職員一丸となって努力していきたいと思えます。

今後ともよろしくお願い致します。

## 教育理念

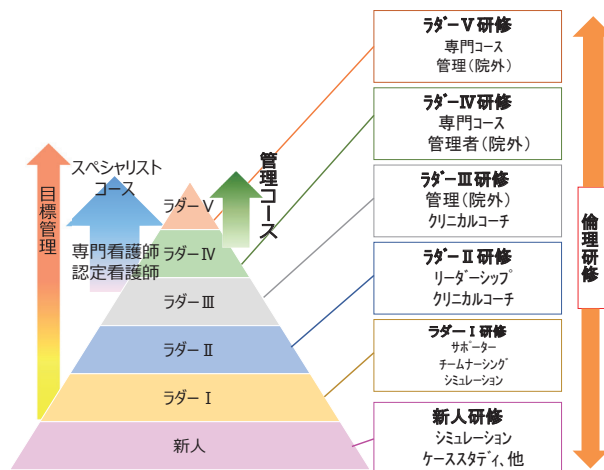
JR広島病院看護部は、看護職が専門職業人として能力の維持・向上を主体的に行うと共に地域医療に貢献できるよう、体系的な継続教育を行います。

- 概念に基づいた質の高い看護を提供できる看護師を育成する。
- 思いやる人間性と倫理観を育成する。
- 実践能力の維持・向上のため、自己研鑽を主体的に行える看護師を育成する。

## 教育体制

当院はクリニカルラダーを採用しています。クリニカルラダーとは、看護師の臨床実践における能力を段階的に表現したもので、新人とレベルⅠ～Ⅴまでを設定しています。

レポートや、研修態度、技能により評価し、レベルアップできるよう教育します。

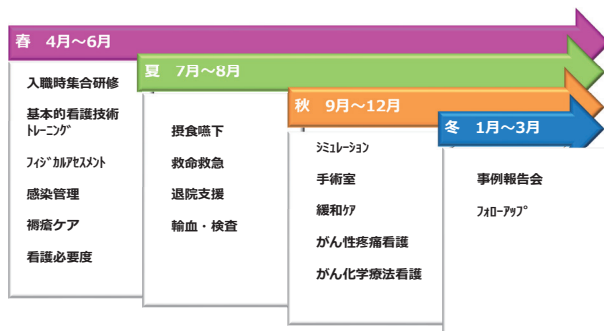


## 新人教育

目的：専門職業人としての自覚を高め、看護師としての役割を認識する。

目標：組織の概要を知り、その一員としての役割を学ぶ。

クリニカルコーチ、いわゆるプリセプターと、精神面を支えるサポーターで新人をサポートしています。また、各部署での教育担当や臨床場面での実地指導者がおります。看護技術も臨床にに応じて、基礎から学び、一人ひとり技術の上達を確認しながら、自立できるよう支援しています。2021年度より新人ローテーション研修を行い新人が自分に適した現場を発見しやりがいを持って仕事を継続できる研修としています。



## 看護部教育責任者より

### 久保田 佳代（副看護部長）

Kayo Kubota

JR広島病院の理念のもと、地域に根ざし信頼される病院を目指し、良質で安全な看護を提供できるように努めています。

専門職として自律性をもち、患者さん自身の力をひきだし、そばで支え、望む暮らしにつながる看護を実践できる看護師をめざし継続的な教育を行っています。

また、一人ひとりのキャリアやスキルに合わせた教育も行っており、認定看護師・特定行為看護師に向けて支援など、個々のキャリアアップに向けた支援体制も整えています。

当院看護部は、「人」を大切に守り育てる教育を行って行きます。

# 臨床工学室

## スタッフ

原 和信、多根 正二郎、脊戸川内 稔、  
濱田 祐己、宗美 淳志 境田 祐太、  
三島 綾香、西海 真吾、長久 拓矢、  
坂本 直樹、齊藤 秀敏

## 業務内容

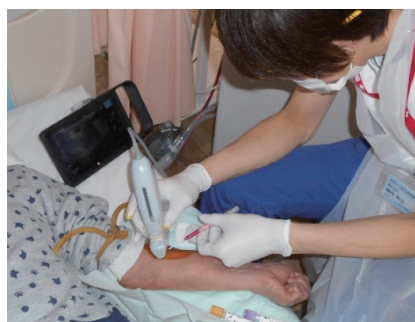
### 医療機器管理

輸液ポンプ、シリンジポンプ、人工呼吸器、ネブライザー、低圧持続吸引器、体外式ペースメーカを中央化し管理しています。貸し出し機器については毎日ラウンドにて使用中点検も行い稼働中の機器トラブルなどの対応も行い稼働率を算出しています。また人工呼吸器、輸液・シリンジポンプ・除細動器、AED、IABP、PCPS、電気メス等の点検も定期的に技士にて行っています。



### 人工透析センター

透析室における主な業務は穿刺（エコー下穿刺）、USを使用するシャント管理、透析液水質管理、プライミング（全自動）、機器保守点検、修理、定期消耗部品交換などであり透析中は患者管理と装置の監視業務を行っています。また、各患者のシャントエコーを定期的に行い結果を医師にレポート形式で報告しています。他の血液浄化法として透析センター内では腹水濾過濃縮再静注療法、血漿交換療法、病棟においてはエンドトキシン吸着、持続的血液濾過透析法（CHDF）なども透析外科医師の指示のもと行っています。



### 手術室

整形外科領域での自己血回収装置の操作、甲状腺腫瘍摘出術中の神経モニター、ペースメーカ植え込み術における閾値測定、透析患者のシャント造設（修復術含む）、血栓除去術、腹膜透析チューブ造設術における前立ち業務も行っています。麻酔器の使用前点検も平日毎日行い、内視鏡手術時におけるシステムセッティングを業務として追加しました。



## 温熱療法

腫瘍治療併用療法としてのハイパーサーミア装置の操作を行い、加温出力の調整や熱感時の対応、抗がん剤副作用の観察、機器メンテナンスなどを行っています。



## 臨床工学室実績

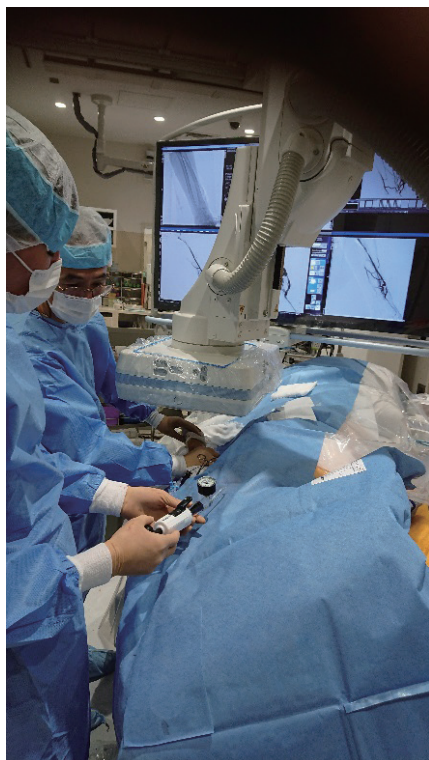
### ペースメーカ外来

ペースメーカ挿入患者の6ヶ月フォローを週1回行い装置が正常に作動しているか、危険な不整脈はないか、電池電圧は正常範囲内をキープできるかなどをチェックしています。

### 心カテ室

心臓カテーテル（検査、治療）における各種モニター記録、IVUSによる冠動脈の長径、内径の計測、FFRや血管内視鏡等の操作を行っています。

また透析外科医師によるバスキュラーアクセス拡張術（PTA）の前立ち業務も行っていきます（緊急も対応）。



		2020年度	2021年度	2022年度
医療機器管理	人工呼吸器 使用前点検	66台	106台	131台
	人工呼吸器 定期点検	18台	20台	21台
	輸液ポンプ定期点検	162台	161台	155台
	シリンジポンプ定期点検	147台	148台	152台
	除細動器定期点検	12台	12台	21台
	AED定期点検	27台	13台	30台
	電気メス	8台	9台	10台
	低圧持続吸引器			7台
温熱療法室	ハイパーサーミア	64名 644例	61名 676例	71名 659例
手術室	麻酔器始業点検	453台	504台	466台
	自己血回収術	45例	42例	46例
	ペースメーカ 挿入	16例	14例	13例
	ペースメーカ 電池交換	3例	4例	4例
	外科NIM	8例	17例	8例
	シャント、PD造設等	60例	33例	67例
外来	ペースメーカ Clinic	206例	251例	245例
透析センター	HD	6862例	6523例	5273例
	I-HDF	271例	165例	33例
	O-HDF	4263例	5698例	7753例
	ECUM	43例	17例	10例
	G-CAP	0例	0例	23例
	計	11624例	12400例	13092例
	CART	18例	1例	4例
	シャントエコー検査	373例	369例	399例
病棟	PMX	0例	0例	0例
	CHDF・HD	6名 48例	9名 32例	17名 90例
心カテ室	心カテ (CAG, PCI等)	152例	167例	152例
	シャントPTA	265例	258例	283例



# 薬剤部

## 薬剤部長よりごあいさつ

### 岡井 由美子

Yumiko Okai

私たち薬剤師は、医薬品の専門家として他の医療スタッフと連携をとり、安全で有効な薬物療法を提供するよう心がけています。調剤や特殊な薬剤の調製、医薬品情報の収集と提供、患者さんへの説明（薬剤管理指導）、薬剤の供給、品質管理などの業務を行い、医療安全の面からも医療に貢献しています。

患者さんや、他の医療スタッフから信頼されるよう、一丸となって努力してまいります。薬に関することなら何でもお問い合わせください。

## 業務内容

### 調剤

#### 1. 内服・外用調剤業務

電子カルテと連動した調剤支援システムを導入し、薬袋印字機、散薬監査システム、散薬自動分包機、錠剤自動分包機等を使用し正確な調剤を行っています。また、薬剤師の視点で処方内容をチェックし、薬の種類・用法用量・重複投与・飲み合わせなど疑問点があれば医師に確認します。外来は特殊な薬剤等を除き原則院外処方箋を発行しています。「かかりつけ薬局」をお持ちになり、お薬手帳を携帯されることをお勧めしています。

※「かかりつけ薬局」とは

複数の病院などで発行された処方箋を全て一つの保険薬局にお持ち頂き薬を受け取ります。重複がないか、飲み合わせは大丈夫かなどのチェックを病院間でも行うことができます。

#### 2. 注射薬調剤業務

注射処方箋に基づき、入院患者さんの注射薬を患者さんごとに取り揃えています。電子カルテより投与履歴、既往歴、臨床検査値等を参照しきめ細やかな処方チェックを行っています。高カロリー輸液ならびに抗がん剤は細菌汚染を防ぐ目的でクリーンベンチや安全キャビネットを使用し無菌的に調製しています。また、抗がん剤については、治療効果と安全性を確保するため投与量・投与期間・休薬期間・投与順序・併用薬剤などの確認を行っています。



#### 3. 製剤業務

市販されていない医薬品で治療上必要のある薬品は、院内で審議した上で、製剤室で調製しています。また、調剤業務、診療業務の合理化のため病院独自の約束処方も調製しています。

#### 4. 医薬品情報管理室

(DI室：Drug Information)

適正な薬物療法を行うのに必要な医薬品の情報を収集・管理・評価し、医師、薬剤師、看護師その他医療にかかわる人に提供していくことが、DI室の仕事です。厚生労働省からの緊急安全性情報など緊急性の高い情報は、院内の掲示板やお知らせメールを使い即時伝達し、その他の情報もDIニュースとして配信しています。

#### 5. 薬剤管理指導業務

各病棟には担当薬剤師が配置され、入院中、安全で有効な薬物療法が行われるよう処方監査を行うとともに、患者さんのもとへ薬剤の説明に伺っています。入院時に持ち込まれたお薬(持参薬)や注射剤も含め、服用・使用されている全ての薬の内容を把握することで副作用の未然防止・早期発見に努めています。また、NST(栄養サポートチーム)やICT(感染対策チーム)などにも薬剤師がメンバーとして参加し、チーム医療に貢献しています。

#### 6. 治験業務

治験事務局、治験審査委員会(IRB)事務局として治験の運用をサポートしています。

治験とは：新しい薬が厚生労働省の承認を得て、広く一般の患者さんに使われるようになるには、その薬の効果と安全性を確認することが必要です。そのために行う試験を「臨床試験」といい、このうち厚生労働省から薬として承認を受けるために行う臨床試験のことを「治験」といいます。

#### 【認定資格】

- ・日病薬病院薬学認定薬剤師 5名
- ・広島県病院薬剤師会生涯研修認定 6名
- ・実務実習指導薬剤師 2名
- ・プライマリケア認定薬剤師 1名
- ・緩和薬物療法認定薬剤師 1名
- ・日病薬感染制御認定薬剤師 2名
- ・抗菌化学療法認定薬剤師 1名
- ・外来がん治療認定薬剤師 2名
- ・スポーツファーマシスト 1名
- ・日本臨床薬理学会認定CRC 1名
- ・心不全療養指導士 2名
- ・日本糖尿病療養指導士 2名
- ・腎臓病薬物療法単位履修終了薬剤師 1名
- ・リウマチ財団登録薬剤師 4名
- ・骨粗鬆症マネージャー 1名
- ・薬剤師研修センター認定薬剤師 3名

#### 【薬剤部実績】

	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	年間	月平均	年間	月平均	年間	月平均	年間	月平均	年間	月平均
外来院内処方箋(枚)	3,173	264	2,845	237	2,573	214	2,662	222	3,565	298
院外処方箋(枚)	7,166	5,597	65,124	5,427	56,569	4,714	57,567	4,797	56,156	4,680
院外処方箋発行率(%)	95.5		97.0		95.6		96.5		98.4	
入院処方箋(枚)	30,436	2,536	30,251	2,521	28,197	2,349	25,453	2,121	26,681	2,223
注射処方箋(枚)	75,331	6,278	76,477	6,373	80,484	6,707	73,720	6,143	80,317	6,693
抗癌剤調製件数(件)	1,209	101	1,342	112	1,137	95	890	74	1,108	92
IVH調製件数(件)	908	81	802	87	1,117	93	683	57	510	43
服薬指導件数(件) 1・2合計	9,187	766	9,143	762	9,840	820	9,900	825	8,901	742
外来腫瘍化学療法診療料(連携充実加算)(件)					203	17	308	26	462	39
薬剤総合評価調製加算(件) 2021/7～							185	21	86	7
薬剤調製加算(2剤以上原薬)(件) 2021/7～							86	10	48	4
退院時薬剤情報管理指導(件) 2021/7～							266	30	144	12
周術期薬剤管理加算(件)									929	77

## JR広島病院薬薬連携研修会開催記録

### 開催日

第9回 2022/6/3	WEB開催 一般演題 演者	①「化学療法時のスキンケアについて」 JR広島病院 看護部 皮膚・排尿ケア認定看護師 平田 ふき子
	一般演題 演者	②「症例から考える抗がん剤による皮膚障害」 JR広島病院 薬剤部 影本 紀子
	特別講演 演者	「薬剤師による免疫チェックポイントを含めた外来化学療法の副作用管理」 広島市立病院機構広島市立北部医療センター安佐市民病院 薬剤部 副部長 阪田 安彦
第10回 2022/11/28	WEB開催 一般演題 演者	①「誰でもわかる臨床微生物の基礎」 JR広島病院 診療部 臨床検査科 原田 耕輔
	一般演題 演者	②「感染症における薬剤師の役割」 JR広島病院 薬剤部 古川 涼香
	特別講演 演者	「今後の抗菌薬適正使用のあり方」 広島大学病院 感染症科 大毛 宏喜

# 栄養士室

## 管理栄養士よりごあいさつ

入院中のお食事は、治療の一環であると捉え栄養士室では医師、看護師などのスタッフと連携をとり、患者さんのご病気、症状に合わせた内容で、美味しく満足していただける食事の提供を心がけています。また安心して召し上がっていただくために食中毒予防など衛生面にも細心の注意をはらっております。

普通食の患者さんには週3回、朝食と昼食に2種類のメニューからお選び頂く選択メニューを実施しております。そして入院生活に変化と潤いをもっといただけるよう、ひなまつりや七夕などには行事食の提供も行っております。

食欲が低下されている患者さんや、お食事が食べにくい患者さんのベッドサイドに管理栄養士がお伺いし、食べやすくなるよう食事の調整を行っています。糖尿病や心臓病、腎臓病、消化管術後などの患者さんやご家族に対して主治医からの依頼のもと栄養食事相談を実施しています。

院内には様々な多職種から構成されるチームがあります。NST（Nutrition Support Team：栄養サポートチーム）は、入院患者さんに最良の栄養療法を提案するために、医師、薬剤師、看護師、管理栄養士、臨床検査技師、リハビリ技士で構成された多職種チームです。主治医より依頼頂いた患者さんに対して症例検討・回診を行っています。また、院内で栄養療法についての研修会を開催しています。一部、院外の医療施設の方もご参加頂いております。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から休止していますが、集団教室として糖尿病教室は医師、薬剤師、看護師、理学療法士、臨床検査技師とともに開催しています。当院入院、外来患者さんに限らず地域の皆さまにも無料で参加頂けます。平成29年度よりホテルでの糖尿病食事会を開催し、参加された患者さんからはご好評の声を頂いております。また、心臓病教室は月1回（原則第4木曜日）医師、薬剤師、看護師、理学療法士、言語聴覚士、臨床検査技師、管理栄養士の各職種持ち回りで実施しております。2018年度より摂食・嚥下に関して介護予防教室を開始しております。

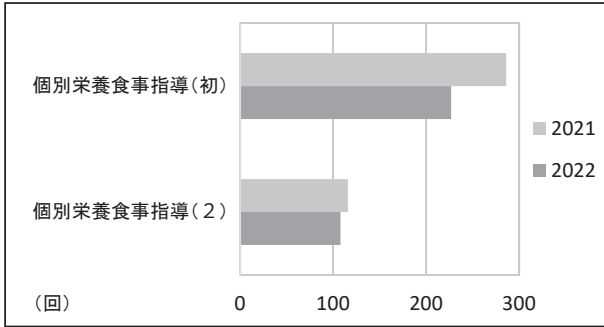


栄養指導は相談しやすい雰囲気を心がけています。

# 診療実績

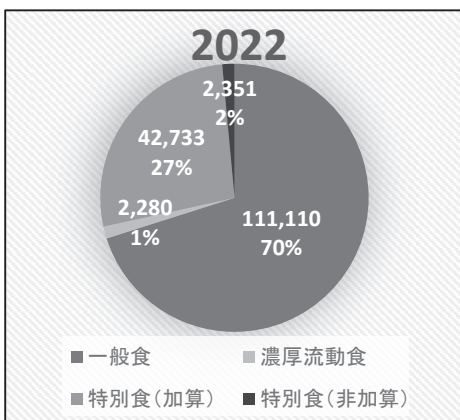
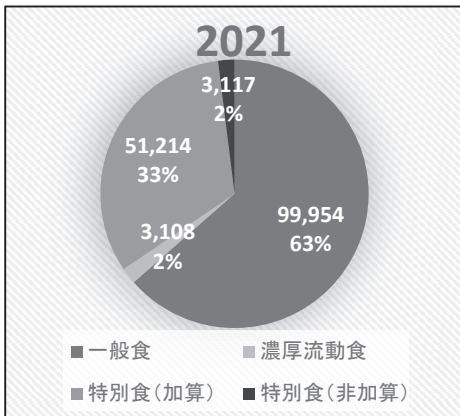
## 1. 個別栄養食事指導回数

	個別栄養食事指導 (初)	個別栄養食事指導 (2)
2021	286	116
2022	227	108



## 2. 種類別食数、割合

	一般食	濃厚流動食	特別食 (加算)	特別食 (非加算)
2021	99,954	3,108	51,214	3,117
2022	111,110	2,280	42,733	2,351



# 医療安全管理室

## ごあいさつ

医療安全管理室室長・診療部長

**峠 誠司** 1984年卒

Seishi Tao

消化器内科（肝・胆・脾）

日本消化器病学会専門医

日本消化器内視鏡学会専門医

日本内科学会認定内科医

医療安全管理者

**長谷川 三智江**（副看護師長）

Michie Hasegawa

医療安全管理室は、診療部門・薬剤部門・技師（士）部門・看護師部門・事務部門・感染対策室よりチーム編成し、院内の医療安全管理を統括しています。また、専従の医療安全管理者が1名配置され、関連する委員会等と連携して医療安全に関する取り組みを推進しています。

当院では医療安全管理体制の一環として、インシデントレポートによる報告とデータ集計を行っていますが、これを医療安全管理室のミーティングや委員会等で共有し、問題点の抽出や改善対策に活用しています。2022年度からは、患者誤認防止・指示確認漏れ防止・転倒転落防止を『当院の医療安全3つの重点課題』と題して、研修や強化月間を実施しています。

医療安全とは、患者と医療従事者を守るものであり、日々試行錯誤し活動を行っておりますが、今後も活動を継続し、安全文化の醸成に努めてまいります。

## 医療安全研修会（2022年度）

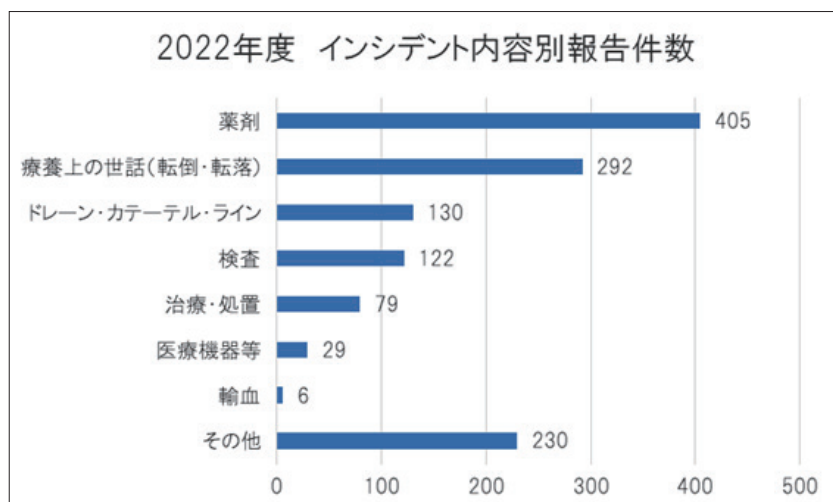
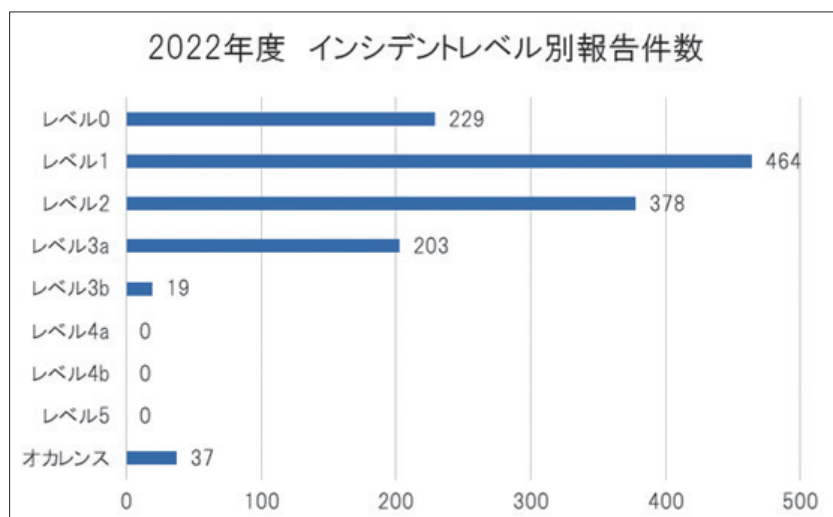
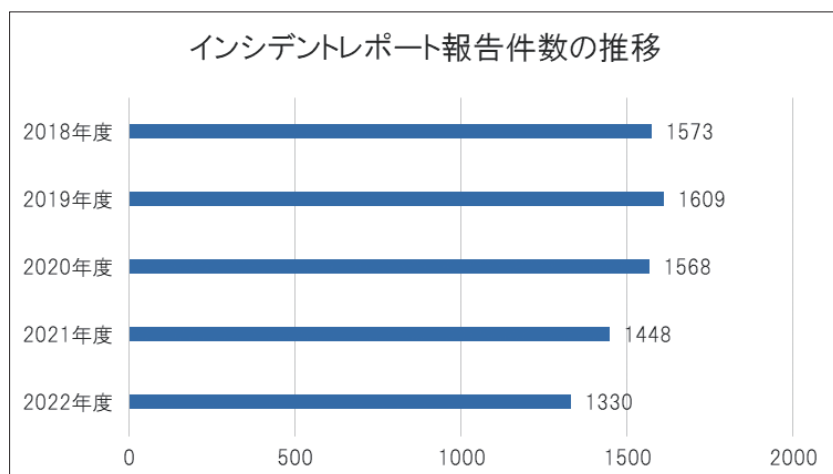
開催日	テーマ	参加人数
5/20	輸液・シリンジポンプの使用法	22名
5/30.31.6/2	HRジョイント使用法	29名
5/16～6/19	チーム医療の基本	486名
6/21.22.28	除細動器の日常点検方法	35名
7/19～9/9	患者誤認による重大事故防止	503名
10/20.25.31	ビーフリード開通方法	83名
11/28～3/31	CVポートナース育成プログラム	209名
12/1～1/30	放射線安全研修	333名
2/22.27	McGRATHを用いた気管挿管（実技）	44名
3/6～3/31	McGRATHを用いた気管挿管（視聴）	136名
3/7～3/28	医薬品安全管理研修	477名
3/3	第15回院内医療事故予防報告会	32名

## 主な活動内容

- ・インシデントレポートのデータ集計と報告
- ・転倒・転落予防ラウンド（9回/年）
- ・ベッドネーム・リストバンド実態調査（2回/年）
- ・医薬品安全使用推進ラウンド（12回/年）
- ・バーコード認証実態調査（2回/年）
- ・医療安全推進週間 5S活動実施
- ・6R・指差呼称強化週間（2回/年）
- ・お名前を名乗ってくれてありがとうキャンペーン（2回/年）
- ・事故予防ニュース発行（12回/年）
- ・医療安全情報提供（10回/年）
- ・雇用研修（9回/年）、看護補助者研修
- ・医療安全対策地域連携加算1・2

## インシデント・アクシデント報告

インシデント レポート報告件数	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
	1,573件	1,609件	1,568件	1,448件	1,330件



# 感染対策室

## ごあいさつ

### 感染対策室室長・副院長

#### 三重野 寛 1980年卒

Hiroshi Mieno

消化器管、内視鏡診断・治療、IBS、GERD

医学博士

日本消化器病学会専門医

日本消化器内視鏡学会認定医

日本内科学会指導医

広島大学医学部臨床教授

### 感染対策室副室長

#### 新田 由美子 (看護師長)

Yumiko Nitta

日本看護協会感染管理認定看護師

特定行為研修修了

## 概要

感染対策室は医療を受ける患者さんはもちろん、院内で働く全ての職員の安全と安心のために、医療関連感染対策活動の充実に努めています。

### 1. 特色

- ・専任医師 (ICD) 2名、専従看護師 (感染管理認定看護師) 2名、専任薬剤師 (感染制御認定薬剤師・抗菌薬化学療法認定薬剤師) 2名、専任臨床検査技師 (感染制御認定臨床微生物検査技師) 1名により感染対策チーム (ICT) と抗菌薬適正使用支援チーム (AST) を設置し活動しています。
- ・感染対策向上加算1、指導強化加算を算定しており、保健所や医師会と連携して連携施設とのカンファレンスや新興感染症訓練を実施しています。
- ・地域の感染対策を推進する目的で広島市東区感染管理ネットワークを立ち上げて活動しています。

### 2. 業務内容

- ・院内感染対策マニュアルの作成・改訂
- ・感染症発生の動向調査・把握、アウトブレイク対応

- ・環境ラウンド等により感染対策の実施状況の確認、指導
- ・感染症・感染対策に関する情報提供・教育
- ・院内外からのコンサルテーション
- ・抗菌薬適正使用の推進
- ・職業感染対策 (ワクチン接種、結核対策、針刺し防止対策等)
- ・ファシリティーマネジメント

## 活動実績

院内だけでなく地域における感染対策推進のための活動を行っています。

### 1. 業務実績

- ・新型コロナウイルス感染症対策 (マニュアル作成、ゾーニング・感染対策の確立、実施状況の確認)
- ・院内感染対策マニュアル改訂
- ・ICTラウンド (週2回)
- ・ASTラウンド (週1回)
- ・清掃評価 (12回)
- ・ICT・ASTニュース発行
- ・職員、関連企業に対するインフルエンザワクチン接種
- ・職員に対するB型肝炎、麻しん、風しん、水痘、ムンプス抗体価確認、ワクチン接種
- ・針刺し、血液曝露発生時の対応、予防策の推進
- ・サーベイランス (菌検出状況、中心静脈カテーテル関連血流感染、尿道留置カテーテル関連尿路感染、呼吸器関連肺炎、手術部位感染、抗菌薬使用状況、血液培養提出状況)
- ・手指衛生の啓発：アルコール手指消毒剤使用量チェック (毎月)、手指衛生直接観察 (2回)、手指衛生キャンペーン (2回)
- ・インフルエンザ感染予防リーフレット作成配布 (外来患者、入院予定患者)
- ・「食中毒予防」、「インフルエンザ対策」、「咳エチケット」ポスター作成掲示
- ・感染防止対策加算に基づくカンファレンス4回
- ・感染防止対策地域連携加算に基づく相互ラウンドチェックの実施
- ・連携施設、高齢者施設等からのコンサルテーション (月1~2件)



## 2. 教育活動実績

開催日	テーマ
2022/6/14-2022/7/31	CVポート管理
2022/11/10	バンコマイシンにおけるTDM ガイドラインの改定について
2022/12/8	COVID-19内服治療薬
2022/3/2,3,6,7,9 (全5回)	手洗いチェック

新採用・中途採用者研修 (12回)

PPE着脱トレーニング (3回)

清掃業務委託者研修 (2回)

# 事務部

## ごあいさつ

事務部長

浅川 聡

Satoshi Asakawa

### 1. 新型コロナウイルス対応と一般診療の両立

2022年度は「良質で安全な医療の追求」「収益拡大に向けた取組み」「地域と連携した取組み」の3点を事業運営方針として掲げ、新型コロナウイルス感染症の対策に万全を期してスタートしました。

しかしながら、新型コロナウイルスの流行が続き、第7波・第8波では広島県の医療供給体制が緊急フェーズ2になりました。そのため、当院では通年で4東病棟を新型コロナウイルス専用病棟とし、流行期には4西病棟の閉鎖や入院制限を行い、新型コロナウイルス病床を増床しました。さまざまな制約がある中でも職員が協力し合い、新型コロナウイルスの診療とその他の診療を両立させ、当院が地域から求められる役割を果たすことができたと考えます。

感染対策については2022年度診療報酬改定において地域連携加算が本体に組み込まれましたが、地域の47施設とデータ収集等の連携、カンファレンス実施、各施設に赴いての指導を行い、感染防止対策加算1の施設基準を満たすことができました。

このほか、救急患者の受入強化に取り組み、救急患者数は1,848件（対前年104.3%）、救急車受入数は1,177件（対前年108.7%）に増加しました。また、手術症例を積極的に受け入れ、総手術件数は2,498件（対前年106.9%）、うち全身麻酔は1,208件（対前年103.0%）に増加しました。

### 2. 病院機能評価の受審・改善活動の推進

2023年3月に（公財）日本医療機能評価機構が行う病院機能評価を受審しました。病院機能評価は、組織全体の運営管理や提供する医療についての第三者評価を行うことにより、改善活動を推進し病院体制の充実や医療の質の向上を目指すものです。

受審に先立ち、2022年5月にキックオフ・ミーティングを開催し、部門を横断したプロジェクトチームを立ち上げミーティングを重ね、調査票の作成を通して問題点を抽出しその改善に取

り組みました。およそ1年間の長い取組みの結果、一般病院2ならびに緩和ケア病院の機能において認定基準を達成しているとの評価を得ることができました。当院が提供している医療の質が認められたことはもとより、受審のプロセスにおいて各部門が協力して改善に取り組んだことは貴重な経験であったと思います。

このほか、院内改善プロジェクトにおいては、部署ワーキング16グループ、拡大ワーキング5グループが参加し、病院機能向上、収入増加、経費削減についての成果発表を行いました。

### 3. 職員の働きがい向上

医師・看護師等の負担軽減のため、クリニカルパスの活用率向上に取り組んだほか、手術室への薬剤師・臨床工学技士の配置や医師事務作業補助者・社会福祉士等の増員を行い、タスクシフトを推進しました。

また、時間休の取得上限を3日に増やし、小学校休校時の特別休暇を付与するなど、仕事と家庭の両立をサポートする制度改正を行いました。

このほか、2022年10月に診療報酬を財源とする処遇改善手当を新設しました。さらに、新型コロナウイルス感染症対応の労苦に報いるため、上期・下期にそれぞれ特別手当を支給しました。

### 4. 経営状況

2022年度の医業収益は6,312百万円（対前年105.4%）、医業費用は7,053百万円（対前年105.0%）となり、医業利益は▲741百万円（対前年15百万円の減益）でしたが、補助金により医業外収益を1,985百万円計上した結果、経常利益は1,162百万円（対前年386百万円の減益）、当期純利益は1,149百万円（対前年378百万円の減益）となりました。

このほか、2022年11月に広島県により公表された「高度医療・人材育成拠点基本構想」を踏まえた拠点の整備に向けて、広島県健康福祉局等との協議を進めました。

# 地域医療連携室

## ごあいさつ

患者支援センター長・副院長

**三重野 寛** 1980年卒

Hiroshi Mieno

消化器管、内視鏡診断・治療、IBS、GERD

医学博士

日本消化器病学会専門医

日本消化器内視鏡学会認定医

日本内科学会指導医

広島大学医学部臨床教授

当院はこれまでも、地域の先生方からのご紹介は「断らない」をモットーに取り組んで参りました。施設等のハード面が充実したことと、当院の取り組み体制も整ったことにもない、これからますます地域の中核病院としての機能を発揮し、地域包括ケアシステムの実現を図ります。そのためにも、東区を中心とした地域の先生方とWin-Winの関係で手を携え、地域医療を支えていかねばなりません。先生方とのつなぎ役として、地域医療連携室へどしどしご相談いただければ幸いです。

地域医療連携室 室長

**高木 光男**

Mitsuo Takaki

地域医療連携室は、地域の医療機関や他施設等を『つなぐ』部署として活動しています。

地域の患者さんが安心して良質な医療・看護・介護を受けながら生活できるよう地域包括ケアシステムを推進し、連携機関と協力して地域の患者さんの健康保持に努めていきます。

今後も、地域医療連携室は『地域医療の向上に貢献する病院』の窓口として取り組んでまいります。

## 地域医療連携室について

当院は、地域医療支援病院として患者さんに安心と安全な医療を提供できるように、地域の医療機関の先生方と協力し機能分担を図り、適切な医療を継続的に提供し地域医療を守ることを目指しています。

定期的な専門外来チェックや検査、入院医療が必要な時は「かかりつけ医」の先生方から紹介された患者さんを、責任をもって診療します。

## 地域医療連携室の取り組み

- ・ 紹介患者さんの診察・検査予約窓口
- ・ 緊急受診の受け入れ調整
- ・ 紹介元医療機関への来院・入院報告、返書管理
- ・ 地域の医療従事者に対する講演会、研修の実施
- ・ 地域医療機関からの問い合わせ対応（情報交換・連携）
- ・ 地域医療連携に関するデータ管理

『地域の医療機関との連携窓口として、協力・おもいやりの心で取り組んでまいります』

## 2022年度 統計

### 【紹介率、逆紹介率】

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
紹介件数 (件) (A)	634	657	794	648	606	570	619	647	701	596	601	719	7,792
逆紹介件数 (件) (B)	828	810	917	842	783	811	820	785	872	742	828	1094	10,132
初診件数 (件) (C)	1,010	1,054	1,170	1,110	1,200	973	968	1,026	1,099	939	872	1020	12,441
紹介率% (A)÷(C)	62.8	62.3	67.9	58.4	50.5	58.6	63.9	63.1	63.8	63.5	68.9	70.5	62.6
逆紹介率% (B)÷(C)	82.0	76.9	78.4	75.9	65.3	83.4	84.7	76.5	79.3	79.0	95.0	107.3	81.4

※上記の「紹介率」及び「逆紹介率」は、地域医療支援病院で定める計算式による数値。「初診件数」は、地域医療支援病院で定める除算後の数値です。

### 【救急来院患者数】

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
救急搬送 (件)	88	92	92	99	100	103	86	80	123	131	77	106	1,177
その他 (件)	57	69	49	74	71	61	40	42	47	79	44	38	671
計 (件)	145	161	141	173	171	164	126	122	170	210	121	144	1,848
【別掲】うち紹介患者 (件)	25	40	35	23	23	25	25	26	21	26	22	30	321
【別掲】うち入院患者 (件)	55	71	54	49	71	59	67	53	83	84	56	72	774

※上記「【別掲】うち紹介患者」とは、救急来院患者のうち、紹介患者の数。「【別掲】うち入院患者」は、救急来院後に入院になった数です。

### 【平均在院日数】

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新入院患者数 (人)	370	422	459	395	425	377	398	397	410	411	395	407	4,866
退院患者数 (人)	413	383	458	432	396	397	372	390	446	365	405	442	4,899
延在院患者数 (人)	5,060	5,220	5,473	5,135	4,893	4,974	5,220	5,647	5,782	5,778	5,403	5,320	63,905
平均在院日数 (日)	12.9	13.0	11.9	12.4	11.9	12.9	13.6	14.4	13.5	14.9	13.5	12.5	13.1

※平均在院日数=延在院患者数÷((新入院患者数+退院患者数)÷2)

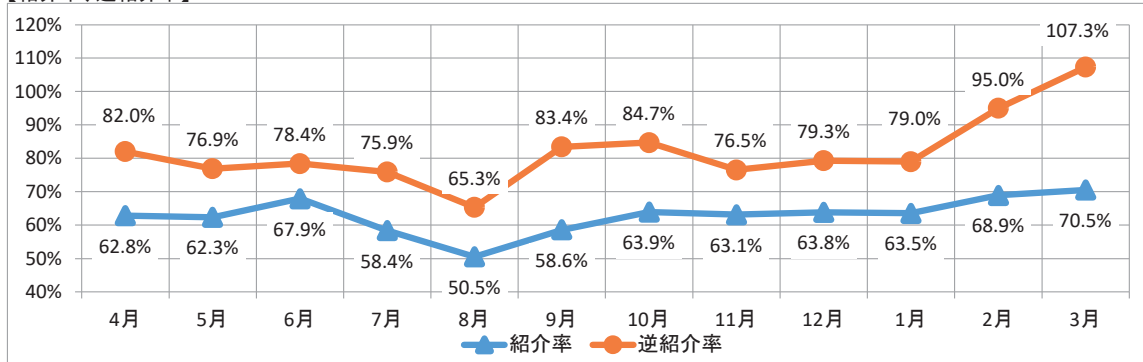
### 【病床利用率】

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼働病床数 (床)	269	269	269	269	269	269	269	269	269	269	269	269	269
診療日数 (日)	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
病床利用率 (%)	62.7	62.6	67.8	61.6	58.7	61.6	62.6	70.0	69.3	69.3	71.7	63.8	65.1

※病床利用率=(病床数×診療日数)÷延在院患者数、病床数275床 (休棟HCU 6床)

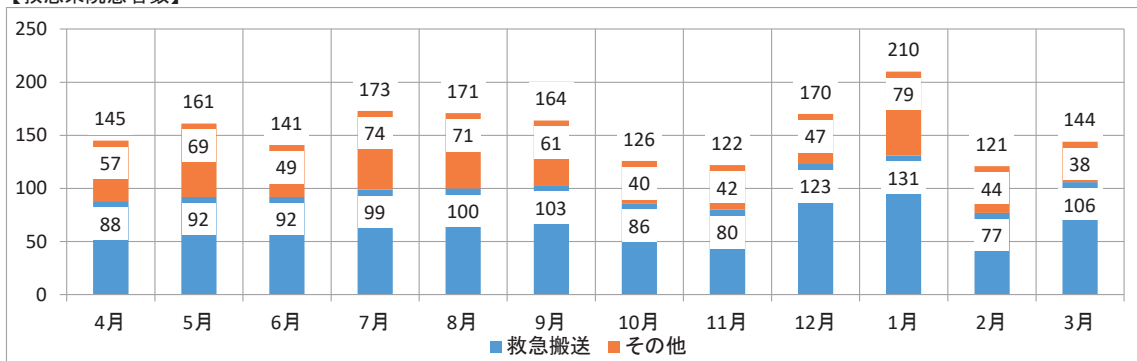
2022年度 統計  
【紹介率、逆紹介率】

【紹介率、逆紹介率】



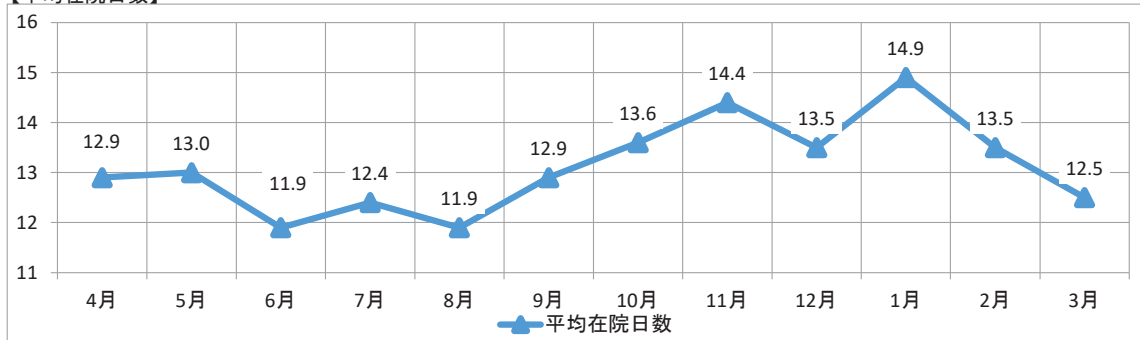
【救急来院患者数】

【救急来院患者数】



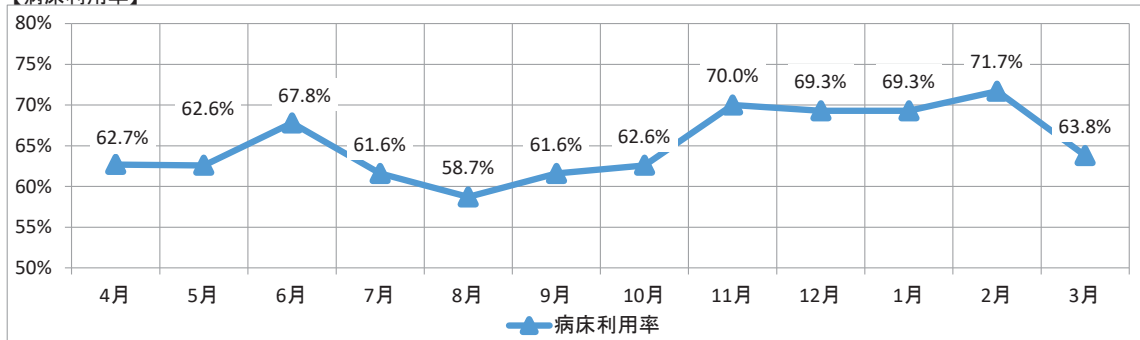
【平均在院日数】

【平均在院日数】



【病床利用率】

【病床利用率】



# 患者支援室

## ごあいさつ

患者支援センター長・副院長

**三重野 寛** 1980年卒

Hiroshi Mieno

消化器管、内視鏡診断・治療、IBS、GERD

医学博士

日本消化器病学会専門医

日本消化器内視鏡学会認定医

日本内科学会指導医

広島大学医学部臨床教授

患者支援室室長・看護師長

**高木 光男**

Mitsuo Takaki

患者支援室は2019年度6月に新設されました。もともとあった以下の4箇所の部署・役割をまとめて、多方面から患者とその家族を支援することを目的として活動しています。

### 1. 入退院センター

看護師3名、事務職員1名で笑顔絶やさず、親切・丁寧に対応しています。

- ① 入院手続き；当日入院される方の入院手続きをした後、病棟へ案内しています。
- ② 入院説明；予定入院患者・家族に対して入院説明を行っています。各部署特有の事情に配慮しながら臨機応変に対応しています。看護師は情報収集を行い、データベース入力・整理を行い、入院前から退院支援をおこなえるようにアセスメントを実施しています。
- ③ 診断書受付；担当事務を配置し、多岐にわたる診断書の受付を一括して行っています。
- ④ 助勢対応；看護部からの要請があれば、病棟・外来への助勢の協力をしています。

### 2022年度 実績

	①入院手続	②a入院説明	②b情報入力 (割合%)	③診断書
年間	2,831	2,432	2,135 (83.0%)	3,105
月平均	236	203	178	259

### 2. 患者相談窓口

医療従事者と患者・その家族との対話を促進し、良好な関係を築くため、相談窓口を設置しています。当院では、患者サポート体制充実加算を取得しており、専任の看護師1名が、患者やその家族が不利益を受けないように十分配慮しながら、関係各部署と協力し、相談や苦情に対応しています。また、電話相談にも適宜対応しています。

相談件数 (対面)	2020年	2021年	2022年
	89	164	223

### 3. 退院支援部門

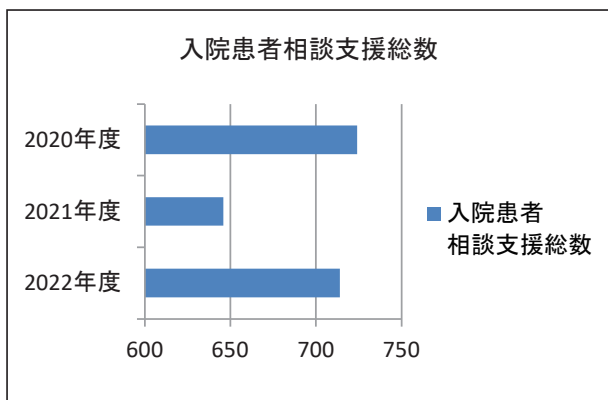
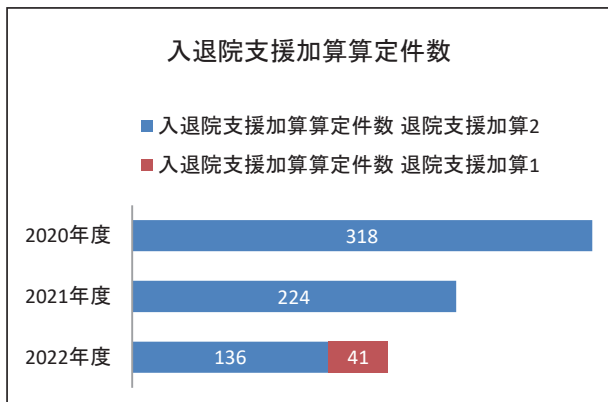
退院支援部門では住み慣れた地域で患者様が安心して生活できるように退院調整看護師2名と医療ソーシャルワーカー5名が退院支援と医療・福祉相談をしております。

当院では入退院支援加算2を算定しておりましたが、10月より退院支援加算1に変更しました。合わせて業務内容の見直しも行い、外来にも担当者を配置し、入院・外来共に相談体制を取れるようにしました。

2022年度もコロナの影響で、当院の病床数を減らしながらの対応となりましたが、カンファレンスは対面・オンライン共に状況に応じて実施しており、カンファレンス実施件数も2021年度39件から2022年67件まで回復しました。

これからも当院へ通院・入院される方が安心して療養できるよう、地域と連携しつつ業務を行っていきます。

	2020年度	2021年度	2022年度
入退院支援加算算定件数 退院支援加算2	318	224	136
入退院支援加算算定件数 退院支援加算1	0	0	41
	2020年度	2021年度	2022年度
入院患者相談支援総数	724	646	714



2020年度より入院患者相談支援件数の集計方法を変更しました。

#### 4. ベッドコントロール

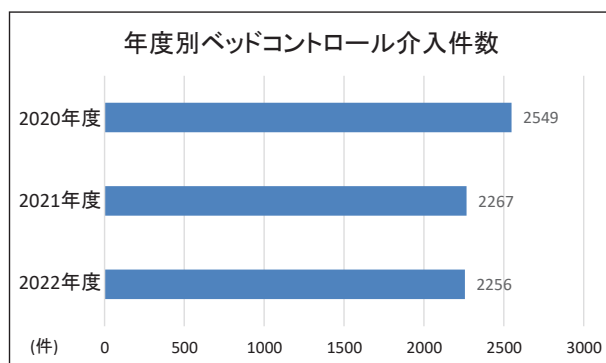
ベッドコントローラーとして担当師長を1名配置して業務を行っています。

ベッドコントローラーの業務は主として、病院全体の予定入院患者のベッド調整、緊急入院患者の病床確保、他院からの転院希望の患者さんの受け入れ調整等を行っています。

緊急入院となる患者に関しては患者情報を把握し病棟がスムーズな受け入れを実施出来るように調整を行うとともに、退院支援部門とも情報共有をしていき安心して退院が出来る様に連携を行っています。

病状が安定した患者さんには病棟・退院支援部門とも連携して地域包括ケア病棟への転棟を促し、急性期病棟の空床を確保していくことで二次救急医療機関としての役割を担えるようにしています。

これからも、地域の患者さんが安心して適切な病床に入院出来るよう他部門とも連携して業務を行っていきます。



# » III 業績集



## 論文 (欧文)

1. Taooka Y, Inata J, Ito H: High-grade fever and gas region of bladder lumen on abdominal computed tomography. *Int. J. Case Rep. Images* 2022; 13(2):10-12.
2. Hamaguchi S, Taooka Y, Tanino A, Nakao M, Hotta T, Hamaguchi M, Tsubata Y, Isobe T. Validation of IPAG questionnaire for chronic obstructive pulmonary disease in Shimane Prefecture. *Shimane Journal of Medical Science* 39 (2), 69-76, 2022.
3. Shishida M, Sumitani D, Oshiro T, Yano M, Ochi M, Okamoto Y, Yoshida S: Percutaneous trans-esophageal gastrostomy for oral intake in a case of anastomotic obstruction following total gastrectomy. *Case Rep Gastroenterol.* 2023 Apr 19;17(1):197-203.
4. Nakamae T, Kamei N, Tanaka N, Nakanishi K, Tsuchikawa Y, Morisako T, Harada T, Maruyama T, Adachi N: Primary spinal cord melanoma: a two-case report and literature review. *Spine Surg Relat Res.* 12(6):717-720, 2022.
5. Maruyama T, Nakamae T, Kamei N, Tanaka N, Fujiwara Y, Harada T, Adachi N: Foramen Magnum Decompression with Outer Dura Matter Layer Resection for Chiari Type I Malformation: Factors Correlated with Syrinx Reduction. *Asian Spine J.* 17(2):365-372, 2023.
6. Kohno H, Sugimoto T, Yoshida Y, Mokuda S, Hirata S, Sugiyama E: Association between increased serum IL-23 levels and ACPA positivity in patients with rheumatoid arthritis. *Clin Exp Rheumatol* 2023;41(5):1198-9.
7. Koide T, Tamaki T, Yoshida S, Tanaka S : A Hierarchical Type Segmentation Hardware for Colorectal Endoscopic Images with Narrow-Band Imaging Magnification, *Biomedical Engineering* 2022: 320-339
8. Masayuki Odagawa, Tetsushi Koide, Toru Tamaki, Shigeto Yoshida, Hiroshi Mieno, Shinji Tanaka : Feasibility Study for Computer-Aided Diagnosis System with Navigation Function of Clear Region for Real-Time Endoscopic Video Image on Customizable Embedded DSP Cores. *IEICE TRANSACTIONS ON FUNDAMENTALS OF ELECTRONICS COMMUNICATIONS AND COMPUTER SCIENCES* 2022:E105A:58-62
9. Yongfei Wu, Daisuke Katayama, Tetsushi Koide, Toru Tamaki, Shigeto Yoshida, Yuki Okamoto, Shiro Oka, Shinji Tanaka : A U-Net Based Lesion Segmentation Method for Computer-Aided Diagnosis in Colorectal NBI Endoscopy. *Proc. of The 36th International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers, and Communications* 2022: DOI: 10.1109/ITC-CSCC55581.2022.9895039
10. Daisuke Katayama, Yongfei Wu, Tetsushi Koide, Toru Tamaki, Shigeto Yoshida, Yuki Okamoto, Shiro Oka, Shinji Tanaka : An Endoscopic image Classifier Using Deep Learning Considering Progression of Colorectal Cancer. *Proc. of The 36th International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers, and Communications* 2022: DOI: 10.1109/ITC-CSCC55581.2022.9894870
11. Hoshide S, Yoshihisa A, Tsuchida F, Mizuno F, Teragawa H, Kasai T, Koito H, Ando S, Watanabe Y, Takeishi Y, Kario K. Pulse transit time-estimated blood pressure: a comparison of beat-to-beat and intermittent measurement. *Hypertens Res* 2022 45: 1001-1007.
12. Teragawa H, Nakano Y. Can activity trackers shed light on the prognosis of coronary artery disease? *Eur J Prev Cardiol* 2022 29: 1044-1046.
13. Teragawa H, Oshita C, Uchimura Y. Clinical characteristics and prognosis of patients with

- multi-vessel coronary spasm in comparison with those in patients with single-vessel coronary spasm. *J Cardiovasc Dev Dis.* 2022 9: 204
14. [Teragawa H](#), [Oshita C](#), [Uchimura Y](#). The impact of myocardial bridging on the coronary functional test in patients with ischaemia with non-obstructive coronary artery disease. *Life.* 2022 12: 1560
  15. Tanaka A, Sata M, Okada Y, [Teragawa H](#), Eguchi K, Shimabukuro M, Taguchi I, Matsunaga K, Kanzaki Y, Yoshida H, Ishizu T, Ueda S, Kitakaze M, Murohara T, Node K. Effect of ipragliflozin on carotid intima-media thickness in patients with type 2 diabetes: a multicenter, randomized, control trial. *Eur Heart J Cardiovasc Pharmacother* 2023 9: 165-172.
  16. Oka N, Orita Y, [Oshita C](#), [Uchimura Y](#), [Nakayama H](#), [Teragawa H](#): Primary malignant pericardial mesothelioma with difficult antemortem diagnosis: A case report. *World J Clin Cases* 2022 10: 12380-12387.
  17. Tanaka A, [Teragawa H](#), Takamura T, Maruhashi T, Yamaoka-Tojo M, Ako J, Takahashi N, Tomiyama H, Higashi Y, Node K. Effect of add-on empagliflozin on arterial stiffness in patients with type 2 diabetes and cardiovascular disease: an analysis from a placebo-controlled EMBLEM trial. *Vascular Failure* 2022 6: 1-7.
  18. Ohte N, Tanaka A, Kitada S, Yamada T, Eguchi K, [Teragawa H](#), Takeishi Y, Kodama K, Seo Y, Node K. Influence of left ventricular ejection fraction on the reduction in N-terminal pro-brain natriuretic peptide by canagliflozin in patients with heart failure and type 2 diabetes: a sub analysis of the CANDLE trial. *J Cardiol* 2023 81: 508-512.
  19. [Teragawa H](#), [Oshita C](#), [Uchimura Y](#). Clinical characteristics and prognosis in patients with vasospastic angina subjected to the spasm provocation test and the unavoidable use of nitroglycerin. *J Cardiovasc Dev Dis* 2023 10: 16.
  20. [Teragawa H](#), [Oshita C](#), [Uchimura Y](#). Does the intracoronary pressure differ according to two types (diffuse or focal) of coronary spasm? *World J Cardiol* 2023 15: 1-12.
  21. Hokimoto S, Kaikita K, Yasuda S, Tsujita K, Ishihara M, Matoba T, Matsuzawa Y, Mitsutake Y, Mitani Y, Murohara T, Noda T, Noguchi T, Suzuki H, Takahashi J, Tanabe Y, Tanaka A, Tanaka N, [Teragawa H](#), Yoshimura M, Asaumi Y, Godo S, Ikenaga H, Imanaka T, Ishibashi K, Ishii M, Ishihara T, Matsuura Y, Miura H, Nakano Y, Ogawa T, Shiroto T, Soejima H, Takagi R, Tanaka A, Taruya A, Tsuda E, Wakabayashi K, Yokoi K, Minaminot, Nakagawa Y, Sueda S, Shimokawa H, Ogawa H. JCS/CVIT/JCC 2023 guideline focused update on diagnosis and treatment of vasospastic angina (coronary spastic angina) and coronary microvascular dysfunction. *Circ J* 2023 87: 879-936.
  22. [Teragawa H](#), Tanaka A, Fujii Y, Yoshida H, Ueda T, [Nomura S](#), Kadokami T, Koide H, Saito M, Sano H, Bando Y, Murohara T, Node K: Effect of febuxostat on the level of malondialdehyde modified low-density lipoprotein, an oxidative stress marker: a subanalysis of the PRIZE study. *Clin Cardiol* 2023 46: 698-706.
  23. [Yukinori Toyoshima](#), Kosuke Narumiya, Kenji Kudo, Hiroto Egawa, Kei Hosoda: Comparative analysis of the outcomes of gastrectomy vs. endoscopic mucosal resection or endoscopic submucosal dissection for the treatment of gastric tube cancer after esophagectomy, 2023 Feb 28; 5 (1):40-46. doi: 10.35772/ghm.2022.01059.
  24. Sho Mokuda, [Namiki Kawanishi](#), [Shintaro Kuroshima](#), [Junko Kono](#), [Hirofumi Nakayama](#), [Hiroshi Mieno](#), [Masashi Kawamoto](#) : Anti-spike protein antibody responses to BNT162b2 mRNA vaccine: A single-center survey in a COVID-19 non-epidemic area in Japan. *Vaccine:X* ;Available online 7 June 2022

## 論文 (和文)

1. 田中 信弘:「新OS NEXUS」No.3「ベーシックな脊椎除圧術のすべて」今釜史郎編, 迂り症など不安定性を伴う腰椎への後方除圧術の秘訣, 126-132. メジカルビュー, 2022.
2. 安村 純子, 他: 小児リウマチ疾患トシリズマブ治療の理論と実際:(監修)伊藤秀一, 森雅亮, メディカルレビュー社, 2023年3月31日.
3. 呉 泳飛, 片山 大輔, 道田 竜一, 小出 哲士, 玉木 徹, 吉田 成人, 岡本 由貴, 岡 志郎, 田中 信治: 大腸NBI内視鏡におけるコンピュータ支援診断のためのFully Convolutional Networkを用いた病変部位のセグメンテーション法, 第28回画像センシングシンポジウム論文集 (SSII2022)2022:IS 1-19, SO 1-19.
4. 片山 大輔, 呉 泳飛, 道田 竜一, 小出 哲士, 玉木 徹, 吉田 成人, 岡本 由貴, 岡 志郎, 田中 信治: 深層学習を用いたNICE/JNET分類に基づく大腸内視鏡画像診断支援の一手法, 第28回画像センシングシンポジウム論文集 (SSII2022)2022:IS 1-20, SO 1-20.
5. 玉木 徹, 小出 哲士, 吉田 成人: 下部内視鏡(NBI)AI②: 藤田広志 監修, 森健策・工藤進英・森悠一・三澤将史 編: オーム社: 東京: 2022 121-128 2022.
6. 掃本 誠治, 海北 幸一, 石原 正治, 鈴木 洋, 高橋 潤, 田中 篤, 田中 信大, 田辺 恭彦, 辻 田 賢一, 寺川 宏樹, 野口 暉夫, 野田 崇, 野出 孝一, 松澤 泰志, 的場 哲哉, 三谷 義英, 光武 良亮, 室原 豊明, 安 隆則, 安田 聡, 吉村 道博, 浅海 泰栄, 池永 寛樹, 石井 正将, 石橋 耕平, 石原 隆行, 今仲 崇裕, 小川 崇之, 神戸 茂雄, 白戸 崇, 副島 弘文, 高木 竜, 田中 哲人, 田中 敦史, 樽谷 玲, 津田 悦子, 仲野 泰啓, 松浦 祐之介, 三浦 弘之, 横井 研介, 若林 公平, 小川 久雄, 下川 宏明, 末田 章三, 中川 義久, 南野 徹: 2023年JCS/CVIT/JCCガイドラインフォーカスアップデート版冠攣縮性狭心症と冠微小循環障害の診断と治療, [https://www.j-circ.or.jp/cms/wp-content/uploads/2023/03/JCS2023\\_hokimoto.pdf](https://www.j-circ.or.jp/cms/wp-content/uploads/2023/03/JCS2023_hokimoto.pdf).
7. 井瀨 真美, 川西 なみ紀, 矢口 裕子, 中村 聖, 清水 丈明, 矢野 将嗣, 舛本 法生, 中山 宏文: 組織型が異なる同時性両側性乳癌の1例, 広

島県臨床細胞学会誌, 2022;42:64-71.

## 国際学会発表(シンポジウム・ワークショップ)

1. Tanaka N: Cervical OPLL with kyphosis. 3rd. AO TC Spine Experts Symposium, September 23-24, 2022, Singapore.
2. Tanaka N: Dropped head syndrome. 3rd. AO TC Spine Experts Symposium, September 23-24, 2022, Singapore.

## 国際学会発表 (その他)

1. Tanaka N, Nakamae T, Nakanishi K, Kamei N, Fujimoto Y, Yamada K, Suga N, Matsumoto A, Nakamura S, Kobayashi T, Tashima T: Hydroxyapatite spacers without sutures demonstrate sufficient bone bonding in cervical laminoplasty. 13th Annual Meeting, Cervical Spine Research Society, Asia Pacific Section, March 9-11, 2023, Yokohama, Japan.
2. Nakamae T, Harada T, Kamei N, Fujimoto Y, Manabe H, Tanaka N, Fujiwara Y, Yamada Y, Tsuchikawa Y, Adachi N: Surgical outcomes of cervical myelopathy in patients with athetoid cerebral palsy. 13th Annual Meeting, Cervical Spine Research Society, Asia Pacific Section, March 9-11, 2023, Yokohama, Japan.
3. Ueda T, Teragawa H, Oshita C, Fujii Y, Nomura S: Peripheral microvascular dysfunction in subjects with type 2 diabetes (T2DM) in accordance with absence or presence of coronary artery disease. International Society of Hypertension (ISH) 2022, Kyoto, Oct 16, 2022 (J Hypertension 41 (Suppl 1): e381).
4. Teragawa H, Tanaka A, Fujii Y, Ueda T, Nomura S, Node K. Effect of febuxostat on the level of malondialdehyde-modified low-density lipoprotein, as an oxidant marker, from the sub-analyses of PRIZE study. International Society of Hypertension (ISH) 2022, Kyoto, Oct 16, 2022 (J Hypertension 41 (Suppl 1): e477).

5. Teragawa H, Oshita C, Uchimura Y: Coronary microvascular dilatatory dysfunction to the type of coronary functional abnormalities. AHA 2022, Web, Nov, 2022 (Circulation 2022 146, Suppl\_1)
6. Teragawa H, Oshita C, Uchimura Y: The impact of the myocardial bridge on coronary functional test in patients with ischemia with non-obstructive coronary arteries. AHA 2022, Web, Nov, 2022 (Circulation 2022 146, Suppl\_1)
7. 安村 純子: シンポジウム1 小児リウマチ性疾患における臨床研究を考える～最近の成果から～, 若年性特発性関節炎関連ぶどう膜炎発症のリスク因子解析, 第31回日本小児リウマチ学会, 2022年10月15日, 新潟県.
8. 森元 晋, 岡本 由貴, 吉田 成人, 片山 大輔, 呉 泳飛, 小出 哲士, 玉木 徹, 竹原 悠大, 谷野 文昭, 山本 紀子, 上垣内 由季, 玉理 太覚, 下原 康嗣, 田中 秀典, 山下 賢, 岡 志郎, 田中 信治: 自動セグメンテーションモデルとJNET 分類の自動診断モデルを併用した大腸内視鏡 AI 診断支援システムの開発, 第97回大腸癌研究会学術集会, 2022年7月7-8, 東京都.

## 国内学会発表(シンポジウム・ワークショップ)

1. 田中 信弘: 頸椎部神経根障害に対する治療—薬物療法からマイクロサージャリーまで—, 第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 2022年4月21-23日, 横浜.
2. 大知 順子, 飯塚 聖子: 統一されたオリエンテーションを目指して, 日本ハイパーサーミア学会第39回大会, 2022年9月2日, オンライン開催
3. 濱田 祐己, 原 和信, 多根 正二郎, 坂本 直樹, 長久 拓矢, 三島 綾香, 西海 真吾, 境田 祐太, 宗美 淳志, 脊戸川内 稔, 小野 栄治: 当院におけるハイパーサーミア導入から現在の状況について, 第32回日本臨床工学会, 2022年5月15日, つくば市.
4. 濱田 祐己, 原 和信, 多根 正二郎, 坂本 直樹, 長久 拓矢, 三島 綾香, 西海 真吾, 境田 祐太, 宗美 淳志, 脊戸川内 稔, 小野 栄治: 当院におけるハイパーサーミア導入から現在の状況について, 第39回 日本ハイパーサーミア学会, 2022年6月27日, 川越市.
5. 長久 拓矢, 原 和信, 多根 正二郎, 坂本 直樹, 三島 綾香, 西海 真吾, 境田 祐太, 宗美 淳志, 越智 誠: 抜針を視野に入れた警報範囲の検討, 中国腎不全研究会, 2022; 31: 111 ~ 112.
6. 西海 真吾, 原 和信, 多根 正二郎, 坂本 直樹, 長久 拓矢, 三島 綾香, 境田 祐太, 宗美 淳志, 越智 誠: 血液透析における静的静脈圧の測定の確立と有用性の検討, 中国腎不全研究会, 2022; 31: 115~116.
9. 森元 晋, 岡本 由貴, 吉田 成人, 片山 大輔, 呉 泳飛, 小出 哲士, 玉木 徹, 竹原 悠大, 谷野 文昭, 山本 紀子, 上垣内 由季, 玉理 太覚, 下原 康嗣, 田中 秀典, 山下 賢, 岡 志郎, 田中 信治: WS5 内視鏡AI診療の現状と課題 自動セグメンテーションモデルと JNET 分類の自動診断モデルを併用した大腸内視鏡 AI 診断支援システムの開発, 第19回日本消化管学会総会学術集会, 2023年2月3-4, 東京都.
10. 今元 祐, 升元 知代子: A病院手術室看護師を対象とした局所麻酔中毒対応についての意識調査, 第59回日本手術看護学会中国地区, 2022年6月25日~7月31日, WEB開催.
11. 竹本 優梨香, 松田 彩紀, 小田 菜津美: 離床センサー導入における判断についてのフローチャート改善に向けて, 第76回日本交通医学会, 2022年6月5日, 名古屋.
12. 桂 ゆかり, 佐藤 愛美: 血液透析患者のシャントの自己管理についての実態調査, 令和5年広島県看護協会東支部研究発表会, 2023年2月26日, 広島県.
13. 小園 由味恵, 中村 清子, 園田 さおり: 交流セッション「コロナ禍の今こそ“口腔ケア”を見直そう」, 第35回日本看護福祉学会学術集会(オンライン開催) 2022年9月4日.
14. 寺川 宏樹: 特殊な状況下における冠攣縮誘発試験(MINOCA, stent留置後etc) How to startセッション 若いインターベンションニスト必携: INOCA時代の実践で役立つ冠攣縮誘発試験—あなたならどうする? 第30回日本心血管インターベンション治療学会, 2022

年7月22日, パシフィコ横浜ノース.

15. 中村 聖, 川西 なみ紀, 矢口 裕子, 井瀨 真美, 清水 丈明, 中山 宏文, 橋本 邦宏, 井上 勝己, 木谷 由希絵, 久保 雅実:メラニン色素を有しない悪性黒色腫細胞が尿および子宮腔部擦過細胞診中に出現した一例, 第63回日本臨床細胞学会総会(春期大会) 2022.06.11, 東京.

## 国内学会発表 (その他)

1. 志々田 将幸, 平昭 吉野, 豊島 幸憲, 住谷 大輔, 矢野 将嗣, 岡本 有三: デジタルポスター: HER2陽性胃癌術後再発に対してトラスツズマブ デルクステカンを使用し, 間質性肺炎を発症し死亡した1例, 第95回日本胃癌学会総会, 2023年2月23~25日, 札幌.
2. 中村 精吾, 松本 明子, 田島 稔章, 須賀 紀文, 小林 孝明, 田中 信弘: 人工骨頭術後脱臼の手術的整復において大臀筋弁移行を施行した1例, 第53回日本人工関節学会, 2023年2月17-18日, 横浜.
3. 松本 明子, 田中 信弘, 須賀 紀文, 中村 精吾, 小林 孝明, 田島 稔章: 腰椎椎間板ヘルニアに対する椎間板内酵素注入療法の短期治療成績, 第76回日本交通医学会, 2022年6月5日, 名古屋市.
4. 松本 明子, 田中 信弘, 須賀 紀文, 中村 精吾, 小林 孝明, 田島 稔章: 腰椎椎間板ヘルニアに対する椎間板内酵素注入療法の短期治療成績, 第30回日本腰痛学会, 2022年10月22日, 盛岡市.
5. 鈴川 彩路, 政池 美穂, 園田 さおり, 松前 愛, 吉川 美幸, 中森 一司, 影山 奈美, 滝口 友理子, 矢野 将嗣: 当院における嚥下調整食分類の認知度調査, 第37回日本臨床栄養代謝学会学術集会, 一般演題, 2022年5月31日, 横浜市.
6. 阿津地 弘一: 放射線検査Q & A集の作成および認知度・理解度向上への取り組み, 第76回日本交通医学会総会, 2022年6月5日, 名古屋.
7. 上田 菜水: 上肢シャントPTA時における血管径・血管長計測制度の検証について, 第76回日本交通医学会総会, 2022年6月5日, 名古屋.
8. 安村 純子: ランチョンセミナー3 小児のぶどう膜炎 —若年性特発性関節炎関連ぶどう膜炎を中心に—, 第55回日本眼炎症学会/アツヴィ合同会社 エーザイ株式会社, 2022年7月8日, 広島市.
9. 藤井 貴允: 複数回腰椎圧迫骨折を呈し痛みの対応に難渋した血液透析患者の一症例, 第76回日本交通医学会総会, 2022年6月4日~5日, 愛知.
10. 高川 奈月, 松下 友香: 人工骨頭置換術後における早期離床に対する看護師の困難感, 第76回日本交通医学会, 2022年6月5日, 名古屋.
11. 縄田 歩, 児玉 理沙子, 佐藤 あかり: 非侵襲的陽圧換気療法マスク装着患者の皮膚障害予防に対する看護師のケアの現状, 第53回日本看護学会各術集会, 2022年11月8日, 千葉県.
12. 水田 瞳, 系井 優理佳: スピリチュアルペインを抱えているがん終末期患者とのコミュニケーションにおける困難感の変化, 第22回日本死の臨床研究会中国・四国支部大会, 2022年5月15日, 鳥取県.
13. 中柴 里依, 池田 真実: 日勤帯における病室の環境整備についての意識調査, 第53回日本看護学会各術集会, 2022年11月8日, 千葉県.
14. 矢上 友理, 菊本 結香: 看護師からケアマネージャーへの情報提供の現状と課題, 第53回日本看護学会各術集会, 2022年11月8日, 千葉県.
15. 寺川 宏樹, 大下 千景, 赤澤 良太, 内村 祐子, 野村 秀一: 冠攣縮誘発試験において冠攣縮発作時にニトログリセリン投与をした場合に多枝攣縮の診断が低下するか?, 第119回日本内科学会総会, 2022年4月16日, web.
16. 寺川 宏樹: 心筋SPECT読影道場, 第30回日本心血管インターベンション治療学会, 2022年7月22日, パシフィコ横浜ノース.
17. 寺川 宏樹, 大下 千景, 内村 祐子: 深部静脈血栓症に対して血管内視鏡を施行した自験例のまとめ, 第35回日本心臓血管内視鏡学会総会, 2022.10月1日, 松山市総合コミュニティセンター.
18. Teragawa H, Oshita C, Uchimura Y: The impact of myocardial bridging on the coronary functional test in patients with non-

- obstructive coronary artery disease. JCS 2023, 2023年3月10日, 福岡.
19. Teragawa H, Oshita C, Uchimura Y: Coronary microvascular dilatatory dysfunction according to the type of coronary functional abnormalities. JCS 2023, 2023年3月12日, 福岡.
  20. 中山 宏文, 三重野 寛, 峠 誠司, 吉田 成人, 大原 英司, 城戸 聡一郎, 中尾 円, 円山 英昭: 最大径10mm未満の直腸内分泌腫瘍は内分泌細胞と粘膜筋板からなる過誤腫性病変である, 第111回日本病理学会総会, 2022年4月14日~16日, 神戸市 (4月28日から6月15日までオンデマンド開催)
  21. 中山 宏文, 大城 望史, 矢野 将嗣, 岡本 有三, 伊達 秀二, 市木 敏夫: 精索高分化型脂肪肉腫内に転移した原発性肺腺癌の一剖検例, 第111回日本病理学会総会, 2022年4月14日~16日, 神戸市 (4月28日から6月15日までオンデマンド開催)
  22. Hirofumi Nakayama (中山 宏文): Rectal neuroendocrine tumors less than 5mm in thickness are hamartomatous lesions, 第81回日本癌学会総会, 2022年9月29日~10月1日 (ライブおよびオンデマンド開催), 横浜市
  23. 中山 宏文, 三重野 寛, 峠 誠司, 吉田 成人, 大原 英司, 城戸 聡一郎, 中尾 円, 円山 英昭: G1相当の直腸神経内分泌腫瘍は内分泌細胞と周囲の平滑筋線維からなり, 線維形成を伴わない, 第54回日本臨床分子形態学会総会・学術集会, 2022年11月4日~5日, 長崎市.
  24. Ririno Honma, Masatsugu Yano, Hijiri Nakamura, Masami Ibuchi, Junto Hiraishi, Shuji Date, Hirofumi Nakayama, 本間 りりの, 矢野 将嗣, 中村 聖, 井瀨 真美, 平石 純斗, 伊達 秀二, 中山 宏文: A case of thyroid papillary carcinoma with peripheral mucoepidermoid component and non-neoplastic atypical rhabdomyocytes. 辺縁に非腫瘍性異型横紋筋細胞および粘表皮癌様像を伴う甲状腺乳頭癌の一例, 第68回日本病理学会秋季特別総会, 2022年11月17日~11月18日, 盛岡市 (11月28日から12月26日までオンデマンド開催)
  25. 中山 宏文, 矢口 裕子, 中村 聖, 井瀨 真美, 清水 文明, 川西 なみ紀, 長谷川 三智江, 田村 恭子, 古瀬 奈津美, 岡本 有三: 紙ベースでの病理診断報告書の既読確認に関して—2年超の実践報告—, 第76回日本交通医学会総会, 2022年6月4日~6月5日, 名古屋市.
  26. 野村 秀一, 田中 美和子, 豊田 浩美, 竹林 美津子, 大成 有美子, 今川 しのぶ, 宮本 晴子: 当院人間ドック受診者におけるJR職員と非JR職員との間の相違について, 第63回日本人間ドック学会学術大会, 2022年9月2日, web発表.
  27. 栗栖 貴子, 野村 秀一, 田中 美和子, 浅川 聡, 田中 美和: 当センターで行ったハイブリッド健診の受診者数増加による増収の取り組みについて, 第63回日本人間ドック学会学術大会, 2022年9月2日, web発表.
  28. D. Sumitani, T. Ohshiro, M. Shishida, M. Yano, Y. Okamoto: デジタルポスター, Our efforts to prevent anastomotic failure in surgery for rectal cancer, 第77回日本消化器外科学会総会, 2022/7/20-22, ハイブリッド開催・横浜市.
  29. 住谷 大輔, 豊島 幸憲, 志々田 将幸, 矢野 将嗣: 口演, DST再建を施行した直腸癌手術における縫合不全症例の検討, 第35回日本内視鏡外科学会総会, 2022/12/8-10, 名古屋市.
  30. 畝 知己: 一般演題「関節リウマチ治療薬投与患者のニューモシスチス肺炎症に対するリウマチ膠原病内科での検討」第66回日本リウマチ学会, 2022年4月25日-27日, 横浜市.
  31. 畝 知己: 一般演題「薬薬連携を土台とした退院時サマリーの運用と退院時薬剤情報管理指導の現状」, 第76回日本交通医学会, 2022年6月4日-5日, 名古屋市.
  32. 畝 知己: 一般演題「医療法人JR広島病院における2022年度診療報酬改訂後の骨粗鬆症サポートチーム活動について」, 第24回日本骨粗鬆症学会 2022年9月2日-4日, 大阪市.
  33. 畝 知己: 一般演題「医療法人JR広島病院における2022年度診療報酬改訂後の骨粗鬆症サポートチーム活動について」, 第24回日本骨粗鬆症学会 2022年9月2日-4日, 大阪市.
  34. 森脇 順子: 一般演題「心不全緩和目的でモル

ヒネ持続皮下注射を行いながら在宅での看取りを行った1例」, 第76回日本交通医学会, 2022年6月4日-5日, 名古屋市.

35. 黒島 眞太郎, 滝口 友理子, 川西 なみ紀: TSH抑制療法におけるFT4の目標値の検討, 第71回日本医学検査学会, 2022.5.21, 大阪市.
36. 五月女 有華, 宮里 麻鈴: 当科でOK-432硬化療法を行ったガマ種, 口唇のう胞症例, 第84回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会, 2022年7月8日, 広島市.

## 地方会(シンポジウム・ワークショップ)

1. 田中 信弘: 頸椎部神経根障害に対する治療—薬物療法からマイクロサージャリーまで—, 18回中国四国脊髄外科症例検討会, 2022年12月17日, 広島.
2. 小林 孝明: JR広島病院での骨粗鬆症外来の開設, 広島市東区骨粗鬆症連携講演会, 2022年11月24日, 広島.
3. 小林 孝明: 強剛母趾—母趾MTP関節の変形性関節症—, 第12回広島足の外科研究会, 2023年2月25日, 広島.

## 地方会(その他)

1. 河野 紘輝, 中本 尚希, 大可 直哉, 木戸口 元気, 細川 洋平, 荒木 慧, 石徳 理訓, 渡辺 裕文, 杉本 智裕, 吉田 雄介, 茂久田 翔, 平田 信太郎: Three Arrows Study (広島地区多施設共同T2T早期関節リウマチレジストリ研究)における患者背景と治療目標到達率の検討(中間報告3), 第33回日本リウマチ学会 中国・四国支部学術集会, 2022年12月2日, 下関.
2. 境田 祐太, 原 和信, 多根 正二郎, 坂本 直樹, 長久 拓矢, 三島 綾香, 西海 真吾, 宗美 淳志, 脊戸川内 稔, 越智 誠: 下肢血流量による定量評価~透析患者におけるPADスクリーニングの強化をめざして~, 第16回広島県臨床工学技士会学術大会, 2022年9月2日, 広島市.
3. 長久 拓矢, 原 和信, 多根 正二郎, 坂本 直樹, 三島 綾香, 西海 真吾, 境田 祐太, 宗美 淳志, 越智 誠: 抜針を視野に入れた警報範囲の検

討, 第31回中国腎不全研究会, 2022年12月19日.

4. 西海 真吾, 原 和信, 多根 正二郎, 坂本 直樹, 長久 拓矢, 三島 綾香, 境田 祐太, 宗美 淳志, 越智 誠: 血液透析における静的静脈圧の測定の確立と有用性の検討, 第31回中国腎不全研究会, 2022年12月19日.
5. 世良 有紗, 大田 遥, 田中 文香: 線維柱帯切除術後に生じた上脈絡膜出血の1例, 広島眼科症例検討会, 2023年3月9日, 広島.
6. 寺川 宏樹, 大下 千景, 内村 祐子, 野村 秀一: 冠動脈に有意狭窄を認めない胸痛患者において冠動脈微小血管抵抗指数(IMR)と関連する臨床指標は?, 第120回日本循環器学会中国・四国合同地方会, 2022年5月28日, 広島国際会議場.
7. 寺川 宏樹, 大下 千景, 内村 祐子, 野村 秀一: 多枝攣縮を有する冠攣縮性狭心症の臨床的特徴, 第120回日本循環器学会中国・四国合同地方会, 2022年5月28日, 広島国際会議場.
8. 寺川 宏樹, 大下 千景, 内村 祐子, 野村 秀一: 左室駆出率が保持された心不全患者におけるピロリン酸シンチグラフィ陽性患者の臨床的特徴について, 第120回日本循環器学会中国・四国合同地方会, 2022年5月28日, 広島国際会議場.
9. 前田 智郷: 肉眼的血尿で紹介された40歳代女性の1例, 第404回広島放射線診断カンファレンス, 2022年5月12日, 広島市.
10. 前田 智郷: 机の角でお腹をぶつけた60歳代男性の1例, 第419回広島放射線診断カンファレンス, 2022年11月10日, 広島市.
11. 前田 智郷: 膀胱癌に対するBCG注入療法の合併症について, 第421回広島放射線診断カンファレンス, 2022年12月8日, 広島市.
12. 宗岡 美沙: 一般演題「人参養栄湯の投与により栄養状態の改善がみられた心不全患者の一例」, 第14回日本臨床栄養代謝学会中国四国支部学術集会, 2022年8月27日, 広島市.
13. 下藪 彩子: 「ループスアンチコアグラントが一過性に陽性となった川崎病の1例」, 第211回小児科研修会, 2023年1月10日, 広島市.

14. 原田 耕輔, 桑原 隆一, 川西 なみ紀: 一般演題: MALDI Biotyperを用いた血液培養直接同定における前処理方法の検討: 第55回中四国支部医学検査学会, 2022年10月22-23日 広島市.
15. 中村 友美: 当院でのHCV陽性患者の拾い上げ: アッピィ合同会社主催中四国カンファレンス (WEB), 2022年10月22日, 広島.
16. 畝 知己: 一般演題「薬薬連携を土台とした退院時サマリーの運用と現状」, 第61回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会, 2022年11月5日-6日, 広島市.
17. 古川 涼香: 一般演題「国内第3～6波期における当院COVIT-19入院患者の比較検討」, 第61回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会, 2022年11月5日-6日, 広島市.
18. 前田 和彦: 一般演題「当院における感染症管理システム導入による抗菌薬適正使用への介入効果と課題」, 第61回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会, 2022年11月5日-6日, 広島市.
19. 森脇 順子: 一般演題「末期心不全～在宅看取りを行った1例～」, 第61回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会, 2022年11月5日-6日, 広島市.
20. 白井 郁嘉, 中山 宏文, 橋本 邦宏, 島津 千紗, 井上 勝己, 鶴飼 麟三, 伊達 秀二, 吉野 正: S2873腎門部腫瘍, 第140回日本病理学会中国四国支部学術集会, 2023年2月18日, 広島市.
21. 松重 英実佳, 園田 さおり, 中森 一司, 鈴川 彩路, 政池 美穂, 影山 奈美, 園本 拓彬, 影本 紀子, 宗岡 美紗, 滝口 友理子, 矢野 将嗣: とろみ調整食品の使用に関する当院の現状と課題, 第14回日本臨床栄養代謝学会中国四国支部学術集会, 2022年8月27日, 広島市.
2. 峠岡 康幸: 公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団・2022年度(前期)在宅医療における感染症対策の教育および啓発等への助成事業助成金授与
3. 越智 誠: かかりつけ医と取り組む腹膜透析連携, CKD診療 Up to Date in 東区, 2022年8月31日, 広島市 (ハイブリッド形式)
4. 田中 信弘: 骨粗鬆症性脊椎椎体骨折の診断と治療 一初期治療期における薬物療法の有用性一, アムジェン社員向けレクチャーミーティング, 2022年5月31日, 広島市.
5. 田中 信弘: JR広島病院整形外科の脊椎疾患への取り組み, Pain Care Seminar 広島, 2022年6月22日, 広島市.
6. 田中 信弘: JR広島病院の整形外科診療・地域連会の取り組みについて, 令和5年2月府中町医師会学術講演会, 2023年2月1日, 広島県安芸郡府中町.
7. 新田 由美子: 第3回TTT (Train the Trainer) in hand hygiene-Japan～WHO 手指衛生多角的戦略に基づく手指衛生指導者育成セミナー～, 一般社団法人日本環境感染学会, 2022年11月12日・13日, 大阪.
8. 新田 由美子: 感染症対策のための実地研修, 厚労省老健局「介護施設及び介護事業における感染症対策向上支援業務」, 2022年10月12日, 広島.
9. 新田 由美子: PPE (個人防護具) 着脱のポイント, 第32回JR広島病院地域医療をすすめる会, 2022年11月18日, 広島.
10. 園田 さおり: 高齢者と認知症患者への食支援, 第30回JR広島病院地域医療をすすめる会, 2022年8月26日, 広島.
11. 平田 ふき子: 褥瘡の発赤のみかたと浅い傷の治し方, 第30回JR広島病院地域医療をすすめる会, 2022年8月26日, 広島.
12. 山根 恵, 中村 歩, 系井 優理佳: 当院緩和ケア病棟でのACP (アドバンスケアプランニング), 第31回JR広島病院地域医療をすすめる会, 2022年9月9日, 広島.
13. 藤中 めぐみ: コロナ禍における環境整備につ

## 地域での社会活動

1. 峠岡 康幸: 広島県エイズ治療中核拠点病院等連絡協議会委員, 広島がん高精度放射線治療センター (HIPRAC) オープンカンファレンス (肺がん) 委員, 2022年6月13日開催.



- いて、第32回JR広島病院地域医療をすすめる会、2022年11月18日、広島。
14. 池元 智美：認知症の予防と早期発見、第33回JR広島病院地域医療をすすめる会、2023年1月13日、広島。
  15. 平泉 京子：レスキュードーズの効果的な使い方とアセスメント、第34回JR広島病院地域医療をすすめる会、2023年3月24日、広島。
  16. 飯塚 聖子：がん薬物療法の多様化する副作用を知る～早期発見・早期対応につなげるために～、第34回JR広島病院地域医療をすすめる会、2023年3月24日、広島。
  17. 吉田 成人：炎症性腸疾患の診断と治療、田辺三菱製薬株式会社講師招聘勉強会、2022年4月15日、広島市。
  18. 吉田 成人：腹部超音波検査、広島大学医学部医学科講義、2021年5月27日、広島市。
  19. 本間 りりの、吉田 成人、大原 英司、山科 敬太郎、峠 誠司、三重野 寛、中山 宏文：肛門線維上皮性ポリープの1例、第318回広島胃と腸疾患研究会、2022年10月18日、広島市。
  20. 沖政 盛治：「これからがこれまでを変えていく」～人生のシナリオ（アドバンスケアプランニング）を考える、広島市東区医師会主催東区在宅医療・介護連携推進事業 令和4年度市民公開講座、2022年12月11日、広島。
  21. 寺川 宏樹：PREMIER studyにおいて登録・followで気をつけている点、PREMIER study全体ミーティング、2022年05月12日 web。
  22. 寺川 宏樹：診断カテ中に慌てた症例—その際の手技・治療は適切だったのか？—Hiroshima New Year Conference 2022、2022年05月28日TKPガーデンシティ広島。
  23. 寺川 宏樹：CMD（VSAと微小循環狭心症）の臨床データについてPhysiology to the Future Forum in Hiroshia Round 5、2022年08月10日、TKPガーデンシティ広島。
  24. 寺川 宏樹：一次救命処置（BLS）—楽しく学びましょう—一般社団法人広島市東区医師会・広島市東区地域保健対策協議会「救急蘇生講習会」、2022年11月21日、JR広島病院。
  25. 寺川 宏樹：蘇生できなかったCPAの1例—救命できる手はあったでしょうか？— 2023年1月7日、New Year Conference in Hiroshima 2023、アンゼルセン広島。
  26. 寺川 宏樹：StatinとEzetimibeの併用についてLipid Conference in Hiroshima、2023年1月27日、グランビア広島。
  27. 寺川 宏樹：未来のビジョンに向けたメッセージ—心臓いきいき連携病院代表— 広島県心臓いきいき推進会議10周年記念大会 2023年02月12日 広島県医師会館。
  28. 内村 祐子：カテ後の薬物治療とフォローについて、第21回二葉の里循環器地域連携セミナー、2022年07月01日、第一三共中国支店。

## 研究会世話人

1. 峠岡 康幸：Asthma Network Hiroshima世話人、Hiroshima Airway Meeting世話人、地域医療 連携を考える会・呼吸器疾患のマネジメント世話人、研修医・若手医師呼吸器画像カンファレンス世話人。
2. 稲田 順也：地域医療連携を考える会・呼吸器疾患のマネジメント世話人、研修医・若手医師呼吸器画像カンファレンス世話人。
3. 越智 誠：中国腎不全研究会幹事、広島血液浄化カンファレンス世話人、広島アクセス懇話会世話人。
4. 田中 信弘：中四国MIS研究会世話人。
5. 小林 孝明：広島足の外科研究会世話人。
6. 矢野 将嗣：中国四国甲状腺外科研究会世話人、日本臨床栄養代謝学会中国四国支部世話人。
7. 鈴川 彩路：NSTを本音で語る会常任幹事。
8. 政池 美穂：NSTを本音で語る会幹事。
9. 戸政 達之：広島県医療情報技師会世話人、広島医療情報システム研究会世話人。
10. 阿津地 弘一：安芸R I倶楽部世話人、ひろしま核医学技術検討会世話人。

11. 野田 典孝：広島血管Imaging研究会世話人，広島臨床画像研修会世話人，全国循環器撮影研究会世話人。
12. 上田 菜水：広島フレッシュャーカレッジ世話人。
13. 吉田 成人：広島胃と腸疾患研究会。
14. 沖政 盛治：日本死の臨床研究会 中国・四国支部，広島がん疼痛治療研究会，広島在宅緩和ケア勉強会。
15. 寺川 宏樹：せとうち心臓核医学研究会，広島血液サラサラ研究会，広島高血圧生活習慣病研究会，広島循環器フォーラム21，広島心エコー研究会，広島PTT研究会，中国地区心血管画像研究会，中四国心血管内視鏡研究会。
16. 大下 千景：広島心エコー研究会。
17. 下藪 彩子：小児科研修会当番世話人，2022年4月～2024年3月。
18. 黒島 眞太郎：広島県臨床検査技師会 輸血検査研修会世話人，2022年7月9日。
7. 田中 信弘：13th Annual Meeting, Cervical Spine Research Society, Asia Pacific Section, Free Paper 16 Various Complication.
8. 田中 信弘：広島市東区骨粗鬆症連携講演会。
9. 矢野 将嗣：第14回日本臨床栄養代謝学会中国四国支部学術集会ポスター 3「褥瘡」。
10. 野田 典孝：第20回広島血管Imaging研究会デバイス講座，2023年2月25日。
11. 安村 純子：一般演題⑩ 自己炎症症候群・その他1，O-51～O-54，第31回日本小児リウマチ学会，2022年10月16日，新潟県。
12. 吉田 成人：第318回広島胃と腸疾患研究会，2022年10月18日，広島市。
13. 寺川 宏樹：大動脈からの全身塞栓症と臓器障害1（脳）コメンテーター Trans Catheter Imaging Forum 2022 2022年5月25日，web。
14. 寺川 宏樹：公募指定演題など 第35回日本心臓血管内視鏡学会総会 2022年10月1日，松山市総合コミュニティセンター。
15. 寺川 宏樹：バーチャル会場 内視鏡（研究）第35回日本心臓血管内視鏡学会総会，2022年10月1日。

## 座長

1. 越智 誠：Kowa Web カンファレンス，一般診療でみられる高カリウム血症のみかた，2022年5月12日
2. 田中 信弘：第138回中部日本整形外科学会災害外科学会・学術集会，症例報告10「脊椎疾患」。
3. 田中 信弘：第95回日本整形外科学会学術集会，一般演題口演「脊椎：脊椎脊髄疾患の診断」。
4. 田中 信弘：第37回日本整形外科学会基礎学術集会，一般演題 ポスター 39「画像解析・コンピューター：その他」。
5. 田中 信弘：日本腰痛学会，主題8「椎間板内酵素注入療法の適応と治療成績①」。
6. 田中 信弘：第138回中部日本整形外科学会災害外科学会・学術集会，ショートトーク 01「脊椎」。
16. 大下 千景：一般演題口述43 Echo 2 ディスカッション JCS 2023, 2023年3月12日, 福岡。
17. 中山 宏文：一般演題，第139回日本病理学会中国四国支部学術集会，2022年12月3日，広島市。
18. 中山 宏文：一般演題，第46回広島県臨床細胞学会総会，2022年5月28日，広島市。
19. 川西 なみ紀：第47回 広島県臨床細胞学会総会スライドカンファレンス 2023年3月4日。
20. 川西 なみ紀：第55回日本臨床衛生検査技師会中四国支部医学検査学会 ランチオンセミナー，2022年10月22-23日，広島市。
21. 桑原 隆一：第34回日本臨床微生物学会総会・学術集会一般演題（口演）2ESBL（2），2023年2月3-5日，横浜市

## 論文査読

1. 峠岡 康幸 : Taylor and Francis Journal of COPD(UK) 3編, BMJ Case Reports 3編(UK) Willey Clinical Case Reports(UK) 3編, Dove International Journal of COPD(UK) 3編,
2. 田中 信弘 : Journal of Orthopaedic Science 8編, Spine Surgery and Related Research 1編, Asian Spine Journal 1編, European Journal of Orthopaedic Surgery & Traumatology 1編, 日本脊椎脊髄病学会抄録査読, Cervical Spine Research Society, Asia Pacific Section Abstract review
3. 安村 純子 : Modern Rheumatology 5編 (うち再査読2回), Clinical Rheumatology 1編, Clinical Ophthalmology 1編, Ocular Immunology and Inflammation 1編, Pediatrics International 1編
4. 寺川 宏樹 : 93編 (Advance in Therapy: 6編, Antioxidant 5編, BMJ Case Report: 1編, Cardiovascular Drug and Therapy: 4編, Cells: 1編, Circulation Journal: 1編, Clinical case reports: 6編, Cureus 3編, Current Medical Imaging: 1編, Diagnostic: 9編, European Cardiology Review: 2編, European Journal of Preventive Cardiology: 1編, Frontiers in Cardiovascular Medicine (Associate editor in coronary artery disease, Review editor in cardiovascular metabolism): 15編, Frontiers in Endocrinology: 1編, Healthcare: 1編, Journal of Cardiology: 1編, Journal of Cardiovascular Development and Disease: 6編, Journal of Clinical Medicine: 3編, Journal of Multidisciplinary Healthcare: 1編, Life: 3編, Qeios: 1編, Quantitative Imaging in Medicine and Surgery: 1編, Research Reports in Clinical Cardiology: 1編, Risk management and healthcare policy: 1編, Vascular health and risk management: 1編, World Journal of Cardiology (Editorial Board): 3編, World Journal of Clinical Cases: 11編, World Journal of Gastroenterology: 2編, World Journal of Radiology: 1編) 広島医学編集委員, 日本循環器学会総会抄録査読, ACP日本支部年次総会・講演会2022抄録評価, European Society of Cardiology Abstract Review Committee, American Heart Association Abstract Review Guest editor: Advances in Coronary Heart Disease, Life Cardiac Catheterization: Clinical Updates and Novel Technologies, Reviews in Cardiovascular Medicine
5. 大下 千景 : 日本循環器学会総会抄録査読
6. 中山 宏文 : 「Medical Molecular Morphology (Springer)」2編 (4回 (うち再査読2回)), 「日本臨床細胞学会雑誌」1編 (2回 (うち再査読1回)), 「交通医学」1編 (1回)「広島県臨床細胞学会誌」1編 (2回 (うち再査読1回))
7. 川西 なみ紀 : 広島県臨床細胞学会雑誌 1編

## 役員・評議員等

1. 峠岡 康幸 : 日本内科学会中国支部評議員, 日本呼吸器学会中国・四国代議員, 日本肺癌学会中国・四国評議員, 日本交通医学会評議員, 日本内科学会査読委員 (J-OSLER病歴要約二次評価審査委員), 米国内科学会日本支部 International Exchange Program Committee 委員, Editorial board, Journal of Respiratory Research (Hong Kong).
2. 田中 信弘 : 日本脊椎脊髄病学会理事, 国際頰椎学会日本機構理事, 日本脊髄機能診断学会理事, 日本整形外科勤務医会幹事, 日本腰痛学会評議員, 中部日本整形外科災害外科学会評議員, 日本脊椎インストゥルメンテーション学会評議員, 中国・四国整形外科学会代議員, 日本交通医学会評議員, 日本最小侵襲脊椎治療学会評議員, AO Spine Japan Delegates (代議員)
3. 矢野 将嗣 : 日本臨床栄養代謝学会学術評議員, NSTを本音で語る会常任幹事, 広島NST研究会幹事
4. 吉田 成人 : 日本消化器内視鏡学会学術評議員, 日本消化器病学会学会評議員, 日本消化器がん検診学会代議員, 日本消化器内視鏡学会, 和文誌編集委員会 査読委員, 広島市東区医師会福祉・広報委員会委員, 広島市東区医師会災害・救急医療委員会委員
5. 寺川 宏樹 : 日本交通医学会評議員, 日本心血管内視鏡学会評議員, 日本内科学会病歴要約評価委員, 日本内科学会中国支部評議員, 日

本心血管インターベンション治療学会中四国支部運営委員，日本循環器学会中国支部評議員，日本循環器学会中国支部医療事故調査制度派遣医師候補者

6. 中山 宏文：一般社団法人日本病理学会 学術評議員，公益社団法人日本臨床細胞学会 評議員（査読委員 兼務），日本臨床分子形態学会 評議員（刊行雑誌「Medical Molecular Morphology」査読委員 兼務），日本交通医学学会 評議員・学会誌「交通医学」編集委員，日本交通医学学会 学会誌「交通医学」編集委員，Reviewer Board Member of Japanese Journal of Clinical Oncology (JJCO)，広島県臨床細胞学会・役員（理事），広島県医師会臨床検査精度管理推進委員会・委員，広島がん治療研究会・幹事，広島市医師会東区第四支部・世話人，広島市医師会腫瘍統計委員会・委員，広島市東区医師会学術委員会・委員
7. 下蘭 彩子：県小児科医会勤務委員会副委員長，広島市中心臓検診判定委員
8. 川西 なみ紀：一般社団法人広島県臨床検査技師会 理事，学術副部長，学術誌編集委員長，公益社団法人日本臨床細胞学会評議員，公益社団法人日本臨床細胞学会都道府県細胞検査士会代表者委員会委員，細胞検査士資格認定試験・一次試験問題作成委員，日本交通医学学会 評議員
9. 桑原 隆一：日本臨床微生物学会評議員，日本臨床微生物学会認定臨床微生物検査技師制度試験問題作成ワーキンググループ委員，広島県結核予防推進会議委員
10. 岡田 卓也：一般社団法人広島県臨床検査技師会情報システム委員会委員，一般社団法人広島県臨床検査技師会精度管理委員会サポート委員
11. 滝口 友理子：一般社団法人広島県臨床検査技師会 学術部 総合管理部門 部門員
12. 黒島 眞太郎：一般社団法人広島県臨床検査技師会輸血部門委員，広島県医師会精度保証推進委員会ワーキンググループ輸血部門委員
13. 本田 秋奈：一般社団法人広島県臨床検査技師会広報部 部員
14. 溝口 知子：一般社団法人広島県臨床検査技師

会広報部 部員

## 公募講習会

1. 矢野 将嗣：第16回広島PDNセミナーワークショップ①胃瘻造設・交換
2. 寺川 宏樹：AHA BLSコースインストラクター4回，ACLSコースインストラクター：3回，日本内科学会内科救急・ICLS講習会（JMECC）ディレクター 3回，インストラクター 4回，ICLSコースディレクター 3回，共用試験医学系臨床実習前OSCE2回（東邦大学，島根大学）
3. 黒島 眞太郎：広島県医師会精度保証推進委員会，第43回向上研修会輸血部門講師，2023年3月5日

## 院内研究会

1. 峠岡 康幸：JR広島病院クリニカルパス委員会勉強会，COVID-19の治療，2022年7月15日。
2. 峠岡 康幸：JR広島病院研修医セミナー，下気道感染症の抗生剤治療について，2022年8月2日。
3. 田中 信弘：腰椎椎間板ヘルニアに対する新しい椎間板内酵素注入療法，JR広島病院医局会勉強会，2022年10月6日。
4. 田中 信弘：脊椎・脊髄疾患治療の最前線 一当院での新たな試み一，令和4年度 JR広島病院教育研修会，2023年1月25日。
5. 森岡 理恵子：褥瘡の治療について，褥瘡研修会，2022年6月24日。
6. 桂 ゆかり，佐藤 愛美：血液透析患者のシャントの自己管理についての実態調査，広島東支部研究発表会，2023年2月25日，広島市。
7. 政池 美穂：褥瘡における栄養管理，2022年度JR広島病院院内認定看護師褥瘡ケア教育課程，2022年7月29日，広島市。
8. 佐藤 正子：褥瘡予防のためのポジショニング～背臥位を中心に～ 褥瘡対策委員会主催研

修会，2023年2月22日。

9. 吉田 成人：炎症性腸疾患の診断と治療，研修医勉強会，2022年6月2日。
10. 渡部 早織，玖島 葉月，系井 優理佳：JR広島病院における一般急性期病棟看護師に対するがん患者へのレスキュードーズ使用に関する調査，令和4年度JR広島病院看護研究発表会，2023年1月21日。
11. 島田 久美，西原 安友美：コロナ病棟でのレッドゾーン滞在による看護師の心身への負担の実態，令和4年度JR広島病院看護研究発表会，2023年1月21日。
12. 桂 ゆかり，佐藤 愛美：血液透析患者のシャントの自己管理についての実態調査，令和4年度JR広島病院看護研究発表会，2023年1月21日。
13. 垣内 志穂，矢上 友理：入院生活における2型糖尿病患者の間食に関するストレスへの対処方法の実態について，令和4年度JR広島病院看護研究発表会，2023年1月21日。
14. 谷口 舞莉，松浦 真弓：コロナ禍で面会禁止である現在，術後せん妄を引き起こした高齢患者対応時に感じる看護師の困難感と対応方法，令和4年度JR広島病院看護研究発表会，2023年1月21日。
15. 柳澤 友希乃，倉本 遥香：病棟に勤務する2年目，3年目看護師を対象とした看護技術における自信度調査，令和4年度JR広島病院看護研究発表会，2023年1月21日。
16. 藤岡 美咲，二上 彩夏，橋元 祐衣：患者へのシリンジによる食事介助に対する介助者のジレンマについて，令和4年度JR広島病院看護研究発表会，2023年1月21日。
17. 蔵本 理乃，丸谷 茜：前立腺全摘術を受けた患者の排尿障害に関する実態調査～患者の不安を軽減していくために～，令和4年度JR広島病院看護研究発表会，2023年1月21日。
18. 寺川 宏樹：胸痛の鑑別，研修医勉強会，2022年5月13日。
19. 寺川 宏樹：糖尿病教室，2022年11月15日。

20. 寺川 宏樹：院内での一次救命処置 ビデオ視聴。
21. 川西 なみ紀：臨床検査について，継続教育委員会新人看護研修会，2023年1月13日。
22. 黒島 眞太郎：輸血療法について，継続教育委員会新人看護研修会，2023年1月13日。

## その他

1. 峠岡 康幸：家庭医と研修医のための高齢者在宅医療感染症治療マニュアル，銀河書籍・ニシダ印刷，大阪，1-50，2023。
2. 峠岡 康幸：TEACH-IN寄稿 カーブ新チームへの期待，広島市医師会だより3月号，2023年3月。
3. 矢野 将嗣：広島市医師会だより2月号焦点：甲状腺手術後も美しい声を保つために！JR広島病院での甲状腺外科医の取り組み。
4. 森岡 理恵子：関節症性乾癬の治療選択，広島皮膚病理組織検討会，2022年11月17日。
5. 鈴川 彩路，政池 美穂：半固形化流動食のいろいろ，第16回広島PDNセミナーワークショップ，2022年7月16日，広島市。
6. 鈴川 彩路，政池 美穂，園田 さおり，松前 愛，吉川 美幸，中森 一司，影山 奈美，滝口 友理子，矢野 将嗣：当院における嚥下調整食分類の認知度調査，第20回広島NST研究会Award，2022年10月22日，広島市。
7. 安村 純子：小児リウマチ性疾患の診断と治療，旭化成社内教育講習会，2022年4月12日，広島市（旭化成ファーマ）。
8. 安村 純子：どのような時に自己炎症性疾患を疑うか？，ノバルティスファーマ社内講習会，2022年8月9日，広島市（ノバルティスファーマ）。
9. 藤井 貴允：一般社団法人日本パラクライミング協会スタッフ。
10. 寺川 宏樹：編集後記，広島医学 2022 75: 276。

11. 森脇 順子：ディスカッション「末期心不全～在宅看取りを行った1例～」, 明日からの心不全連携を考える会, 2022年12月2日, 広島市.
12. 中山 宏文：特集 戦争と平和 第二次世界大戦以降の平和な日本を持続させるために, 広島市医師会だより8月号, 2022年8月.

## » IV 2022年度の動き

# 2022年度 主な行事

## 院内の出来事

## 社会の出来事



採用辞令交付式（4月）

- ・採用辞令交付式
- ・新入職員研修
- ・永年勤続表彰式

4月

- ・ロッテ佐々木朗希、28年ぶり完全試合達成
- ・知床半島沖で観光船沈没



新入職員研修（4月）

- ・第1回看護師採用WEB説明会

5月

- ・沖縄復帰50年
- ・大谷翔平、メジャー通算100号ホームラン



新入職員研修（4月）

- ・第1回看護師採用試験
- ・第2回看護師採用WEB説明会

6月

- ・新型コロナウイルス感染症に対する水際対策を緩和、外国人観光客の受け入れ拡大



新入職員研修（4月）

- ・第2回看護師採用試験

7月

- ・羽生結弦、現役引退
- ・第167回 直木賞「夜に星を放つ」（窪美澄）
- ・第167回 芥川賞「おいしいごはんが食べられますように」（高瀬隼子）



永年勤続表彰式（4月）

- ・医療安全必須研修会
- ・研修医採用試験
- ・患者満足度調査実施

8月

- ・夏の全国高校野球、仙台育英高校春夏初優勝



退職辞令交付式（7月）

- ・接遇研修会
- ・勤怠管理システム導入

9月

- ・エリザベス女王崩御、チャールズ新国王即位
- ・安倍晋三元首相の国葬
- ・日中国交正常化から50周年



## 院内の出来事

## 社会の出来事



採用内定通知書授与式 (10月)

- ・採用内定通知書授与式

10月

- ・スピードスケート小平奈緒、現役引退
- ・オリックス26年ぶり日本一
- ・ヤクルト村上56塁打・三冠王
- ・「産後パパ育休」がスタート



採用内定通知書授与式 (10月)

- ・新人職員フォローアップ研修

11月

- ・「風流踊」ユネスコ無形文化遺産に登録
- ・442年ぶり皆既月食と天王星食同時観測



新入職員研修 (11月)

- ・優秀職員表彰式
- ・仕事納め

12月

- ・W杯アルゼンチン優勝
- ・2022年 漢字「戦」
- ・2022年 流行語大賞「村神様」
- ・巖島神社大鳥居「令和の大改修」終了



新入職員研修 (11月)

- ・仕事始め

1月

- ・駒沢大、箱根駅伝総合優勝
- ・第168回 直木賞  
「地図と拳」(小川哲)
- 「しろがねの葉」(千早茜)
- ・第168回 芥川賞  
「この世の喜びよ」(井戸川射子)
- 「荒地の家族」(佐藤厚志)



優秀職員表彰式 (12月)

- ・院内改善プロジェクト成果報告会

2月

- ・上野動物園パンダ、シャンシャン中国返還



退職辞令交付式 (3月)

- ・病院機能評価受審
- ・院内感染対策必修研修会

3月

- ・車いすテニス国枝慎吾、国民栄誉賞受賞
- ・文化庁が京都に移転し、業務開始
- ・侍ジャパン14年ぶりWBC優勝

# 編集後記

JR広島病院2022年度年報をお届けします。

田妻病院長による巻頭言、診療科および部門別紹介、そして業績集から構成されています。本年度も病院のホームページにアップロードしたPDFファイルをダウンロードしてご覧いただくことになっております。

いままでと同様、年度の業務実績を含む各診療科および部門の紹介は、ホームページをベースとして、部門責任者に依頼し、記載していただきました。ご協力誠にありがとうございました。2020年度および2021年度に比し、学会地方会の一部が対面あるいはWEB開催で再開され、若手職員が学術活動をスタートしやすくなった印象を受けます。全国学会では、「一般演題は対面、特別講演、およびシンポジウムは対面、ライブWEBとオンデマンド配信、そして専門医共通講習はオンデマンド配信」が常態化し、参加しやすくなりました。

業績集は、幅広く職員の活動を拾い上げる、すなわち「全職員の氏名が、業績集のどこかに必ず見られるようにする」をモットーにしています。論文（欧文、邦文）、国際学会発表、および特別講演のみならず、国内の学会発表（地方会を含む）、院内での教育研修的講演・研究発表、学会や研究会での座長、論文査読、学会（含地方会）での役員等としての活動、そして地域での社会貢献や職員向けの院内研修会での発表を加えました。全職員（医師、薬剤師、看護師、全技士職および事務部）による、日々の診療および診療支援業務に根ざした学会発表・論文、院内外での社会貢献の一覧であり、先の診療科・部門紹介と相補的です。

市中病院のスタッフは、職種を問わず、「何を研究しようか」と研究テーマに悩む必要がありません。教科書通りに診断・治療できない非定型的な症例への対応（診断、治療、ケア等）、および日々の業務そのものがテーマになります。非定型的な症例の報告、集積した類似症例の解析結果、そして日々の業務の改善等を、それぞれの職種の専門の学会で発表し、内容が原著論文として雑誌に掲載されることで、知見が地域や国内で共有されます。欧文論文や欧文抄録必須の和文論文作成は、従来の専門業者による英文校正や翻訳ソフトに加え、ChatGPTが汎用されるようになり、敷居が低くなりました。

原稿作成にご尽力いただいた全職種の皆様、誠にありがとうございました。近隣の医療機関および地域の皆様に当院を深くご理解いただくための媒体として、今後も年報を充実させていきます。御意見をお寄せください。

広報委員会（年報編集担当）委員長  
中山 宏文

## JR広島病院 年報（2022年度）

---

発行日 2023年11月  
発行者 JR広島病院  
〒732-0057  
広島市東区二葉の里三丁目1番36号  
TEL 082-262-1170

---

製 作 株式会社ニシキプリント



**2022**  
**MEDICAL CORPORATION**  
**JR HIROSHIMA HOSPITAL**